

第 93 期社員総会

議案 第 1 号

議案 第 2 号

第 93 期 会 務 報 告 書

自 平成 3 1 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 3 1 日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

目次

I. 法人の概況

1. 設立年月日	1
2. 定款に定める目的	1
3. 定款に定める事業内容	1
4. 所管官庁に関する事項	1
5. 主たる事務所・支部の状況	1
6. 会員に関する事項	2
(1) 会員異動表	2
(2) 支部別正会員数	2
(3) 論文集予約購読者数	2
7. 役員に関する事項	3
(1) 役員	3
8. 支部運営委員に関する事項	4
(1) 北海道支部	4
(2) 東北支部	4
(3) 中部支部	5
(4) 北信越支部	5
(5) 近畿支部	6
(6) 中国・四国支部	6
(7) 九州支部	6
9. 職員に関する事項	7

II. 事務報告

1. 総会に関する事項	8
2. 役員会等に関する事項	8
3. 登記・契約に関する事項	16
4. 規程に関する事項	17
5. 新設委員会に関する事項	18
6. 他学会・協会との連携に関する事項	19

III. 事業報告

1. 理事管掌委員会一覧	23
2. 委員会	24
(1) 法人運営	24
(2) 会員情報管理	27
(3) 北海道支部	28
(4) 東北支部	31
(5) 中部支部	34
(6) 北信越支部	38
(7) 近畿支部	43
(8) 中国・四国支部	47
(9) 九州支部	49

3.資格付与の実施に関する事項	52
(1)設備士資格検定委員会	52
(2)設備士資格検定試験	52
4.技術開発・研究開発の実施に関する事項	53
(1)規格制定事業	53
5.講座・セミナーの実施に関する事項	55
(1)教育普及事業	55
(2)学術事業	56
(3)CPD事業	58
(4)各種会合	59
6.調査・資料収集の実施に関する事項	60
(1)学術調査研究事業	60
(2)国際交流に関する事項	86
(3)出版物発行に関する事業	87
(4)刊行物に関する事項	91
(5)学会誌掲載内容内訳	92
(6)出版物出庫部数	93
7.表彰の実施に関する事項	95
(1)表彰事業	95
(2)空気調和・衛生工学会賞	96
(3)特別賞「十年賞」、「リニューアル賞」	98
(4)空気調和・衛生工学会振興賞	98
(5)功績賞	101
(6)篠原記念賞	101
(7)井上宇市記念賞	102
 IV. 会 計 報 告	
1.財務諸表報告	103
(1)貸借対照表	103
(2)正味財産増減計算書	104
(3)財務諸表に対する注記	106
(4)付属明細書	107
(5)財産目録	108
 監査報告	110

I.法人の概況

1. 設立年月日 大正6年(1917年)7月28日

2. 定款に定める目的

第3条 この法人は、空気調和、衛生、環境、エネルギー等に関する工学、技術の研究の連絡提携及び促進をはかり、もって学術、文化の発展に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究発表会及び学術講演会、学術集会の開催
- (2) 講習会、見学会、セミナー、シンポジウム、研修会等の開催
- (3) 会誌、論文集、研究報告、資料その他の刊行
- (4) 調査、資料収集、情報収集、データベース作成
- (5) 研究、開発、技術開発、システム開発、ソフト開発
- (6) 研究・調査の援助、奨励
- (7) 技術基準の制定、技術検査の支援、助言
- (8) 論文・報文、技術の業績の表彰
- (9) 技術者資格の認定、空気調和、衛生、環境、エネルギー等の技術に関するコンテスト、政策提言
- (10) 学術・技術資料・文献の所蔵、公開
- (11) 空気調和、衛生、環境、エネルギー等に関する知識の社会への普及と展示会その他による広報
- (12) 国内外の関連学術団体との協力及び連携
- (13) その他この法人の目的を達成するための必要な事業

第40条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

4. 所管官庁に関する事項

内閣府(平成24年3月19日認定書受理、平成24年4月1日より公益社団法人)

5. 主たる事務所・支部の状況

①主たる事務所(定款第2条) 東京都新宿区神楽坂4丁目8番地 神楽坂プラザビル4階

②支部(定款第37条)

北海道支部	北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院 空間性能システム部門 空間性能分野
東北支部	宮城県仙台市青葉区本町3丁目5番22号 宮城県管工事会館3階
中部支部	愛知県名古屋市中区錦1丁目7番31号 山田ビル3階
北信越支部	石川県金沢市御影町10番7号 菱機工業㈱内
近畿支部	大阪府大阪市住之江区南港北2丁目1番10号 ATC/ITM 棟11階
中国・四国支部	広島県広島市中区大手町3丁目8番22号 広島管工事会館内
九州支部	福岡県福岡市中央区天神2丁目3番10号 天神パインクレスト622号

6. 会員に関する事項

(1) 会員異動表

令和2年3月31日現在

種別	前期末 a)	資格取得者			小計	資格喪失者			小計	調整	当期末 b)	前期末比 増減 a)-b)
		入会*	資格変更	復活		退会	資格喪失 ・除名	死亡				
正会員	14,469	760	46	29	835	719	102	3	824	-6	14,474	5
名誉会員	29	0	3	0	3	0	0	0	0	0	32	3
特別会員	32	0	9	0	9	0	0	0	0	0	41	9
学生会員	353	195	-58	0	137	106	24	0	130	-13	347	-6
小計	14,883	955	0	29	984	825	126	3	954	0	14,894	11
賛助1級	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0
賛助2級	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0
賛助3級	50	1	0	0	1	0	0	0	0	0	51	1
賛助4級	376	14	0	0	14	14	0	0	14	0	376	0
小計	482	15	0	0	15	14	0	0	14	0	483	1
合計	15,365	970	0	29	999	839	126	3	968	0	15,377	12

※第94期 4月理事会入会承認分を含む

(2) 支部別正会員数

支部名	北海道 支部	東北 支部	中部 支部	北信越 支部	近畿 支部	中国・四国 支部	九州 支部
会員数*	439	615	1,270	548	2,036	619	938

※第94期 4月理事会入会承認分を含む

(3) 論文集予約購読者

種別	前期末a)	入会*	資格喪失者	調整	当期末b)	前期末比 増減 a)-b)
正会員	531	86	97	-4	516	-15
学生会員	51	9	23	0	37	-14
賛助会員	42	0	1	0	41	-1
合計	624	95	121	-4	594	-30

※第94期 4月理事会入会承認分を含む

7. 役員に関する事項

(1) 第93期役員

役職名	担当職務	氏名	所属区	就任年月日	手 当	現 職	備 考
代表理事	会長	田辺 新一	1	平30.5.11	なし	早稲田大学	平28.5.12就任
同	副会長	大塚 雅之	1	平30.5.11	なし	関東学院大学	
同	副会長	堀川 晋	1	平30.5.11	なし	(株)日建設計	
同	副会長	佐々木洋二	1	令元.5.10	なし	ダイダン(株)	
業務執行理事	総務	熊谷 智夫	1	平30.5.11	なし	大成建設(株)	
同	総務	佐原 恭彦	1	令元.5.10	なし	新菱冷熱工業(株)	
同	財務	飯嶋 和明	1	平30.5.11	なし	三機工業(株)	
同	財務	片平 義和	1	令元.5.10	なし	清水建設(株)	
同	学術	下田 吉之	6	平30.5.11	なし	大阪大学大学院	
同	学術	長井 達夫	1	平30.5.11	なし	東京理科大学	
同	学術	中野 淳太	1	令元.5.10	なし	東海大学	
同	教育普及	田之頭健一	1	平30.5.11	なし	東京ガス(株)	
同	教育普及	柳原 茂	1	平30.5.11	なし	東洋熱工業(株)	
同	教育普及	油谷 康史	1	令元.5.10	なし	(株)久米設計	
同	技術	河路 友也	4	平30.5.11	なし	愛知工業大学	
同	技術	鍵 直樹	1	令元.5.10	なし	東京工業大学	
同	技術	片山 茂克	6	令元.5.10	なし	ダイダン(株)	
同	出版	河野 仁志	1	平30.5.11	なし	(株)朝日工業社	
同	出版	永田 久子	6	平30.5.11	なし	(株)東畑建築事務所	
同	出版	安田 健一	1	令元.5.10	なし	(株)三菱地所設計	
同	会員・情報	久保田克己	2	平30.5.11	なし	(株)北海道日建設計	
同	会員・情報	荒木 誠一	1	令元.5.10	なし	(株)大気社	
同	会員・情報	衛藤 一典	8	令元.5.10	なし	高砂熱学工業(株)	
同	北海道支部担当	長野 克則	2	令元.5.10	なし	北海道大学大学院	支部長
同	東北支部担当	渡邊 浩文	3	令元.5.10	なし	東北工業大学	支部長
同	中部支部担当	齋藤 輝幸	4	令元.5.10	なし	名古屋大学大学院	支部長
同	北信越支部担当	堀 祐治	5	平30.5.11	なし	富山大学	支部長
同	近畿支部担当	近藤 明	6	令元.5.10	なし	大阪大学大学院	支部長
同	中国・四国支部担当	西名 大作	7	令元.5.10	なし	広島大学大学院	支部長
同	九州支部担当	依田 浩敏	8	平30.5.11	なし	近畿大学	支部長
監 事		西村 英樹	1	平30.5.11	なし	(一財) ヒートポンプ・蓄熱センター	
同		竹内 信弘	1	令元.5.10	なし	新日本空調(株)	

8. 支部運営委員に関する事項

(1) 北海道支部

支 部 長	長野 克則							
副 支 部 長	久保田克己							
総 務 幹 事	若林 齊	葛 隆生	菊田 弘輝					
会 計 幹 事	羽山 広文							
事 業 幹 事	小柳 秀光 斎藤 雅也 阪田 義隆 白土 博康	本間 康雄 丹保 洋人 小原 伸哉 武田 清賢	宮本 一英 山本 進 李 相逸 水野 恭一	甲斐 至 野川 貴史 魚住 昌広 林 達也	山本 進 末松 辰朗 栞原 浩平			
有 識 者	荒谷 登 高松 康二 持田 徹	伊藤 健二 谷口 博 濱田 靖弘	岡垣 理 羽山 広文	落藤 澄 半澤 久	窪田 英樹 平間 登			

(2) 東北支部

支 部 長	渡邊 浩文							
副 支 部 長	小林 光	田原 誠						
総 務 幹 事	金田 清満	及川 義信	荒川 博之					
会 計 幹 事	庄司 恒久	小林 照和	牧野 泰弘					
事 業 幹 事	赤井 仁志	石島 和明	菅原 正則	須藤 諭				
事 業 委 員	岩渕 克也 後藤 正徳 鈴木 道哉 早瀬 訓	岡田 誠之 小林 仁 須知 秀行 山田 英明	神鳥 博俊 小山 琢 谷 博之 渡邊 東一	許 雷 佐々木 修 月野 智弘				

(3) 中部支部

支 部 長	齋藤 輝幸					
副 支 部 長	河路 友也 (研究・国際交流担当)					
”	田上 賢一 (総務・会計/事業担当)					
総 務 幹 事	田上 賢一 (総務代表)					
”	池谷 誠 大野 剛志 大場 章晴 加藤 伯彦 野瀬 久和 ^{※1}					
	山田 宏 ^{※1}					
	(※1: 会計兼務)					
会 計 幹 事	閑林 憲之 (会計代表)					
事 業 幹 事	山内 祥司 (教育普及事業代表)					
(教育普及事業)	河村 英之 大野 智之 村井 義照 菱田 誠 水田 亜紀					
事 業 委 員	青木 哲 (学術事業代表)					
(学術事業)	北野 博亮 吉永 美香					

(4) 北信越支部

支 部 長	堀 祐治 (富山) (本部理事兼務)					
副 支 部 長	高村 秀紀 (長野) 垂水 弘夫 (石川)					
	熊谷 郁郎 (富山)					
総 務 幹 事	◎鈴木 啓泰 (石川) 田村 巖 (新潟) 山田 龍彦 (福井)					
会 計 幹 事	◎猪野毛 淳 (富山) ◎松本 幸保 (長野) 土井 信博 (石川)					
事 業 幹 事	◎中川 勝弘 (新潟) ◎桃井 良尚 (福井)					
学術委員会 委員長	坂口 淳 (新潟)					
学 術 委 員	堀 祐治 (富山) 高村 秀紀 (長野) 円井 基史 (石川)					
	桃井 良尚 (福井) 内藤 祐輔 (福井)					
名 誉 会 員	村島外三雄 (石川) 西村 豊治 (富山)					
特 別 会 員	浅野 良晴 (長野)					
代 議 員	高村 秀紀 (長野) 鈴木 啓泰 (石川) 中川 勝弘 (新潟)					
	桃井 良尚 (福井)					
	(※◎印は各県代表)					

(5) 近畿支部

支 部 長	近藤 明						
副 支 部 長	下田 吉之	永田 久子					
総 務 幹 事	浅野 勝弘						
会 計 幹 事	山本 雅洋	白木 一成					
事 業 幹 事	下田 吉之	永田 久子					
委 員	山口 容平 益田 佳典 片山 茂克	小椋 大輔 太田 昭彦	近本 智行 木虎 久隆	河野 良坪 山中 俊夫			

(6) 中国・四国支部

支 部 長	西名 大作						
副 支 部 長	大枝 隆介	坂本 和彦					
総 務 幹 事	横田 秀樹	松田 啓二	中瀬 実	八木 崇郎			
会 計 幹 事	岡石 隆	角廣 誠	兼崎 智				
事 業 幹 事	川島 敏彦 保森 博美	小金井 真 牧本 浩明	田中 成幸	中川 信一			

(7) 九州支部

支 部 長	依田 浩敏						
副 支 部 長	北山 広樹	林 徹夫	藤井 修				
総 務 幹 事	衛藤 一典	楠本 晃典					
会 計 幹 事	佐藤 健司	中村 繁年					
事 業 幹 事	小島 昌一	白石 靖幸					
賛助会会長	前田 慶太						
本 部 理 事	依田 浩敏	衛藤 一典					

9. 職員に関する事項

事務局職員は、事務局長 1名、書記11名、計 12名である。

職員	当期末職員数	前期末比増減
男性職員	7	0
女性職員	5	-1
合 計	12	-1

職 務	氏 名	主な担当事業	備考	
事務局長	杉山 敦	法人運営、会員・情報管理全般 公益目的の事業全般 事務局統括	常勤	
事業グループ	リーダー	中出智英子	出版物発行业務	同
	グループ員	半田 務	学術事業、CPD事業、資格検定事業、学術調査研究事業、国際交流事業	同
	グループ員	桐戸 可奈	教育普及事業、CPD事業、学術調査研究事業	同
	グループ員	小池 陽介	教育普及事業、学術事業、資格検定事業、国際交流事業	同
	グループ員	小泉 幸子	出版物発行业務、規格制定事業	同
	グループ員	島村 千尋	出版物発行业務、規格制定事業	同
管理グループ	リーダー	谷地 史孝	会員業務、情報業務、表彰事業	同
	グループ員	大津 良裕	会員業務、情報業務	同
	グループ員	影山 英樹	財務業務	同
	グループ員	高瀬 直紀	財務業務	同
	グループ員	大窪 尚子	会務業務	同

注：組織図に基づく表示

II. 事務報告

1. 総会に関する事項

1.1 社員総会

日 時	令和元年5月10日(金)午後1時00分～午後2時00分		
場 所	東京都港区元赤坂2丁目2番23号 明治記念館「富士の間」		
出席者数等	社員現在数	14,316名	
	総会成立定足数	9,545名	
	本人出席社員数	125名	
	議決権提出者数	10,281名	
	出席社員総数	10,406名	

総会の目的	議案 第1号	第92期会務報告承認の件	(承認)
	同 第2号	第92期収支決算報告承認の件	(承認)
	同 第3号	第93期役員選任の件	(承認)
	同 第4号	名誉会員・特別会員推薦の件	(承認)
	同 第5号	定款改定の件	(承認)
	報告 第1号	第93期事業計画の報告	(了承)
	同 第2号	第93期収支予算の報告	(了承)

2. 役員会等に関する事項

2.1 役員会

理事会(平成31年度第1回)平成31年4月19日(金) 本学会会議室

I. 審議事項

(1) 会長

① 知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会参画に関する件 (承認)

(2) 副会長

① 第33回空気調和・衛生工学会 振興賞学生賞に関する件 (承認)

② 第28回篠原記念賞・同奨励賞に関する件 (承認)

③ 平成31年度 設備士資格検定委員会委員委嘱に関する件(非公開) (承認)

(3) 総務理事

① 第92期社員総会に付議する第92期会務報告書の審議、承認に関する件 (承認、議案第1号に決定)

② 代議員選挙規程改定に関する件 (承認)

(4) 財務理事

① 第92期社員総会に付議する第92期収支決算報告の審議、承認に関する件 (承認、議案第2号に決定)

(5) 出版理事

① 「SHASE-S206-2009 給排水衛生設備規準・同解説」増設に伴う予算変更に関する件 (承認)

(6) 会員・情報理事

① 第92期社員総会に推挙する名誉会員、特別会員に関する件 (承認、議案第4号に決定)

- ②新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
- ③平成31年度 委員会委員委嘱に関する件 (承認)
- (7) 支部運営に関する件 (継続協議)

II.報告事項

- (1)副会長
 - ①委員派遣(1件) (了承)
- (2)総務理事
 - ①内閣府公益認定等委員会定期届出完了報告 (了承)
 - ②国と特に密接な関係がある公益社団法人及び公益財団法人への該当性に関する報告 (了承)
 - ③委員派遣(1件) (了承)
 - ④共催、協賛等名義使用依頼(5件) (了承)
 - ⑤契約に関する件(1件) (了承)
 - ⑥事務局に関する事項 (了承)
- (3)教育普及理事
 - ①CPD登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (4)出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ②改定出版・改訂出版・絶版報告 (了承)
- (5)支部担当報告 (了承)
- (6)その他(1件) (了承)

理事会(令和元年度第2回) 令和元年5月10日(金) 明治記念館 曙の間

I.審議事項

- (1)会長
 - ①支部予算に関する運営ガイド制定に関する件 (承認)
- (2)会員・情報理事
 - ①新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

II.報告事項

- (1)総務理事
 - ①共催、協賛等名義使用依頼(4件) (了承)
- (2)教育普及理事
 - ①CPD登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (3)技術理事
 - ①委員派遣(2件) (了承)
- (4)出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ②引用・転載許諾報告 (了承)
- (5)会員・情報理事
 - ①永年一級賛助会員表彰の件 (了承)

(6) 監査報告 (了承)

理事職務互選のための理事会 令和元年5月10日(金) 明治記念館 曙の間

- (1) 理事会規程第8条第2項に基づく理事会開催に関する件 (承認)
- (2) 定款第36条第2項に基づく議事録署名人に関する件 (承認)
- (3) 理事会規程第2条に定める代表理事及び業務執行理事の選定に関する件 (承認)

理事会(令和元年度第3回) 令和元年7月19日(金) 本学会会議室

I. 審議事項

- (1) 会長
 - ① 「支部予算に関する運営ガイド」改定に関する件 (承認)
 - ② 特別委員会省エネ基準評価技術提案委員会に関する件 (承認)
- (2) 総務理事
 - ① 委員会廃止に関する件(3つの委員会) (承認)
 - ② 役員候補者選挙管理規程廃止に関する件 (承認)
 - ③ 役員候補者選考規程制定に関する件 (承認)
 - ④ 役員候補者選考委員会設置に関する件 (承認)
- (3) 財務理事
 - ① 消費税法改に伴う令和元年10月1日以降の表示に関する件 (承認)
 - ② 経理規程第9条第3項に基づく帳簿書類の処分に関する件 (承認)
- (4) 学術理事
 - ① 第29回 国際交流視察団 ASHRAE 冬季大会 実施計画に関する件 (承認)
- (5) 技術理事
 - ① SHASE-S 007-2019 メカニカル形変位吸収管継手改定に関する件 (承認)
- (6) 会員・情報理事
 - ① 会員管理規程改定に関する件 (承認)
 - ② 会費長期滞納に伴う会員資格喪失候補者に関する件 (承認)
 - ③ 令和元年度委員会委員委嘱に関する件 (承認)
 - ④ 新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

II. 報告事項

- (1) 会長
 - ① 環境省新庁舎に関する要望書提出に関する報告 (了承)
 - ② 運営に関する事項 (了承)
- (2) 副会長
 - ① 委員派遣(1件) (了承)
- (3) 総務理事
 - ① 内閣府公益認定等委員会への定期届出ならびに登記完了報告 (了承)
 - ② 共催、協賛等名義使用依頼(15件) (了承)
- (4) 学術理事

- ①令和元年度空気調和・衛生工学会大会(札幌)に関する報告 (了承)
- ②学術調査研究事業運営要領一部改定に関する報告 (了承)
- (5)教育普及理事
 - ①CPD登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (6)出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ②引用・転載許諾報告 (了承)
 - ③契約に関する件(2件) (了承)
- (7)支部担当報告 (了承)
- (8)その他(1件) (了承)

理事会(令和元年度第4回)令和元年10月25日(金) 本学会会議室

I. 審議事項

- (1)副会長
 - ①表彰規程改定に関する件 (承認)
 - ②学会賞技術審査小委員会、特別賞審査小委員会、振興賞技術振興賞審査小委員会委員委嘱の件 (承認)
- (2)総務理事
 - ①理事職務規程改定に関する件 (承認)
- (3)財務理事
 - ①事務所等の改修および取得資産の取崩に関する件 (承認)
 - ②第94期(令和2年度)予算編成に関する件 (承認)
 - ③第94期予算編成日程について (承認)
 - ④委員会出席旅費の支給額に関する件 (承認)
- (4)技術理事
 - ① SHASE-S006-2019 金属製変位吸収管継手改定に関する件 (承認)
- (5)出版理事
 - ①出版規程改定に関する件 (承認)
- (6)会員・情報理事
 - ①賛助会員管理規程改定に関する件 (承認)
 - ②令和元年度SHASE技術フェローの認定定数について (承認)
 - ③新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
 - ④会費長期滞納による会員資格喪失者に関する件 (承認)
 - ⑤令和元年度委員会委員委嘱に関する件(第3回) (承認)
- (7)近畿支部担当理事
 - ①国際交流事業運営要領 (承認)

II. 報告事項

- (1)副会長
 - ①令和元年度(第64次)設備士資格試験受験資格審査結果報告 (了承)

- ②働き方改革委員会の経過報告 (了承)
- (2)総務理事
 - ①共催・協賛等名義使用依頼(20件) (了承)
 - ②契約報告 (了承)
- (3)財務理事
 - ①第93期会計定期報告 (了承)
- (4)学術理事
 - ①令和元年度大会(札幌)終了報告 (了承)
 - ②令和元年度大会(札幌)「優秀講演奨励賞」表彰者報告 (了承)
 - ③第24回国際建築設備調査団 CIBW062 シンポジウム実施報告 (了承)
- (5)教育普及理事
 - ①CPD登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (6)出版理事
 - ①出版委員会運営要領 (了承)
 - ②出版および増刷報告 (了承)
 - ③学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ④引用・転載許諾報告 (了承)
- (7)会員・情報理事
 - ①SHASE 技術フェロー制度に関する規程第11条に基づく該当者に関する報告 (了承)
 - ②SHASE 技術フェロー選考基準ならびに応募スケジュールに関する報告 (了承)
 - ③令和元年度賛助会員会終了報告 (了承)
 - ④賛助会員退会企業への再入会依頼に関する報告 (了承)
- (8)支部担当報告 (了承)
- (9)定期報告 (了承)
- (10)その他(3件) (了承)

理事会(令和元年度第5回)令和元年12月13日(金) 本学会会議室

I.審議事項

- (1)総務理事
 - ①第93期社員総会における議案等に関する件 (承認)
 - ②社員総会当日の会合ならびに付帯行事等の運営に関する件 (承認)
 - ③令和2年度、令和3年5月までの理事会等日程に関する件 (承認)
- (2)技術理事
 - ①SHASE-S112 - 2019 冷暖房熱負荷簡易計算法改定に関する件 (承認)
 - ②SHASE-S206 - 2019 給排水衛生設備規準・同解説改定に関する件 (承認)
- (3)会員・情報理事
 - ①新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

II.報告事項

- (1)会長
 - ①第94期役員候補者に関する件 (了承)

- (2) 副会長
 - ① 委員派遣(1 件) (了承)
- (3) 総務理事
 - ① 共催・協賛等名義使用依頼(10 件) (了承)
 - ② 契約に関する件(3 件) (了承)
- (4) 財務理事
 - ① 第 93 期会計定期報告 (了承)
 - ② 第 94 期予算調整会議 (了承)
- (5) 学術理事
 - ① 大会学術講演論文応募要領および大会参加費の改定に関する件 (了承)
- (6) 教育普及理事
 - ① CPD登録状況報告 (了承)
 - ② 教育普及事業報告 (了承)
- (7) 出版理事
 - ① 学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ② 引用・転載許諾報告 (了承)
 - ③ 契約に関する件(1 件) (了承)
- (8) 支部担当報告 (了承)
- (9) その他(1 件) (了承)

理事会(令和元年度第 6 回)令和 2 年 3 月 13 日(金) 本学会会議室

I. 審議事項

- (1) 会長
 - ① 令和 2 年度各種委員会委員長候補者選考に関する件 (承認)
 - ② 会員管理規程第 10 条第 3 号に基づく特別会員の推薦に関する件 (承認)
- (2) 副会長
 - ① 第 58 回学会賞推薦の件 (承認)
 - ② 特別賞 第 20 回十年賞、第 8 回リニューアル賞推薦の件 (承認)
 - ③ 第 34 回振興賞技術振興賞、第 17 回振興賞住宅環境設備賞推薦の件 (承認)
 - ④ 第 35 回振興賞高校教育賞推薦の件
 - ⑤ 第 17 回功績賞推薦の件 (承認)
 - ⑥ 第 10 回井上宇市記念賞推薦の件 (承認)
 - ⑦ 第 29 回篠原記念賞・同奨励賞の件 (承認)
 - ⑧ 表彰規程改定に関する懇談に関する件 (継続協議)
- (3) 総務理事
 - ① 第 94 期役員選任議案に関する件 (承認、議案第 3 号に決定)
 - ② 第 94 期事業計画(案)に関する件
 - ③ 令和 2 年度年間予定に関する件 (承認)
 - ④ 第 93 期社員総会の開催に関する件 (開催方法を変更のうえ承認)
- (4) 財務理事
 - ① 第 94 期収支予算(案)承認の件 (承認、報告第 2 号に決定)

- (5) 学術理事
 - ①国際名誉員候補者の推薦に関する件 (承認)
 - ②第25回国際建築設備調査団 CIB W062 シンポジウム実施計画 (承認)
- (6) 技術理事
 - ①SHASE-S 110-2019 送風機の音響パワーレベル測定方法改定に関する件 (承認)
- (7) 会員・情報理事
 - ①令和元年度「SHASE 技術フェロー」候補者推薦に関する件 (承認)
 - ②第93期社員総会に推挙する名誉会員・特別会員候補者の選考に関する件 (承認)
 - ③新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
- (8) 運営に関する事項
 - ①新型コロナウイルスの終息の見込みが立たないことから4月以降に予定されている本部・支部の催し物ならびに会合等の開催に関する件 (承認)

II. 報告事項

- (1) 副会長
 - ①令和元年度(第64次)設備士資格検定試験の終了ならびに結果報告 (了承)
 - ②令和2年度(第65次)設備士資格検定試験実施日程の件 (了承)
 - ③設備士資格試験運営要領・実施方法の改定に関する報告 (了承)
- (2) 総務理事
 - ①事務局管理体制の強化に関する報告(管理職2名採用) (了承)
 - ②業務一覧表に関する報告 (了承)
 - ③共催、協賛等名義使用依頼(17件) (了承)
 - ④契約に関する件(1件) (了承)
- (3) 財務理事
 - ①第93期会計定期報告 (了承)
 経常費用:実績(309,460千円 / 予算(311,717千円) = 99%
- (4) 学術理事
 - ①第29回国際交流視察団 ASHRAE 冬期大会実施報 (了承)
 - ②契約に関する件(2件) (了承)
- (5) 教育普及理事
 - ①CPD登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (6) 出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ②引用・転載許諾報告 (了承)
 - ③契約に関する件(2件) (了承)
- (7) 各支部報告 (了承)
- (8) 定期報告 (了承)
- (9) その他(4件) (了承)

2.2 賛助会員会

期日等 令和元年7月19日(金) 明治記念館 富士の間

- 議 事
1. 会長挨拶
 2. 賛助会員代表者挨拶
 3. 懇談

以上

3. 登記・契約に関する事項

3.1 登記に関する事項

登記年月日	登 記 事 項
元. 5. 16	定款の変更
元. 7. 2	役員の変更

3.2 契約に関する事項

(1) 総務関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
元. 7. 1	AIU損害保険(株)	業務災害総合保険
2. 2. 27	セコム損害保険(株)	店舗総合保険（設備・什器等、商品・製品等、借家人賠償責任）
2. 3. 1	東京海上日動火災保険(株)	会社役員賠償責任保険
元. 7. 22	ジグザ(株)	秘密保持契約
元. 7. 30	ジグザ(株)	業務委託基本契約
元. 10. 28	(株)大塚商会	電話設備機器購入一式
元. 10. 31	(株)大塚商会	機器購入一式（PC、クラウドサーバー、Smileなど）
元. 11. 15	(株)大塚商会	アプリケーション一式（Access、ホームページビルダー等）
2. 3. 1	東京海上日動火災保険(株)	会社役員賠償責任保険

(2) 財務関連の契約

なし

(3) 総務関連の再リース契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
元. 11. 19	三井住友ファイナンス&リース(株)	シュレツダ
元. 11. 20	日立キャピタルNBL(株)	電話機

(4) 事業関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
元. 12. 25	東京海上日動火災保険(株)	旅行事故対策費用保険（海外旅行 ASHRAE）
元. 12. 19	アンドール(株)	機密保持に係わる覚書

(5) 出版理事関連の契約（編集著作権および出版権者）

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
元. 5. 27	執筆者代表 田辺 新一	出版契約書「快適な温熱環境のしくみと実践」
元. 6. 1	(株)オーム社	覚書 平成29年3月25日付け締結した出版契約書「給排水衛生設備 計画設計の実務の知識」の一部変更
元. 10. 20	(株)オーム社	徹底マスター空気線図の読み方・使い方（改訂2版）
元. 12. 6	(株)気象データシステム 代表取締役 赤坂 裕	HASPEEの設計用気象データの公開に関する利用契約
元. 9. 6	技報堂(株) 代表取締役社長 長 滋彦	出版契約書「ZEBのデザインメソッド」

(6) 会員・情報関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
31. 4. 1	三機工業(株) 執行役員 門脇 公夫	当会ウェブサイト運営業務委託契約書(クラウド化)

4. 規程に関する事項

提出者	内 容	決定・報告機関	決定年月日
総務理事	「代議員選挙規程」改定	理事会	31. 4. 19
総務理事	「役員候補者選挙管理規程」廃止	理事会	元. 7. 19
総務理事	「役員候補者選考規程」制定	理事会	元. 7. 19
会員・情報理事	「会員管理規程」改定	理事会	元. 7. 19
副 会 長	「表彰規程」改定	理事会	元. 10. 25
総務理事	「理事職務規程」改定	理事会	元. 10. 25
出版理事	「出版規程」改定	理事会	元. 10. 25
会員・情報理事	「賛助会員管理規程」改定	理事会	元. 10. 25

5. 新設委員会に関する事項

設置年月日	委員会名称		委員長/主査
元.7.19	役員候補者選考委員会		田辺 新一
31.4.1	空気調和設備委員会	熱源システムLCM検討小委員会	百田 真史
31.4.1		ZEB価値評価手法検討小委員会	丹羽 英治
31.4.1	給排水衛生設備委員会	給水給湯設備の設計データ検討小委員会	光永 威彦
31.4.1	ビル管理システム委員会	BEMSの活用によるBCPのあり方検討小委員会	増田 幸宏
31.4.1	施工・保全委員会	空調用冷却水システムの設計・施工・保全方法検討小委員会	松川 安樹
31.4.1	換気設備委員会	換気効率小委員会	吉野 一
31.4.1		環境・設備設計へのCFD応用小委員会	酒井 孝司
31.4.1		CFDパーツの環境シミュレーションへの適用性検討小委員会	桃井 良尚

6. 他学会・協会との連携に関する事項

(1) 委員派遣

年月日	推薦先	内 容	委員名
31. 4. 19	(公社)全国ビルメンテナンス協会	理事	副会長 佐々木洋二
	(一社)日本建築学会	JABEE建築分野審査委員会委員	正会員 林 立也
元. 5. 10	(一社)公共建築協会	建築材料・設備機材等品質性能評価委員会・機械設備専門部会・幹事会 委員 機械設備専門部会・幹事会 委員	正会員 大谷 昌彦
			正会員 船木 寮一
			正会員 木村 文夫
			正会員 野澤 英美
			正会員 吉田 友夫
正会員 渡部 一八			
元. 7. 19	(公財)建築技術教育普及センター	病院設備設計ガイドライン(空調設備編)HEAS-02-2020改訂委員会 専門委員	正会員 伊藤 昭
元. 7. 19	(公財)建築技術教育普及センター	建築設備士試験審査会議 建築設備士試験委員	副会長 佐々木洋二
元. 12. 13	(公財)建築技術教育普及センター	建築設備士試験審査会議委員	副会長 佐々木洋二

(2)他学協会への後援・協賛依頼

開催年月日	名 称	名義	相手方
31. 4. 15～31. 4. 19	平成31年度 初級技術者のための研修会	協賛	10団体
通年	令和元年度 中堅技術者のための研修会(18講座)	協賛	10団体
元. 6. 20～元. 6. 21	令和元年度 初級技術者のためのステップアップ研修会	協賛	10団体
元. 7. 18	令和元年度 技術講演会「激甚化する自然災害とリスクマネジメント」	協賛	7団体
2. 2. 7	令和元年度セミナー 「東京オリンピックを間近にしたこの時期に最先端のスポーツ施設を多角的に見てみる」	協賛	7団体

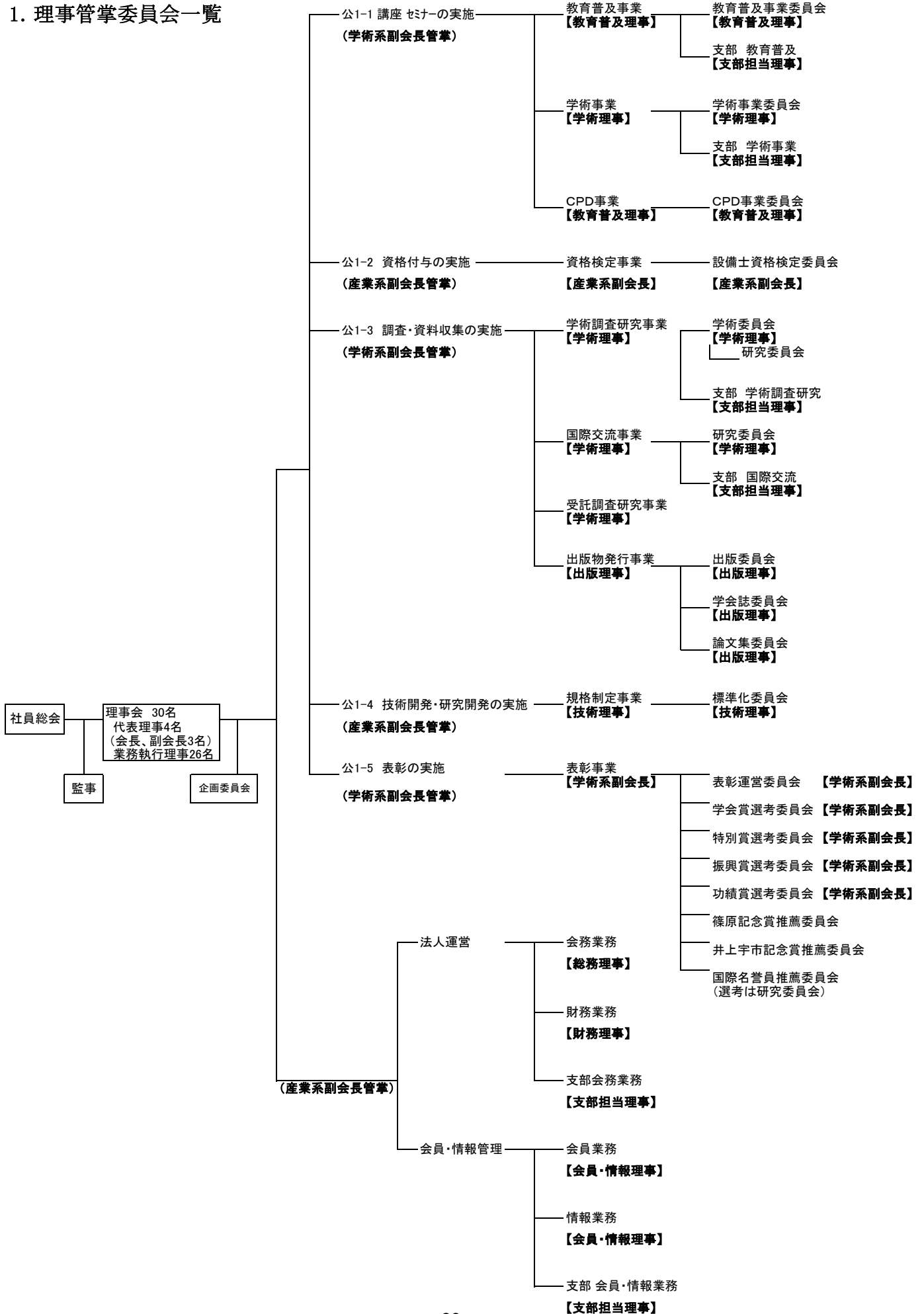
(3)他学協会との共同主催その他

	開催年月日	名 称	名義	申請者
1	元.11.20～11.22	HOSPEX Japan 2019、第48回日本医療福祉設備学会併設展示会	協賛	(一社)日本医療福祉設備協会 (一社)日本能率協会
2	元.9.5～9.6	第36回エアロゾル科学・技術研究討論会	協賛	日本エアロゾル学会
3	元.6.20～6.21	講演会「第24回動力・エネルギーシンポジウム」	協賛	(一社)日本機械学会
4	セミナー 元.6～11 研修会 元.7～2.2	2019年度「電力負荷平準化・省エネルギー社会実現セミナー」及び「蓄熱技術研修会」	協賛	(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター
5	元.8.27～8.28	第32回におい・かおり環境学会	協賛	(公社)におい・かおり環境協会
6	元.11.8、元.11.15	2019年度ボイラーデー並びに第57回日本ボイラー大会	協賛	(一社)日本ボイラ協会
7	元.6～2.3	住まいの環境デザイン・アワード2020	後援	東京ガスコミュニケーションズ(株)リビングデザイン事業部
8	元.11.20～11.21	第48回日本医療福祉設備学会	後援	(一社)日本医療福祉設備協会
9	元.9.6～9.7	快適性とスマートテキスト国際シンポジウム2019	協賛	(一社)日本繊維製品消費科学会
10	元.10.28～10.30	第40回日本熱物性シンポジウム	協賛	日本熱物性学会
11	元.11.27～11.29	第33回数値流体力学シンポジウム	協賛	(一社)日本流体力学会
12	元.11.20～11.22	第57回燃焼シンポジウム	協賛	(一社)日本燃焼学会
13	元.8.7	機械の日	協賛	(一社)日本機械学会
	元.8.1～8.7	機械週間		
14	元.10.28～10.30	第40回日本熱物性シンポジウム	協賛	日本熱物性学会 第40回日本熱物性シンポジウム 実行委員会
15	元.7.26	第6回「伝熱工学の基礎」講習会	協賛	(公社)日本伝熱学会
16	元.9.24～9.25	講習会「『伝熱工学資料(改定第5版)』の内容を教材にした熱設計の基礎と応用」	協賛	(一社)日本機械学会
17	元.8.2	夏のリコチャレ 2019「(仮)もし数学と理科がなかったら」	後援	株日刊建設通信新聞社
18	元.9.11～9.13	2019年度日本冷凍空調学会年次大会	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
19	①上級アナリスト 元.9.15 ②固体力学分野・ 振動分野 元.9.22 ③熱流体力学分 野 元.12.7	2019年度計算力学技術者(CE技術者)資格認定事業	協賛	(一社)日本機械学会
20	元.10.11	第80回セミナー「Q&Aで学ぶ電子機器・部品の腐食評価と防食技術」	協賛	(公社)腐食防食学会
21	元.8.23～8.24	第12回 雨水ネットワーク全国大会2019 in福岡	後援	(公社)雨水貯留浸透技術協会 雨水ネットワーク全国大会in福岡 実行委員会
22	元.10.24～10.25	64th FRP CON-EX2019(第64回FRP総合講演会展示会)	協賛	(一社)強化プラスチック協会
23	東京 元.9.6 大阪 2.2.29	室内環境学会講演会	後援	(一社)室内環境学会
24	①eラーニング 元.9.15～11.15 ②試験 2.1.12	第12回MDIC(医療機器情報コミュニケーター)認定セミナー	後援	(一社)日本医療機器学会
25	2.5.20	第18回環境・設備デザイン賞	後援	(一社)建築設備総合協会
26	①応募登録締切 元.11.15 ②公開審査 2.3.15、2.4.7 ③授与式 元.10.24	放射(輻射)冷暖房協議会第4回セミナー「放射(輻射)冷暖房システムが創る環境と人の調和」	後援	放射(輻射)冷暖房協議会
27	元.9.20～9.22	日本ヒートアイランド学会第14回全国大会	協賛	日本ヒートアイランド学会
28	元.11.11	全国地中熱フォーラム2019	後援	特定非営利活動法人地中熱利用 促進協会
29	2.7.20～7.24	The 16th Conference of the International Society of indoor Air Quality & Climate (indoor Air 2020)	後援	indoor Air 2020
30	元.11.16	オータムワークショップ2019「デジタル化から期待される新たな電力ビジネスとは」	協賛	(一社)エネルギー・資源学会
31	元.11.11～11.14	第52回 2019 建築設備技術会議	後援	(一社)建築設備技術者協会 (一社)日本能率協会
32	2.2.3	地域熱供給50周年記念式典	協賛	(一社)日本熱供給事業協会
33	元.11.27	セミナー「低GWP冷媒への転換に向けた最新動向」	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
34	初級 元.11.13 中級 元.11.14 上級 2.2.28	HASP技術講習会	後援	(一社)建築設備技術者協会

35	元.11.11	公共建築の日	後援	(一社)公共建築協会
	元.11.1~11.30	公共建築月間		
36	元.12.5~12.7	2019年室内環境学会学術大会	後援	(一社)室内環境学会
37	元.10.29	設備診断セミナー「空調・衛生設備診断の実践ノウハウと実技体験」	協賛	(一社)日本建築設備診断機構
38	元.10.31	第26回都市環境エネルギーシンポジウム	協賛	(一社)都市環境エネルギー協会
39	元.11.1	シンポジウム「快適な車室内環境技術」	協賛	(公社)自動車技術会
40	元.11.19	第35回全国トイレシンポジウム	後援	(一社)日本トイレ協会
41	元.11.29	第15回建築設備シンポジウム「環境建築がひらく価値創出とComputational Design」	後援	(一社)日本建築学会
42	元.11.22	第8回都市環境デザインフォーラム「気象・気候災害に適応できる都市環境デザインの実践」	後援	(一社)日本建築学会
43	元.11.18	2019年度「建築設備士の日」記念行事	後援	(一社)建築設備技術者協会
44	元.12.3~12.4	2019年度「都市環境エネルギー技術研修会プログラム」	協賛	(一社)都市環境エネルギー協会
45	元.12.2	原子力総合シンポジウム2019	共催 (負担なし)	日本学術会議総合工学委員会
				(一社)日本原子力学会
46	元.12.5	セミナー「熱で動く冷凍空調技術の基礎と応用」	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
47	2.3.3~3.6	HVAC & JAPAN 2020(第41回冷凍・空調・暖房展)	協賛	(一社)日本冷凍空調工業会
48	元.12.10	BELCA資格セミナー「給湯設備の省エネルギー設計の最新動向」	後援	(公社)ロングライフビル推進協会
49	2.3.24~3.26	第14回スマート空調衛生システム展(MACS 2020)	協賛	(一社)全国ダクト工業団体連合
				(一社)日本配管工事業団体連合
				(一社)日本保温保冷工業協会
50	2.1.23~1.24	第47回建築物環境衛生管理全国大会	後援	(公財)日本建築衛生管理教育センター
51	2.4.21~4.22	第37回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	協賛	(公社)日本空気清浄協会
52	2.1.30	講習会「都市の風環境予測のためのCFDガイドブック」	後援	(一社)日本建築学会
53	2.3.5	第1回世界エンジニアリングデイ記念シンポジウム	協賛	(公財)日本工学会
54	2.2.19	気象変動と雨水利用～雨水の基準と制度を考える日独シンポジウム	後援	特定非営利活動法人雨水まちづくり
55	2.2.7	コージェネシンポジウム2020	協賛	(一財)コージェネレーション・エネルギー
56	2.6.18~6.19	講演会「第25回動力・エネルギー技術シンポジウム」	協賛	(一社)日本機械学会
57	2.2.7	政策研究大学院大学・建築研究所共催シンポジウム省エネルギー基準の最新研究	後援	国立大学法人政策研究大学院大学
58	2.6.3~6.5	第57回日本伝熱シンポジウム	共催 (負担なし)	(公社)日本伝熱学会
59	2.2.26	建築設備のコミッションング、IoT・ICT・AIの活用	協賛	(一社)日本建築設備診断機構
60	2.8.21~8.23	混相流シンポジウム2020	協賛	日本混相流学会
61	一次 東京2.4.11~4.12 大阪2.4.18~4.19 二次 2.7.4~8.2 (東京、大阪、札幌、福岡)	建築設備士第一試験受験準備講習会 建築設備士第二次試験受験準備講習会	協賛	建築設備士受験準備講習委員会
				(一社)日本設備設計事務所協会連合会
				(一社)電気設備学会
62	2.2.18	BIMの日2020シンポジウム「〇〇のためのBIM」	後援	(一社)日本建築学会
63	2.11.11~11.13	HOSPEX Japan2020	協賛	(一社)日本医療福祉設備協会
				(一社)日本能率協会
64	2.7.8~7.10	第15回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム	協賛	再生可能エネルギー協議会
65	2.9~	第13回MDIC(医療機器情報コミュニケーター)認定セミナー/eラーニング	後援	(一社)日本医療機器学会
66	2.8.5~8.6	第29回日本エネルギー学会大会	協賛	(一社)日本エネルギー学会
67	2.9.9~9.11	2020年度工学教育研究講演会	協賛	(公社)日本工学教育協会
68	2.12.7~12.9	ASim2020 The 5th Asia Conference of Internatinal Building Performance Simulation Association	協賛	ASim2020実行委員会
69	2.9.18~9.20	日本流体力学会年会2020	協賛	(一社)日本流体力学会
70	2.7.17	第7回「伝熱工学の基礎」	協賛	(公社)日本伝熱学会
71	東京 ①2.11.18~11.20 ②2.6.17~6.19 大阪 ①2.11.25~11:27 ②2.6.24~6.26	①令和2年度「建築・設備総合管理士」講習 ②令和2年度「建築設備診断技術者」講習	協賛	(公社)ロングライフビル推進協会

Ⅲ. 事業報告

1. 理事管掌委員会一覧



2. 委員会

(1) 法人運営

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
企画委員会 田辺 新一	8	以下の検討を行った。 1. 会務全般に関する事項の事項 2. 理事会運営を行うための議案整理に関する事項 3. 役員に関する事項 4. 事業計画及び収支予算に関する事項 5. 事業報告及び決算報告に関する事項 6. 内部統制に関する事項 7. 組織運営の重要事項に関する事項 8. 各種規程制定に関する事項 9. 特別委員会設置ならび成果報告に関する事項 10. 働き方改革に関する事項 11. 海外協力団体との交流事業に関する事項 12. 関連学協会に関する事項
役員候補者選挙 推薦委員会 田辺 新一	2	以下の検討を行い理事会に提案した。 1. 委員会初年度にあたり運営について協議 2. 推薦日程を決定 3. 推薦書の様式を決定 4. 役員候補者の選考と理事会に推薦
代議員選挙委員会 奥宮 正哉	0	本年度は選挙を実施しないため開催なし
代議員候補者推薦委員会 千田 公男	0	本年度は選挙を実施しないため開催なし
働き方改革委員会 大塚 雅之	12	下記の事項について検討を行い理事会へ報告した。 1. 理事・職員との意見交換会を受けた対応を協議 2. 業務マニュアル整備の検討 3. 組織体制に関し企画委員会と調整 4. 職員から業務内容を聞き取り調査 5. 業務一覧表を各担当理事に確認依頼 6. 幹事による業務一覧表の整理

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
省エネシミュレーション 評価法作成委員会 吉田 治典	6	第1回委員会：令和元年5月9日（木） 1. 今期の活動方針について議論した。 2. テスト結果診断フローのテスト内容、ユーザの理解度チェック方法 作成方針について議論した。 第2回委員会：令和元年7月4日（木） 1. テスト結果診断フローのテストの試行結果、ユーザの理解度チェッ ク方法の案について議論した。 2. 蓄熱システムテストの詳細について議論した。 第3回委員会：令和元年10月4日（金） 1. 次期の委員会の計画内容について周知した。 2. テスト結果診断フローのフロー案、各種テストの試行結果、ユーザ の理解度チェック方法の案について議論した。 第4回委員会：令和元年11月22日（金） 1. 今までの特別委員会の活動内容の成果と課題を整理し、委員会活動 の位置づけについて議論した。 2. 報告書の原稿の確認、蓄熱システムテストの詳細、ユーザの理解度 チェック方法の案について議論した。 第5回委員会：令和2年1月22日（水） 1. 報告書のまとめ状況の確認、「第2章テスト結果診断フロー（仮）」 の査読について報告がされた。 2. ユーザの理解度チェック方法の案について議論した。 第6回委員会：令和2年3月13日（金） 1. 報告書の案についての確認した。
次世代空調ビジョン 検討委員会 野部 達夫	4	建築設備エンジニアが目指すべき次世代空調のビジョンを描くべく、 委員会を4回開催し、最新の空調設備を備える建物の視察や意見交換を 行った。 <主要活動概要> 1. 委員会での討議内容 1) BIMに関する情報交換とその得失について 2) ZEBのサブスクリプションモデルについて 3) 次世代空調に相応しい換気システムについて 2. 最新設備の視察 1) 内製化を推進するビジネスモデルに関する見学（三浦工業） 委員会開催日：7月24日、10月17日、1月22日

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
省エネ基準評価 技術提案委員会 倉瀬 隆	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 未評価技術のWEBPROへの反映を目的として、昨年度本学会のホームページに公表した9つの未評価技術の内、①自然換気システム評価法検討SWG、②空調ポンプ制御の高度化SWGを組織し、具体的な検討を行った。 2. 大会ワークショップにて、空気調和設備委員会ZEB価値評価手法検討小委員会と連携して、「学会が推進する日本版ZEBの普及に向けて」を開催し、日本版ZEB実現のための評価技術の提案に関する発表の他、パネルディスカッション「日本版ZEBの普及に向けて」を行い、聴講者との意見交換も行った。 3. 国のZEBロードマップフォローアップ委員会の動向、省エネ基準改正案の検討に係る手続き、ZEB実証事業の動向などについて情報を共有した。 4. 本委員会の指導のもと、給排水設備委員会と連携し、給湯関連の建築物省エネ法 WEBプログラムにおける未評価技術に関するアンケート調査を実施した。 5. 上記給湯設備に関する未評価技術の他、本委員会並びに空気調和設備委員会ZEB価値評価手法検討小委員会にて追加すべき未評価技術について検討した。年度内に本学会のホームページへの公表を目指す。 6. 環境省庁舎改修のZEB化に関して、国土交通省と意見交換を行った。
SHASE-REHVA nZEB 共同研究特別委員会 丹羽 英治	3	<p>今年度は前年度までの活動内容を取りまとめて国際シンポジウムにて情報発信した。また、計3回の委員会（5/17、7/31、10/17）を開催し、年次計画とおり調査・研究等の活動を行った。</p> <p>国際シンポジウムはCLIMA2019の開催期間中（5/27・ルーマニア）に行われて、前年度の活動成果を発表し意見交換を行った。主な発表内容は、以下の2点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデル建物のnZEBに関するエネルギー性能比較 2. モデル建物のnZEBに関するフィージビリティスタディ <p>また、3回の委員会活動を通して、以下の5点を重点的に実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデル建物のnZEBに関するエネルギー性能比較 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル建物の空調システム構成確認、空調システムのシステムCOP評価と比較 2. モデル建物のnZEBに関するフィージビリティスタディ <ul style="list-style-type: none"> ・年間エネルギーシミュレーションによるモデル建物のnZEBに関するフィージビリティスタディ実施準備 3. ZEBの社会価値の枠組みに関する情報収集と情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ZEBの社会価値についてRehva側と意見交換を行い、重要度の高い項目を抽出・取り組み内容の有無について照会検討した項目は次のとおり。1) ウェルネス、2) 知的生産性、3) レジリエンス、4) BCP、5) 経済波及効果、6) 環境価値 ・Cost Optimizationについては情報収集を行い、次年度以後ケーススタディ実施の可能性を検討 4. nZEB関連政策やインセンティブについて情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・EPBDによるEUの2020年目標達成の見通しについて情報提供を依頼し、とりまとめの準備を実施 5. 次年度活動内容の検討

(2) 会員情報管理

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
技術フェロー 選考委員会 荒木 誠一	2	以下を協議し実施した。 1. 年次報告書、計画書、委員候補者、予算に関する事項 2. 技術フェロー授与式に関する事項 3. 技術フェロー制度のお知らせ、応募案内に関する事項 4. 理事会に提案する認定者の定数に関する事項 5. 技術フェロー認定者に関する事項
情報委員会 久保田 克己	2	下記につき審議、検討、管理を行った。 1. ホームページの運用管理全般 2. ホームページの利用状況の分析とフィードバック 3. バナー広告の管理（広告代理店(株)中外との連携） 4. 会員拡大のための各種情報提供ツールの検討 5. その他情報管理、会員拡大に関する事項の検討

(3) 北海道支部

1) 報告会 (第54期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題
2019. 5. 23	かでの 2・7	1. 来賓挨拶 2. 支部長挨拶 3. 会員の異動報告 4. 議 事 1) 平成30年度事業報告 2) 平成30年度決算報告 3) 運営委員の件 4) 令和元年度事業計画 5) 令和元年度収支予算 6) その他

当日出席22名

2) 各賞授与式および表彰式

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 5. 23	かでの 2・7	第33回技術賞技術振興賞 平成30年度北海道支部学術講演会優秀発表奨励賞受賞者	35名

3) 特別講演会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 5. 23	かでの 2・7	共 催：(一社)建築設備技術者協会北海道支部 共 催：(一社)電気設備学会北海道支部 講 師：赤司泰義氏 (建築設備技術者協会 副会長) 題 目：「脱炭素社会とエネルギー×ライフのマネジメント ～建築設備は何を担うのか～」	62名

4) 地区講演会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
2019. 12. 3	北海道大学工学部	担当幹事：小柳秀光、本間康雄、宮本一英、甲斐至 内 容：基調講演 林立也(千葉大学工学部 准教授) 題 目：「スマートウェルネスオフィスの最前線」	60名

5) 見学会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 10. 3 (共催)	苫小牧市、室蘭市	主 催：(一社)電気設備学会北海道支部 Jファーム苫小牧工場&室蘭市低圧水素配送システム実証事業	18名
2019. 11. 19	札幌市	担当幹事：白土 博康、武田 清賢、水野 恭一、林 達也 内 容： 札幌市中央区北7条東3丁目 「北海道ガスグループ本社ビル見学会」 見学箇所：施設全般	42名

6) セミナー

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2020. 2. 20	札幌市立大学サテライト キャンパス	担当幹事：斎藤 雅也、丹保 洋人、野川 貴史、山本 進 末松 辰朗 1. 開会挨拶 2. 基調講演 林 基哉（国立保健医療科学院） 高齢者施設の環境 3. 講演Ⅰ 塚見 史郎（日建設計） 石巻赤十字病院・足利赤十字病院を事例として 4. 講演Ⅱ 龍 英夫（大成建設） 長崎港メディカルセンターを事例として 5. パネルディスカッション 6. 閉会挨拶	43名

7) 運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 5. 8	北海道大学工学部	1. 理事会報告 2. 議 題 1) 平成30年度事業報告 2) 平成30年度決算報告 3) 令和元年度事業計画 4) 令和元年度収支予算案 5) 支部総会について 3. その他	20名
2019. 6. 24	北海道大学工学部	1. 本年度の幹事 本年度幹事紹介 2. 本年度の行事予定 3. 設備技術研究会 4. 技術振興賞 5. その他	20名

8) 有識者会議

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 6. 24	北海道大学工学部	1. 本年度の幹事 2. 本年度の行事内容 3. 設備技術研究会 4. その他	5名

9) 学術講演会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
2019. 3. 17 (新型コロナウイルスの影響により紙面 開催となること が決定)	北海道大学 学術交流会館講堂	担当幹事：阪田 義隆、小原 伸哉、李 相逸、魚住 昌広、 栗原 浩平 発表演題 一般講演54題、特別講演1題 研究論文54題、技術報告0題（口頭23題、ポスター31題） 資料研究論文10題	

10) 幹事会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
2019. 12. 19	北海道大学工学部	1. 報告事項 理事会報告 支部から理事会への活動報告（実績、予定） 2. 本年度の行事について セミナー 地区講演会 見学会 学術講演会 3. 北海道支部の活性化について 4. その他	12名
2020. 3. 31	北海道大学工学部	1. 報告事項 1) 理事会報告 2) 支部から理事会への活動報告（実績、予定） 2. 本年度の実施内容報告 1) 学術講演会 3. その他	13名

11) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	件 数	受験者
2019. 11. 23 ～24	北海道大学工学部	令和元年度（第64次）設備士資格検定試験 空調部門（申込者）38名 衛生部門（申込者）37名	31名 31名

(4) 東北支部

1) 報告会 (第46期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
2019. 05. 20	仙台戦災復興記念館	1. 2019年度 事業報告及び収支決算報告 2. 2019年度 監査報告及び承認 3. 2020年度 事業計画案・収支予算案の審議、承認	26名

2) 記念講演会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 05. 20	仙台戦災復興記念館	演 題：「コンバージョン・リニューアルに対応した 給排水衛生設備技術と展望 －排水設備技術を中心として－」 講 師：大塚 雅之氏 (空気調和・衛生工学会 副会長) 共 催：(一社) 建築設備技術者協会東北支部	28名

3) 東北支部第9回学術・技術報告会

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止 (論文集のみ発行)

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2020. 03. 10	東北工業大学 八木山キャンパス	1. 開会 2. 学術・技術報告 [口頭発表] 3. 第64回東北環境設備研究会・市民向け講演会 「厳冬季の大規模災害と長期間の停電等による 避難所のLCP対策」 講 師：森 太郎 (北海道大学) 定池 祐季 (東北大学) 4. 技術展示 5. 優秀発表奨励賞授与式 6. 閉会 7. 交流会	(論文集) 論文 33件 技術展示PR 4件

4) 見学会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2020. 02. 14	新地町スマートエナジー	新地町役場にてガイダンス・事業概要の説明。 商業施設、新地エネルギーセンター、空調設備の視察	19名

5) 後援行事

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 05. 04	東北大学 川内北キャンパス	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2019 (第13回) 主 催：NPO法人natural science	来場見込 約1万人
2019. 08. 20	仙台市戦災復興記念館	研究集会「仙台市における地球温暖化対策について －環境審議会等における議論の紹介－」 主 催：住まいと環境 東北フォーラム	32名
2019. 11. 08-10	ホテル松島大観荘	アジアにおける持続可能な都市環境デザイン国際会議Ⅱ 主 催：NPOアジア都市環境学会ほか	延べ 94名
2019. 11. 15	湯野浜 コミュニティセンター	見学会「湯野浜温泉地区における温泉未利用熱を利用した 温泉街全体の省エネ事業」 主 催：(一社) 建築設備技術者協会東北支部	25名

6) 令和元年度初級技術者研修会

①前期・入門編

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 04. 22-26	宮城県管工事会館 9階大会議室	地球環境時代における建築設備と技術者の役割、熱の性質 講 師：須藤 諭（東北文化学園）	累計 46名
		都市設備・建築環境と建築設備との関わり、空気と水の性質 講 師：渡邊 浩文（東北工業大学）	
		建築設備に関わる建築入門 講 師：船木 寮一（三建設備工業（株））	
		空気調和設備の概要 空気・熱・湿気と空気線図 空気の操作と空気の状態変化 空調熱負荷計算 熱源設備 講 師：小林 光（東北大学）	
		空調配管と設計 換気設備・排煙設備 空調ダクトと設計 講 師：宮城 聡（山形県立産業技術短期大学校）	
		給排水衛生設備の概要 給水設備 給湯設備 特殊設備（浴場・プール設備、ディスプレイ等） 再生可能エネルギー熱 講 師：赤井 仁志（福島大学）	
		排水通気設備 衛生器具設備 講 師：本郷 智大（山形県立産業技術短期大学校）	

②後期・実務基礎編

実施なし

7) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 11. 23 -24	宮城県管工事会館 9階大会議室	平成31年度（第64次）設備士資格検定試験 受験申込者 空調部門：94名 衛生部門：82名	72名 61名

8) 第34回振興賞技術振興賞（応募数0件）/第17回住宅環境設備賞（応募数1件）

開催年月日	内 容
2019. 10. 21 (第1回)	1. 推薦小委員会設置と審査スケジュールの概略調整 2. 事前に配布した資料を基に質疑項目を検討・作成 3. 質疑の洗い出しと質疑のまとめ
2019. 11. 22 (第2回)	1. 質問回答書の審査・現地調査内容の準備
2019. 11. 25 (第3回)	1. 仙台市太白区にて現場調査・質問回答書の審査
2019. 12. 9 (第4回)	1. 現場調査内容の報告と審議 2. 推薦の可否の決定と推薦文作成担当者の選定 3. 審査結果の報告書作成（12月19日に本部へ報告）

9) 支部運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 協 議 事 項	出席者
2019. 04. 08 (第1回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 平成31年度の会議等日程確認 2. 各行事等実施報告 3. 支部報告会の運営要領等協議 4. 今後の行事について	19名
2019. 07. 08 (第2回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告（支部報告会・講演会等） 2. 第46期東北支部運営委員会の担当について 3. 第34回振興賞技術振興賞、第17回住宅環境設備賞等各募集	23名
2019. 10. 21 (第3回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告（本部理事会報告等） 2. 第34回振興賞技術振興賞、第17回住宅環境設備賞募集結果 3. 東北環境設備研究会について 4. 今年度の行事について協議（第9回学術・技術報告会等）	20名
2019. 12. 09 (第4回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告 2. 見学会について 3. 今年度の行事について協議（第9回学術・技術報告会等）	22名
2020. 02. 03 (第5回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告 2. 今年度の行事について協議（第9回学術・技術報告会） 3. 見学会について 4. 来年度の行事について協議（初級技術者研修会等）	21名

10) 委員会・ワーキンググループ（随時開催）

- ①総務委員会
- ②会計委員会
- ③支部長・副支部長・事業幹事会議
- ④東北支部学術・技術報告会組織委員会／実行委員会
- ⑤技術研修委員会
- ⑥事業企画委員会
- ⑦東北地方建築設備研究委員会／専門委員WG
- ⑧振興賞審査委員会（応募があった場合設置）

(5) 中部支部

1) 中部支部報告会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
2019. 6. 14	中部大学名古屋キャンパス	1. 代表理事及び支部長挨拶 2. 支部活動報告 ・2018年度事業報告、2019年度事業計画 ・2018年度決算、2019年度予算 3. 第33回振興賞技術振興賞表彰式	43名

2) 報告会記念講演

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 6. 14	中部大学名古屋キャンパス	「これからの建築と都市と設備の環境デザイン」 堀川 晋（日建設計）	105名

3) 講演会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 9. 11	東桜会館	第33回中部支部振興賞技術振興賞及び第57回技術賞受賞作品紹介 1. ecoとBCPを兼ね備えた「百五銀行岩田本店棟」の計画・設計・施工 森田 英樹（清水建設） 2. ダイキン テクノロジー・イノベーションセンター（オフィス棟）の環境・設備計画と実施 田中 宏昌（日建設計）	34名
2020. 3. 5	中部大学名古屋キャンパス	最適化研究会 講演会 1. 「全外気空調向け直膨システムの開発 ～シームレス直膨空調機～」村上 裕紀（大気社） 2. 「温熱・におい環境の相互影響から見た高齢者施設について」横江 彩（中部大学）	中止※
2020. 3. 27	東桜会館	第57回空気調和・衛生工学会技術賞受賞作品の紹介 1. 秋田市新庁舎における環境・設備計画 星野 聡基（日本設計） 2. コープ共済プラザにおける環境建築の計画と検証 村松 宏（日建設計）	中止※

4) 地区講演会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2020. 2. 14	東邦ガスプロ厨房オアシス	ウェルネスオフィスへ実現に向けた取組み 1. 健康と生産性向上を目指したWellnessオフィスの取組み 竹内 里紗（ダイキン工業） 2. 知的生産性と環境性能を支えるNTTファシリティーズイノベーションセンター 渡邊 剛（NTTファシリティーズ中央）	43名

5) 第64次設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	部 門	参加者
2019. 11. 23	名古屋大学	空調部門	空衛： 65名 空調： 35名

2019. 11. 24	名古屋大学	衛生部門	空衛: 66名 衛生: 24名
--------------	-------	------	--------------------------

6) 見学会

開催年月日	見 学 先	参加者
2019. 12. 6	ささしまライブ24DHCエネルギーセンター、露橋水処理センター	30名

7) 講習会・シンポジウム

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 10. 10 2019. 10. 17 2019. 10. 24	東桜会館	「空気調和・衛生設備の基礎知識技術研修会」 1. 地球環境と建築設備 横江 彩 (中部大学) 2. 空気調和の概要と設備計画 大野 剛志 (新日本空調) 3. 省エネルギーとマネジメント 石原 式真 (大林組) 4. 空気調和設備の方式 河内 博之 (高砂熱学工業) 5. 空気調和の方式 (熱源方式) 河合 哲 (朝日工業社) 6. 自動制御と中央監視 丹下 和政 (ジョンソンコントロールズ) 7. 給排水設備の概要、給水・給湯設備 山田 宏 (トーエネック) 8. 排水・通気設備、衛生器具設備 高橋 仁 (LIXIL) 9. 消火設備 宮崎 謙介 (ホーチキ)	10. 10: 51名 10. 17: 48名 10. 24: 49名

8) 中部支部学術研究発表会 (第21回)

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2020. 3. 18	東桜会館	空気調和・衛生・環境工学全般に関する研究及び事例・論文発表。ポスター発表及び優秀ポスター賞の表彰。	中止 [※]

9) 中部支部 賛助会員会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 10. 29	東桜会館	演 題「岡谷市民病院における環境共生型エコホスピタルの構築」 井田 寛 (日本設計)	講演会: 38名 交流会: 35名

10) 建築設備研究会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
2019. 12. 16	名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス	バイオマス利用の可能性と展望 1. 「再エネ技術の現状と国産燃料作物による化石燃料代替ビジネスの課題」 鈴木 高広（近畿大学） 2. 「マテリアル利用・エネルギー利用の双方で二酸化炭素削減に貢献できる木質バイオマス」 福島 和彦（名古屋大学大学院） 3. 「御前崎港バイオマス発電事業について」 河野 明子（静岡県経済産業部） 吉田 明俊（静岡県交通基盤部港湾局）	50名

10) 建築設備研究会

2020. 3. 13	岐阜バイオマスパワー、 バイオマスエナジー東海	<第21回建築設備研究会 見学会> 岐阜バイオマスパワー (岐阜県瑞穂市牛牧758番地) バイオマスエナジー東海 (岐阜県瑞穂市牛牧758番地581番地1)	中止**
-------------	----------------------------	--	------

11) 委員会・その他

①支部運営委員会

開催日	開催場所	内 容	
2019. 4. 23	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	17名
2019. 5. 28	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	10名
2019. 6. 25	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	16名
2019. 7. 23	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	12名
2019. 8. 27	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	17名
2019. 9. 24	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	19名
2019. 10. 31	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	15名
2019. 11. 26	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	14名
2020. 1. 29	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	16名
2020. 2. 25	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	18名
2020. 3. 24	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	12名

②最適化研究会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
2019. 5. 29 (第185回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演：並列連結式温度成層型蓄熱槽の連通口簡易設計法に関する研究 北野 博亮（三重大学） 話題提供：アルミ冷媒配管システム 平井 康之（高砂熱学工業）	11名
2019. 8. 7 (第186回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演：シミュレーションを活用した病院熱源システムの運用段階のエネルギーマネジメント手法に関する研究 千葉 理恵（トーエネック） 話題提供：ライフサイクルでのBIM情報の活用 山羽 基（中部大学）	13名
2019. 9. 26 第187回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演：順天堂B棟 西村 秀生（清水建設） 話題提供：再生可能エネルギーについて 野瀬 久和（中部電力）	10名
2019. 11. 28 (第188回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演：地上390mにおける環境配慮型技術の有効性の検討 小林 哲哉（三菱地所設計） 話題提供：においについて 小島 富也（朝日工業社）	11名

②最適化研究会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
2020. 1. 28 (第189回)	中部大学名古屋キャンパス	講演：環境中の細菌とカビの対策 高塚 威（新日本空調） 話題提供：改正フロン排出抑制法（変更点解説） 五十嵐秀一（大気社）	10名
2020. 3. 5 (第190回)	中部大学名古屋キャンパス	講演会として記載	中止※

③学術事業企画委員会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
2019. 9. 30	中部大学名古屋キャンパス	2019年度(第21回)学術研究発表会論文投稿日程、分担調整他	9名
2020. 3. 3	中部大学名古屋キャンパス	学術研究発表会中止への対応について協議	10名

④振興賞推薦委員会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
2019. 9. 25	トーエネック本店	応募状況の確認・役割分担の検討・今後の進め方・次回開催日の検討	5名
2019. 10. 21	中部大学名古屋キャンパス	質疑回答内容の確認、推薦文(案)の確認等	4名

コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、開催を中止とした。

(6) 北信越支部

1) 支部報告会 (第50回)

開催年月日	場 所	報 告 事 項
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 平成30年度事業報告 2. 平成30年度収支決算報告 3. 令和元年度事業計画 4. 令和元年度収支予算 5. 令和元年度支部運営委員 6. その他 ・第33回 振興賞 技術振興賞 授与式

2) 活動・運営委員会

①支部

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 支部運営委員会	17名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 講演会 「持続可能な建築・街を支えるエネルギーシステム」	64名
2019. 6. 1	松代街(旧松代藩)各種施設	1. 見学会	32名
2019. 7. 29	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	9名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	10名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	5名
2019. 11. 18	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	7名
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	中止
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	中止

②福井県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 支部運営委員会	3名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 講演会 「持続可能な建築・街を支えるエネルギーシステム」	5名
2019. 6. 1	松代街(旧松代藩)各種施設	1. 見学会	5名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
2019. 11. 14	越前市 新越前市庁舎と タケフナイフビレッジ	1. 見学会	32名
2019. 11. 18	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名

2020.3.16⇒ コロナ延期	福井市 福井県国際交流会館	1. 技術講習会 「これからのBIMと建築設備」	延期
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	中止
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	中止

③石川県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 支部運営委員会	4名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 講演会 「持続可能な建築・街を支えるエネルギーシステム」	9名
2019. 6. 1	松代街(旧松代藩)各種施設	1. 見学会	5名
2019. 6. 18	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「高まる顔認証のニーズについて」 他	71名
2019. 7. 29	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	3名
2019. 8. 20	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「建設業者数の減少と新SUS薄肉管用拡張式継手の活用」 他	70名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	3名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	2名
2019. 10. 30	金沢市 NHK新金沢放送会館	1. 見学会 「NHK新金沢放送会館見学」	60名
2019. 11. 13	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 研修会 「環境調整型建築外部空間の創出」 他	110名
2019. 11. 18	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	4名
2019. 11. 22	金沢市 金沢港クルーズターミナル	1. 設備女子会見学会(同日夜、意見交換会) 「金沢港クルーズターミナル」	30名
2020. 2. 18	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「中規模オフィスビルの更新による普及型ZEBの実現」 他	69名
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	中止
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	中止

④富山県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 支部運営委員会	3名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 講演会 「持続可能な建築・街を支えるエネルギーシステム」	6名
2019. 6. 1	松代街(旧松代藩)各種施設	1. 見学会	2名
2019. 7. 29	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名

2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	3名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
2019. 11. 15	富山市 富山電気ビル	1. 設備フォーラム 「水熱源ヒートポンプ機器を用いた省エネシステムと新型空冷式 ヒートポンプチラーのご紹介」 他	83名
2019. 11. 18	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名
2020.3.13⇒ コロナ延期	富山市 高志会館	1. 講習会 「北陸の雷と雷被害対策について」 他	延期
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	中止
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	中止

⑤新潟県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
2019. 5. 23	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「自動制御について」	82名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 支部運営委員会	3名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 講演会 「持続可能な建築・街を支えるエネルギーシステム」	12名
2019. 6. 1	松代街(旧松代藩)各種施設	1. 見学会	10名
2019. 7. 29	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	3名
2019. 7. 23	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「空調熱源機器について」	74名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
2019. 9. 12	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「消火設備について」	73名
2019. 11. 8 ～9	福島県 特養いなわしろホーム、池田記念病院、サッカー施設「Jヴィレッジ」	1. 見学会	22名
2019. 11. 14	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「衛生器具について」 他	67名
2020.3.11⇒ コロナ中止	新潟市 新潟テルサ	1. 技術講演会 「建築設備のトラブル事例に学ぶ」 他	中止
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	中止
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	中止

⑥長野県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 支部運営委員会	2名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 講演会 「持続可能な建築・街を支えるエネルギーシステム」	21名
2019. 6. 1	松代街(旧松代藩)各種施設	1. 見学会	9名
2019. 7. 22	長野市 信州大学工学部	1. 講演会 「AI・IoTの進歩と今後の建築設備」	120名
2019. 7. 29	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
2019. 8. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名
2019. 11. 22	長野市 信州大学工学部	1. 講演会 「環境共生型エコホスピタル（岡谷市民病院）」	122名
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	中止
2020. 3. 23	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	中止

3) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	内容・主要議題	受験者
2019. 11. 23	新潟テルサ	空調部門	22名
2019. 11. 24		衛生部門	15名

4) 見学会・講演会・講習会・フォーラム

開催年月日	場 所	内容・主要議題	受講者
2019. 5. 23	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「自動制御について」	82名
2019. 5. 31	長野市 ホテル信濃路	1. 講演会 「持続可能な建築・街を支えるエネルギーシステム」	64名
2019. 6. 1	松代街(旧松代藩)各種施設	1. 見学会	32名
2019. 6. 18	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「高まる顔認証のニーズについて」 他	71名
2019. 7. 22	長野市 信州大学工学部	1. 講演会 「AI・IoTの進歩と今後の建築設備」	120名
2019. 7. 23	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「空調熱源機器について」	74名
2019. 8. 20	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「建設業者数の減少と新SUS薄肉管用拡張式継手の活用」 他	70名
2019. 9. 12	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「消火設備について」	73名
2019. 10. 30	金沢市 NHK新金沢放送会館	1. 見学会 「NHK新金沢放送会館見学」	60名
2019. 11. 8 ～9	福島県 特養いなわしろホーム、池田記念病院、サッカー施設「Jヴィレッジ」	1. 見学会	22名

2019. 11. 13	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 研修会 「環境調整型建築外部空間の創出」 他	110名
2019. 11. 14	越前市 新越前市庁舎と タケフナイフビレッジ	1. 見学会	32名
2019. 11. 14	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「衛生器具について」 他	67名
2019. 11. 15	富山市 富山電気ビル	1. 設備フォーラム 「水熱源ヒートポンプ機器を用いた省エネシステムと新型空冷式 ヒートポンプチラーのご紹介」 他	83名
2019. 11. 22	長野市 信州大学工学部	1. 講演会 「環境共生型エコホスピタル（岡谷市民病院）」	122名
2019. 11. 22	金沢市 金沢港クルーズターミナル	1. 設備女子会見学会（同日夜、意見交換会） 「金沢港クルーズターミナル」	30名
2020. 2. 18	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「中規模オフィスビルの更新による普及型ZEBの実現」 他	69名
2020.3.11⇒ コロナ中止	新潟市 新潟テルサ	1. 技術講演会 「建築設備のトラブル事例に学ぶ」 他	中止
2020.3.13⇒ コロナ延期	富山市 高志会館	1. 講習会 「北陸の雷と雷被害対策について」 他	延期
2020.3.16⇒ コロナ延期	福井市 福井県国際交流会館	1. 技術講習会 「これからのBIMと建築設備」	延期

(7) 近畿支部

I. 事務報告

1) 支部報告会並びに関連行事

① 支部報告会 (第56期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題
2019. 5. 17	ガーデンシティ クラブ大阪	1. 平成30年度 事業実績報告の件 2. 平成30年度 収支決算報告の件 3. 令和元年度 事業計画案報告の件 4. 令和元年度 収支予算案報告の件 5. 令和元年度 委員選任の件 以上各報告

参加者 30人

② 記念講演会

開催年月日	場 所	題 目・講 師
2019. 5. 17	ガーデンシティ クラブ大阪	「体液バランスが運動能力および体温調節機能に及ぼす影響」 講師 河端 隆志 関西大学教授

参加者 61人

2) 運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題
2019. 4. 23	ドーンセンター	1. 本部理事会報告の件 2. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 3. 支部報告会開催に関する件 4. 会計報告(収支報告・予算案)に関する件
2019. 5. 17 (拡大)	ガーデンシティ クラブ大阪	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 委員等の交代に関する件 4. 第55期支部報告会・関連行事等に関する件 5. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件
2019. 6. 18 (拡大)	ドーンセンター	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 令和元年度各委員会の役割に関する件 4. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 5. 令和元年度年間予定表(各委員会別)に関する件
2019. 7. 23	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 令和元年度年間予定表(各委員会別)に関する件
2019. 10. 29 (拡大)	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 令和元年度年間予定表(各委員会別)に関する件
2019. 12. 17	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 令和元年度年間予定表(各委員会別)に関する件

2020. 1. 10 (拡大)	ハービスPLAZA 会議室	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 令和元年度年間予定表（各委員会別）に関する件
2020. 3. 23 (拡大)	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 令和元年度年間予定表（各委員会別）に関する件

II. 事業報告

1) 第34回振興賞技術振興賞に関する業務実施

技術振興賞推薦小委員会にて審査資料を検討の上、ヒアリングを行い審査

2) 令和元年度（第64次）設備士資格検定試験（大阪）に伴う業務実施

試験日 令和元年11月23日（土）空調部門 受験申込者 184名

令和元年11月24日（日）衛生部門 受験申込者 160名

試験場 大阪大学

3) 能力開発委員会

①研修会（1）

開催年月日	場 所	内 容	受講者
2019. 5. 8～ 10, 13, 14	エル・おおさか	初級技術者のための基礎知識研修会 研修科目 16科目	全 講 座 62名 パート別 10名

プログラム

区分	日程	時 間	題 目	講 師	所 属
共 通	5. 8	9:30～11:00	建築設備の知識	永田 久子	㈱東畑建築事務所
		11:10～12:30	電気の知識	北野 勝也	㈱きんでん
		13:30～15:30	設備図面の知識	梅村 俊輔	㈱日建設計
		15:40～17:40	施工と安全管理	原田 孝治	ダイダン㈱
給排水	5. 9	9:30～12:30	給水・給湯設備	竹原 貴子	須賀工業㈱
		13:30～15:30	衛生器具設備	坂本 裕平	TOTO㈱
		15:40～17:40	消火設備	渡具知善治	元㈱城口研究所
	5. 1	9:30～12:30	排水・通気設備	森嶋 章浩	㈱西原衛生工業所
		13:30～15:30	排水処理設備	大屋 雅英	㈱西原ネオ
		15:40～17:40	配管と材料	森下隆一郎	㈱三晃空調
空 調	5. 13	9:30～11:00	室内環境	小林 知広	大阪大学
		11:10～12:30	空調負荷	千原 崇	三機工業㈱
		13:30～15:00	空調・換気設備	辻 晴亮	三機工業㈱
	5. 14	9:30～12:30	湿り空気線図	谷口 勝則	㈱昭和設計
		13:30～16:00	熱源設備	門脇 宏和	新日本空調㈱
		16:10～17:40	排煙設備	新保東輝彦	㈱朝日工業社

②研修会（2）

開催年月日	場 所	内 容	受講者
2019. 6. 4～ 5 2019. 6.11～12	エル・おおさか	中堅技術者のための研修会 (パート1～8)	全 講 座 17名 パート別 32名

プログラム

開催年月日	時 間	題 目・講 師	
2019. 6. 4	10:00～13:00	建築計画と設備計画	田中 宏昌 (株)日建設計
	14:00～17:00	設備リニューアル計画	坂元 永和 (株)大気社
2019. 6. 5	10:00～13:00	熱源システム	吉田 岳 新日本空調(株)
	14:00～17:00	ビル管理システムと最新IoT・AIソリューション	高杉 鎮史 ジョンソンコントロールズ(株)
2019. 6. 11	10:00～13:00	用途別空調システム (業務用)	三宅 宏 高砂熱学工業(株)
	14:00～17:00	用途別空調システム (産業用)	中村 浩二 新菱冷熱工業(株)
2019. 6. 12	10:00～13:00	給排水設備の動向	加川 一郎 須賀工業(株)
	14:00～17:00	施工管理とトラブル事例	平 裕二 ダイダン(株)

③一般講習会

開催年月日	場 所	内 容	受講者
2019. 12. 2	エル・おおさか	BIM及びICTを活用した現場業務効率化の取り組み 加藤 誠 (鹿島建設) 鈴木 崇浩 (高砂熱学工業)	50名

④地区講演会

開催年月日	場 所	内 容	受講者
2020. 1. 30	ドーンセンター	植物工場 栽培室の環境制御と植物生産、品質 吉田 篤正 (大阪府立大学)	32名

4) 見学会委員会

開催年月日	見 学 場 所	参加者
2020. 2. 12	東大阪市文化創造館	16名

5) 学術研究発表委員会

①第49回学術研究発表会

申込締切 令和2年1月8日 (水)
原稿締切 令和2年2月21日 (金)
開催日時 令和2年3月9日 (月) 中止
会 場 大阪大学中之島センター

6) 広報・情報委員会

①支部ホームページの運用・維持管理

研究会・講習会の資料をホームページよりダウンロードするシステム運営中
研修会・講習会の申し込みをホームページ上で行うシステム運営中

②ホームページの活用法等に関する検討と提案

環境工学研究会の会員申し込みをホームページ上で行うシステム運営中

③技術資料収集および支部広報活動の検討

④その他

学術研究発表会論文集のPDF化
支部パンフレットの配布

7) 国際交流委員会

①国際技術動向報告会

実施日 令和2年1月10日（金）

場 所 大阪市立大学 文化交流センター

演 題 「2019年ASHRAE冬季大会（アトランタ）視察報告と「全米一住みたい街No. 1の建物事情見学」報告」

講 師 赤司 泰義（東京大学）

竹部 友久（日本設計）

田口雄一郎（関西電力）

参加者 46名

②第10回国際学生交流会

留学生を対象に研究交流・見学会・懇親会を実施

実施日 令和元年10月18日（金）

場 所 イオンモール堺鉄砲町

参加者 34名

8) 総務企画委員会

①運営委員会、運営委員会（拡大）、支部報告会に関する検討

②運営委員会、運営委員会（拡大）の議事次第、議事録作成並びに年間予定表(各委員会別)の随時更新

9) 環境工学研究会運営委員会

①登録数 個人登録：76名 団体登録：38社

②プログラム

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
2019. 6. 21 (第340号)	ドーンセンター	「ZEB化に向けた空調システムの最前線」 報告者：中尾 正喜（大阪市立大学） 杉浦 聡（ダイダシ）	51名
2019. 7. 19 (第341号)	ドーンセンター	振興賞技術振興賞、支部学術研究発表会奨励賞の成果報告	43名
2019. 9. 13 (第342号)	ドーンセンター	「快適かつ魅力的な都市・屋内外環境デザインを実現するために」 報告者：森山 正和（神戸大学） 大橋 巧（摂南大学） 坂口 武司（竹中工務店）	40名
2019. 10. 25 (第343号)	ドーンセンター	「室内環境の温熱快適性」 報告者：高田 暁（神戸大学） 久保 博子（奈良女子大学）	37名
2019. 11. 15 (第344号)	ドーンセンター	「ザ・Wellnessオフィス」 報告者：清重 剛男（竹中工務店） 杉元 康浩（ダイキン工業）	39名
2020. 1. 24 (第345号)	ドーンセンター	「温泉熱を活用した地域ぐるみの二酸化炭素排出削減手法」 報告者：高木 禎史（三機工業） 鍋島美奈子（大阪市立大学大学院）	27名

10) 会員委員会

①会員数増加に関する方策検討

8. 中国・四国支部

1) 支部報告会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
2019. 5. 31	広島ガーデンパレス	1. 2018年度事業報告に関する件 2. 2018年度収支決算報告に関する件 3. 2019年度事業計画報告に関する件 4. 2019年度収支予算報告に関する件	26名

2) 地区講演会（報告会付帯）

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 5. 31	広島ガーデンパレス	「環境建築・実現に向けての課題と設備技術者の役割」 講 師：株式会社日本設計 常務取締役 柳井 崇	72名

3) 支部運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 8. 1	広島管工事会館	1. 2019年度事業計画案に関する件 2. 支部創立50周年事業に関する件 3. 2019年度設備士試験の実施に関する件 4. 2020年度支部報告会の日取りに関する件 5. 第34回振興賞技術振興賞審査スケジュールに関する件 6. 情報運営委員会に関する件	10名
2019. 9. 24	広島管工事会館	1. 施設見学会の開催に関する件 2. 支部創立50周年事業に関する件 3. スチューデントフォーラムの開催に関する件 4. 第34回振興賞技術振興賞審査スケジュールに関する件 5. 情報運営委員会に関する件	11名
2019. 12. 10	広島管工事会館	1. スチューデントフォーラムの開催報告に関する件 2. 2020年度支部事業計画案に関する件 3. 2020年度支部予算案に関する件 4. 技術セミナーの開催計画に関する件	8名

4) 学術研究委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 6. 29	広島大学 東千田未来創生センター	1. 今年度の行事開催に関する件 2. 支部創立50周年記念事業に関する件	11名
2019. 9. 24	広島管工事会館	1. スチューデントフォーラムの開催に関する件	5名
2019. 10. 28	広島管工事会館	1. スチューデントフォーラムの開催に関する件	7名

5) 情報運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 6. 11	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	7名
2019. 9. 5	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	7名
2019. 11. 28	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	4名
2020. 2. 26	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	2名

6) 委員会合同会議

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 5. 16	広島管工事会館	1. 2018年度事業報告及び収支決算に関する件 2. 2018年度事業計画案及び収支予算案に関する件 3. 2019年度支部報告会のスケジュールに関する件 4. 2019年度地区講演会（報告会付帯）に関する件	18名
2019. 5. 31	広島ガーデンパレス	1. 報告会並びに関連行事運営の細目に関する件	20名
2019. 10. 28	広島管工事会館	1. スチューデントフォーラムの開催に関する件	7名

7) 振興賞技術振興賞推薦小委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 11. 1	広島管工事会館	1. 応募業績のヒアリングに関する件 2. 今後の審査予定に関する件	5名
2019. 12. 10	広島管工事会館	1. 応募業績現地調査報告に関する件 2. 推薦業績の決定に関する件	6名

8) 支部設立50周年事業準備委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
2019. 9. 24	広島管工事会館	1. 支部創立50周年事業の開催に関する件	6名
2019. 12. 10	広島管工事会館	1. 支部創立50周年事業に関する件	5名
2020. 1. 21	広島管工事会館	1. 支部創立50周年事業に関する件	8名
2020. 3. 3	広島管工事会館	1. 支部創立50周年事業に関する件	20名

9) スチューデントフォーラム

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 12. 7	広島大学東千田キャンパス	第2回スチューデントフォーラム	84名

10) 見学会

開催年月日	見 学 場 所	参加者
2019. 9. 10	福山市総合体育館	31名

11) 設備士資格検定試験

実施年月日	場 所	受験申込者内訳
2019. 11. 23 11. 24	広島情報専門学校	「2019年度(第64次)設備士資格検定試験」 空調部門：50名 衛生部門：49名

12) その他〔共催〕

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 11. 30	広島大学 東千田未来創生センター	日本建築学会中国支部環境工学講演会 「包括熱伝導率を用いた耐火試験時の裏面温度予測に関する研究」 近畿大学工学部建築学科 助教 吉谷 公江 「気候特性を考慮した都市高温化対策の適所導入に関する研究」 福山市立大学都市経営学部 助教 横山 真 主 催：日本建築学会中国支部環境工学委員会	38名

13) その他〔後援〕

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 11. 29	広島市文化交流会館	次世代技術者のための講演会～翔び出せ！若手技術者たち～ 主 催：建築設備技術者協会中国・四国支部	155名

(9) 九州支部

1) 支部報告会 (第54期)

開催年月日	場 所	主 要 題 目	参加者
2019. 5. 17	福岡商工会議所ビル (407号室)	・第54期事業報告、会務報告、会計報告 ・第55期支部事業計画ならびに予算について ・第33回振興賞技術振興賞表彰式	35名

2) 講演会 (報告会附帯)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
2019. 5. 17	福岡商工会議所ビル (407号室)	「これからの建築設備」 講 師：田辺 新一 氏 本学会会長・早稲田大学	132名

3) 振興賞技術振興賞報告会 (報告会附帯)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
2019. 5. 17	福岡商工会議所ビル (407号室)	受賞件名 「長崎みなとメディカルセンター ～災害拠点病院を支える設備の構築と省エネ検証～」 報告者：龍 英夫 氏 (大成建設株式会社)	118名

4) 市民公開シンポジウム

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
2019. 10. 25	西鉄イン福岡 (大ホール)	節水型都市づくり 1. 「水道の持続可能性について考える」 講 師：柳橋 泰生 氏 (福岡大学) 2. 「節水先進国の事例と節水型衛生器具普及のあり方」 講 師：豊貞 佳奈子 氏 (福岡女子大学) 3. 「福岡市における節水型都市づくり (下水処理水の有効利用)」 講 師：濱田 秀幸 氏 (福岡市道路下水道局) 4. 「節水社会と大便器の進化」 講 師：柴田 信次 氏 (TOTO株式会社)	165名

5) 見学会

開催年月日	場 所	参加者
2019. 11. 15	九州大学伊都キャンパス	14名

6) 国際学生交流会 (施設見学)

開催年月日	場 所	参加者
2020. 2. 19	(福岡市) シーサイドももち熱源センターおよび天神地区	50名

7) 講習会

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
2020. 2. 27	電気ビル共創館 (A会議室)	“九州における地中熱利用の未来” 1. 「地中熱利用の全国・先進地域の動向」 講 師：葛 隆生 氏 (北海道大学) 2. 「佐賀県の未利用熱利用と佐賀平野の地中熱ポテンシャルマップ」 講 師：原田 烈 氏 (有明未利用熱利用促進研究会) 3. 「最新熱交換技術・地中熱利用ヒートポンプ」 講 師：仮屋 圭史 氏 (佐賀大学)	中止

8) 学術・技術交流会 (第1回)

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 10. 25	西鉄イン福岡 (大ホール)	・ 研究発表 (口頭発表：6題, ポスター発表：18題)	61名

9) 試験関係

開催年月日	場 所	題 目	受験者
2019. 11. 23 2019. 11. 24	博多バスターミナル	・ 令和元年度 (第64次) 設備士資格検定試験	空調 49名 衛生 48名

10) 支部運営委員会・幹事会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 4. 24	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第55期年間行事予定 3. 第54期九州支部報告会および附帯行事について 4. 第55期委員名簿について	26名
2019. 5. 17	福岡商工会議所ビル (406号室)	1. 本部理事会・通常総会報告 2. 第55期年間行事予定 3. 第54期九州支部報告会および附帯行事の最終確認	27名
2019. 7. 24	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第55期年間行事予定 3. 令和元年度 (第34回) 技術振興賞応募状況について 4. 市民公開シンポジウムについて 5. 九州支部学術・技術交流会について 6. 施設見学会について	23名
2019. 9. 27	博多駅南Rビル会議室	1. 第55期年間行事予定 2. 第3回九州支部学術・技術交流会について 3. 市民公開シンポジウムについて 4. 施設見学会について 5. その他	25名
2019. 10. 25	西鉄イン福岡 (大ホール)	1. 市民公開シンポジウムの最終確認	21名

2019. 10. 29	八仙閣	1. 本部理事会報告 2. 55期年間行事予定 3. 第3回九州支部学術・技術交流会の報告 4. 市民公開シンポジウムの報告 5. 施設見学会について 6. 支部講習会について	21名
2019. 12. 17	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第55期年間行事予定 3. 施設見学会報告 4. 支部講習会について 5. 国際学生交流会について 6. その他	27名
2020. 3. 17	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第55期年間行事予定 3. 支部講習会（中止）報告 4. 国際学生交流会報告 5. 第55期支部報告会について 6. その他	24名

11) 賛助会員会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
2019. 4. 22	(株)産研設計会議室	・第1回および第2回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第54期支部報告会準備打合せ	幹事 5名
2019. 6. 24	(株)産研設計会議室	・第3回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ	幹事 7名
2019. 8. 29	(株)産研設計会議室	・第4回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ	幹事 6名
2019. 10. 3	(株)産研設計会議室	・第5回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ	幹事 7名
2019. 11. 15	(株)産研設計会議室	・第6回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・支部講習会打合せ	幹事 6名
2020. 2. 21	(株)産研設計会議室	・第7回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第55期支部報告会準備打合せ	幹事 6名
2020. 3. 17	(株)産研設計会議室	・第1回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第55期支部報告会準備打合せ	幹事 7名

3. 資格付与の実施に関する事項

(1) 設備士資格検定委員会

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
設備士資格検定委員会 佐々木 洋二	38	令和元年度（第64次）設備士資格検定試験の実施にあたり、試験問題の作成および試験運営について審議、決定した。 受験申込者実数は1,715名で、受験資格審査の結果、有資格者実数は1,701名（空調部門1,384名、衛生部門1,277名）であった。 試験日は空調部門11月23日（土）、衛生部門11月24日（日）であり、全国9都市（東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・新潟・広島・福岡・那覇）において実施した。

(2) 令和元年度（第64次）設備士資格検定試験

受験申込期間	令和元年8月1日（木）～8月30日（金）
試験実施日	空調部門 令和元年11月23日（土） 衛生部門 令和元年11月24日（日）
試験実施地	全国9都市 （東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・新潟・広島・福岡・那覇）

	延人数	内 訳（人）		実人数
		空調	衛生	
受験申込者	2,679	1,395	1,284	1,715
有資格者	2,661	1,384	1,277	1,701
出席者	1,933	1,043	890	
合格者	774	398	376	
不合格者	1,159	645	514	

4. 技術開発・研究開発の実施に関する事項

(1) 規格制定事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
標準化委員会	3	1. 学会規格 (SHASE-S) の改定について理事会に提案した。 【SHASE-S 006-2019】金属製変位吸収管継手 【SHASE-S 007-2019】メカニカル形変位吸収管継手 【SHASE-S 110-2019】送風機の音響パワーレベル測定方法 【SHASE-S 112-2019】冷暖房熱負荷簡易計算法 【SHASE-S 206-2019】給排水衛生設備規準・同解説 2. 学会規格 (SHASE-S) の5年見直し (改定・確認・廃止) について協議した。 3. 令和2年度学会規格 (SHASE-S) 改定小委員会の設置を 審議・決定した。 【SHASE-S 013】建築設備用配管ねじ接合シール材改定小委員会 対象規格：建築設備用配管ねじ接合シール材 (2014) 【SHASE-S 114】空調機器騒音測定方法改定小委員会 対象規格：空調機器騒音測定方法 (2011) 4. 第17回功績賞受賞候補業績について審議・決定し、功績賞選考委員会に推薦した。 <業績名> SHASE-S 119-2017 空気調和設備室内騒音の測定方法 5. 第28回篠原記念賞・奨励賞受賞候補業績について審議・決定し、篠原記念賞・奨励賞選考委員会に推薦した。 <業績者> 中村 勉 氏
空気調和・衛生設備工事 標準仕様書改定小委員会 井澤 知	13	1) 共通WG、空調WG、衛生WGに分かれ、各WGグループ担当部分の改定原稿案を作成 2) 改定原稿案の小委員会内での読み合わせ、査読を行い、改定原稿案の取り纏め
建築設備用あと施工 アンカー改定小委員会 戸邊 勉	10	H30年度及び令和元年度の調査・検討結果とコーンナット式の性能評価検証結果などを基に、規格改定原案の原稿 (案) を委員分担して作成した。 1. 前回改定後のあと施工アンカーに関する規格・指針文等の情報収集と内容確認。 2. コーンナット式の規格化に向けた評価実験と検証実施。(検証内容は2019年度学術講演会にて発表) 3. ねじ込式アンカーの予備評価と今後の課題抽出。 4. ドリルビットに関する調査および特殊ドリルビットの予備評価(座堀りドリル)の実施。 5. 新たなあと施工アンカーの種類調査・内容確認。 6. あと施工アンカーの採用検討時にわかりやすい選定フローを作成した。 7. 2013年版規格からの変更内容の討議・決定。主な内容は以下の通り。 ・金属拡張アンカーは新たにコーンナット式を加えた4種類とする規定とした。 ・ドリルビット呼びに関する規定方法を見直し改定した。 ・施工方法に、電動工具による機械施工を規格に盛り込んだ (コーンナット式のみ)。 ・変更や不足などがあつた引用文献を修正した。 本年度中に改定原稿 (案) を提出し、改定小委員会を終了とする。
オイル阻集器改定 小委員会 小南 和也	3	1. 規格の改定について、委員からの意見を求め、改定案を作成した。 2. 規格改定案の査読を行い、全体の整合性を図った。 3. 改定原案を学会に提出した。 4. 改定原案の査読結果に基づく検討を行い、規格に反映のうえ修正版を作成し、学会に提出した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
建築設備用インサート 改定小委員会 西田 悟	8	<p>令和元年度より2年間でSHASE-S009建築設備用インサートの改定企画案を作成するとの方針であったが、委員からの意見や情報を基に改定すべき項目の検討を行った結果、改定を行うにあたり確認実験が必要な項目があり、令和3年度の改訂原案提出予定にて検討中である。</p> <p>初年度は特に以下の項目について調査、検討を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. JIS規格、関連法令等による改定が必要な個所についてのピックアップ 2. 建築設備用インサートの使用用途や使用部位による新形状の調査および改定の検討 3. デッキプレート谷部使用についての検討および実験計画 ※デッキプレート谷部確認実験については令和2年4月に実験実施予定 4. 建築設備用インサートの施工管理、品質向上のための項目追加の検討 5. 上記に対する製造メーカーへのアンケート調査実施の検討 <p>次年度は、令和2年12月原案作成本格開始を目標に上記項目について詳細検討を行い、実験結果や調査結果に基づき規格の改訂作業を実施する。</p> <p>また、デッキプレート谷部に関する項目追加の検討については、実験結果を踏まえ反映可否および内容の検討を行う。</p>
建築設備用ステンレス鋼 鋼管のプレハブユニット 改定小委員会 松島 俊久	7	<p>建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニット改定小委員会は、制定時からの課題である冷間加工についての性能確認を行い、新規の基準を追加制定すること、現行JIS規格との整合、最近の事故事例及びプレハブ会社の社内基準を把握し、それらを踏まえて統一的な改定を行うことを目的として活動した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 規格制定後からの懸念事項と確認すべき内容の整理を行った。 2. 過去5年間におけるステンレス配管の事故例の実態調査を行った。 3. SAS371：2018において「バンド管の部材減肉率-25%以下」を決定した根拠を調べ、ステンレス協会に問題となる部分の申し送りをした。 4. 管端つば出しとスタブエンドの使い分け及び識別に方法など新たな課題を抽出した。 5. ステンレス協会「連結送水管にSUS304TPDを使用する場合の留意点」の事故事例とコメントの確認を行った。 6. 冷間加工の性能試験項目の抽出と絞り込みを行った。 7. 溶接継手の表面粗さ、ガスケット座の表面粗さに関する調査を実施した。 8. 加工管メーカーの腐食試験状況を調査し、資料の収集をした。
SHASE-S 218 集合住宅の 排水立て管システムの 排水能力試験法小委員会 坂上 恭助	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現規格の精査 2. 排水システム関連状況の整理 3. 関連文献の調査と整理 4. 本文および解説文の加筆修正 5. 改定案の作成と慎重審議 6. 改定案の作成

5. 講座・セミナーの実施に関する事項

(1) 教育普及事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
教育普及事業委員会 田之頭 健一	5	1. 委員会が管掌する本部事業の企画ならびに運営について検討した。 2. 初級技術者のための研修会、技術講演会、セミナー 初級技術者のためのステップアップ研修会、中堅技術者のための研修会、見学会、出前講座の企画・実施を行なった。 3. 平成31（令和元）年度・令和2年度の本委員会が管掌する事業について大要を検討した。

(2) 学術事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術事業委員会 下田 吉之	6	<p>1. 令和元年度大会（札幌）の実施 会 期 令和元年9月18日（水）～20日（金） 会 場 北海道科学大学 中央棟（E棟）および講義棟（G棟） 参加者 1,424名 講演論文 一般719編（うちInternational Session11編）、オー ガナイズドセッション24編 委員会中間報告 設置2年目の7調査研究小委員会 第57回学会賞論文賞受賞論文発表 第57回学会賞技術賞受賞物件発表 第19回特別賞十年賞および第7回リニューアル賞受賞物件発表 スチューデントフォーラム テクニカルツアー International Session Special Lecture（国際セッション 特別 講演） 日 時:9月19日（木）13:00～14:00 主 題: Building for People and Performance - Ensuring Operational Excellence 講 師: Darryl Boyce (ASHRAE会長) Q&A Session 日 時:9月19日（木）14:05～15:05 主 題: Ten Questions Regarding Energy Efficiency and Comfort in US and Europe 講 師: Shin-ichi Tanabe (SHASE会長、早稲田大学教授)、 Bjarne W. Olesen (ASHRAE元会長、デンマーク工科大学教授)</p> <p>展示会 期 間: 9月18日（水）午後～20日（金）午前 規 模: 企業・団体: 15社16コマ、研究機関: 15大学研究室21コマ</p> <p>交流会 日 時: 9月18日（水） 会 場: 一般: 京王プラザホテル札幌 B1F プラザホール（18:30～20:30） 学 生: 北海道科学大学 HITプラザ（18:00～19:30） 出席者: 一般: 206名、学生: 99名</p> <p>公開講演会 日 時: 9月18日（水）16:00～17:30 会 場: 北海道科学大学 中央棟（E棟）E401大講義室 主 題: 北海道科学大学における学部再編・大学統合とキャンパ ス整備について 講師: 西 安信（北海道科学大学 名誉理事長） 参加者: 約200名 優秀講演奨励賞 受賞者18名 大会学術講演論文集の発行 発行日: 令和元年9月4日（水）</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
<p>学術事業委員会 (続き)</p>		<p>2. スチューデントフォーラムの活動 スポーツ大会 種 目：ボーリング 日 時：8月26日（月）18時～20時 見学会 見学先：すみだ水族館 日 時：11月27日（水）15時～17時 会誌の発行</p> <p>3. 第53回空気調和・冷凍連合講演会（東京）の共催 共 催 当学会、日本機械学会（幹事学会）、日本冷凍空調学会 会 期 令和元年4月17日（水）～19日（金） 会 場 東京海洋大学 海洋工学部 85周年記念会館 講演件数 一般講演 35件 特別講演 1件 基調講演 3件 技術賞講演 5件 参加登録 115名</p> <p>4. 令和2年度大会（福井）の開催計画 会 期 令和2年9月16日（水）～18日（金） 会 場 福井大学 関連企画（予定） 第58回学会賞“論文賞”“技術賞”受賞物件の 講演、技術展示会、テクニカルツアーその他”</p> <p>5. 令和3年度大会の開催予定 会 期：令和3年9月 会場：東北支部管轄の大学</p> <p>6. シンポジウム 開催申請、終了報告を承認</p> <p>7. 第32回環境工学連合講演会の運営協力（主催：日本学術会議） 会 期：令和元年5月21日（火） 会 場：日本学術会議講堂</p>

(3) CPD事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CPD事業委員会 柳原 茂	3	CPD制度の課題を整理し以下の検討を行った。 1. 履歴登録内容の審査ならびに履歴審査担当者の調整 2. 協議が必要な履歴内容の審査 3. 証明書発行業務の実施 4. 所属する協議会等の運営に関する報告 5. 年次報告書、計画書、委員候補者名簿、予算の検討

(4) 各種発表

管掌	名 称	開催年月日	場 所	参加者数	発表件数・テーマ	会誌掲載号
学術理事	空気調和・冷凍連合講演会*	31.4.17~19	東京海洋大学85周年記念会館	115	一般講演：35編、特別講演：1件、基調講演：3件、技術賞講演：5件、ワークショップ：5件	31.3
	年次大会**	1.9.18~20	北海道科学大学 中央棟 (E棟) および講義棟 (G棟)	1,424	一般講演：719編、オーガナイズドセッション：24編	1.7
	公開講演会	1.9.18	北海道科学大学 中央棟 (E棟)	200	北海道科学大学における学部再編・大学統合とキャンパス整備について	1.7
	シンポジウム	1.7.3	工学院大学アーバンテックホール	90	コミュニケーションのビジネス展開に向けて	1.6
	シンポジウム	1.8.9	東桜会館 集会室	40	非住宅の省エネルギー実現に向けた設計・運用・検証資料の提案と事例紹介	1.7
	シンポジウム	1.8.29	空気調和・衛生工学会 会議室	28	給排水負荷算定法の動向と今後	1.8
	シンポジウム	1.12.13	NSホール	51	超低炭素建築を支える空調システムと設計・制御	1.11
	社員総会特別講演会	1.5.10	明治記念館	250	マルチスケールロボット - 研究の楽しみ-	31.4
	技術講演会	1.7.18	空気調和・衛生工学会 会議室	55	激甚化する自然災害とリスクマネージメント	1.5
	セミナー	2.2.7	空気調和・衛生工学会 会議室	69	東京オリンピックを間近にしたこの時期に最先端のスポーツ施設を多角的に見てみる	1.1
	教育普及理事	初級技術者のための研修会	31.4.15~ 31.4.19	石垣記念ホール	136	初級技術者のための研修会
初級技術者のための ステップアップ研修会		1.6.20~ 1.6.21	空気調和・衛生工学会 会議室	40	初級技術者のための ステップアップ研修会	1.5
中堅技術者のための研修会		通年	空気調和・衛生工学会 会議室	595	中堅技術者のための研修会	31.4
見学会		1.9.11	—————	28	NOTIA 東急コミュニケーション技術研修センター	1.8
見学会		1.10.4	—————	30	前田建設工業 ICI総合センター・エクステンション棟	1.8
見学会		2.2.21	—————	51	横浜グラウンダート	1.1
出版説明会		1.11.29	空気調和・衛生工学会 会議室	48	快適な温熱環境のしくみと実践	1.10

* 第53回：当学会・日本冷凍空調学会・日本機械学会（幹事学会）共催 ** 優秀講演奨励賞受賞者：18名

6. 調査資料収集の実施に関する事項

(1) 学術調査研究事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術委員会 長井 達夫	2	以下について協議を行った。 1. 学術事業の統括に関する事項 2. 委員会年次報告、計画、予算、委員候補者に関する事項 3. 学術調査研究事業運営要領改定に関する事項 4. 国際交流事業（ASHRAE, CIBW062, CLIMA2019）に関する事項 5. 所掌する委員会運営に関する事項 6. 関連学協会の委員派遣および行事等に関する事項
研究委員会 長井 達夫	4	1. 管掌委員会に関する事項 1) 常設委員会、傘下小委員会の構成について審議し承認した 2) 令和元年度年次報告書および令和2年度計画書、予算、委員候補の審議、承認を行った 3) 委員会終了報告書（22件）、新規設置申請書（22件）の審議、承認を行った 4) 委員会成果報告書の提出の調整およびレポート番号付番を行った 5) 各表彰の推薦を行った（功績賞、篠原記念賞、篠原記念奨励賞） 2. 研究助成候補者等の推薦に関する事項 1) 財団法人鹿島学術振興財団：1件 2) 財団法人とうきゅう環境浄化財団：申請なし 3) 財団法人給水工事技術振興財団：申請なし 4) 独立行政法人日本学術振興会：申請なし 5) 関係団体からの研究助成推薦依頼に関する検討：申請なし 3. 国際交流に関する事項 1) 国際交流視察団の派遣 ①第24回国際建築設備調査団 第CIB W062国際シンポジウム（オーストラリア・メルボルン） 期 間：2019年9月6日（金）～9月13日（金） 団 長：小瀬 博之君 東洋大学 副団長：中野 民雄君 静岡文化芸術大学 参加者：15名 ②第29回国際交流視察団 ASHRAE冬季大会（オーランド、サンフランシスコ） 期 間：2020年1月31日（金）～2月9日（日） 団 長：小金井 真君 山口大学 副団長：田之頭健一君 東京ガス 参加者：26名 2) 学術交流を目的とする海外渡航に対する補助金支給に関する件（会員情報理事付託事業） 国際会議参加補助金：1件 3) 国際名誉員に関する件（会員情報理事付託事業） 1名を理事会へ推薦、承認された。 4) その他、関連の海外受信文書を適宜処理した。

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
空気調和設備委員会 村上 公哉	4	<p>本委員会は、以下の5つの小委員会にて構成されている。本年度は、委員会を4回開催した。そして、毎回以下の点について、情報共有、審議および検討を行っている。</p> <p>【小委員会構成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境建築における室内環境検討小委員会（高田 暁主査） 2. 空調システムの設計・評価検討小委員会（田中英紀主査） 3. 熱環境システム動的設計法検討小委員会（富樫英介主査） 4. パーソナル空調適用条件検討小委員会（佐々木真人主査） 5. 熱源システムLCM検討小委員会（百田真史主査） 6. ZEB価値評価手法検討小委員会（丹羽英治主査） <p>【委員会検討事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究委員会からの伝達事項の報告および付託事項の協議 2. 各小委員会の活動内容の報告と意見交換 3. 各小委員会の平成30年度事業計画・予算の検討 4. 空気調和設備の設計に関わる話題提供と意見交換 5. 拡大委員会の企画・計画
環境建築における 室内環境検討小委員会 高田 暁	3	<p>環境建築においては、LED照明化、ペリメータレス空調、自然換気の導入等々の新技術が導入されているが、空気質、温熱環境、光環境等の室内環境の担保に関する議論が疎かになっている可能性がある。本小委員会では、室内環境を担保する空調機器やセンサ等を扱う各企業の関連技術開発状況のヒアリング、最近竣工した環境建築の室内環境に関する動向調査、設計者・専門研究者へのヒアリング等を通じて、環境建築における室内環境の実態を明らかにするとともに、室内環境を担保するための技術に関してとりまとめることを目的とする。</p> <p>本小委員会は、3年間の期間のうち今年度は最終年度であり、合計3回の小委員会を開催した。活動の内容としては、前年度に引き続き、環境建築の要素技術や室内環境の評価の具体的事例を調査した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における夏季の温熱環境向上に向けた取り組み 2. 高層ビルのエレベータシャフトにおける煙突効果の防止策 3. 快適性と省エネルギー性を追求した空気線図エリア制御の研究開発事例 4. ZEBと快適性の両立を目指したオフィスビルにおける室内環境配慮事例 5. 室内環境改善とコミッションングの実例 6. 最適な環境建築設計について <p>また、3年間の活動結果を報告書として取り纏めた。環境建築における室内環境の実態が明らかとなり、室内環境を担保するための種々の最新技術の特徴を捉えることができた。例えば、いくつかの環境建築の事例には多様な要素が含まれているが、先進的な要素技術を多く取り入れた建物において省エネルギー性能が高い場合にでも、必ずしも居住者の室内環境に対する評価が高いとはいえず、一方で、その居住者からのフィードバックの結果には個人差があつて評価し難いという側面もある、など他にも様々な課題も見出された。本報告書では、今後の環境建築における望ましい室内環境の担保手法の考え方についても言及した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
空調システムの設計・ 評価検討小委員会 田中 英紀	3	<p>2019年度は本小委員会の活動最終年度であり、研究報告書のとりまとめを行った。小委員会は、秋までに3回開催し、報告書のとりまとめに関する調整を行った。また、うち1回（7月）は、秋田県に所在する市庁舎に導入された中温冷水利用システムについて現地調査も行った。</p> <p>今年度に研究報告書を取りまとめるにあたって、昨年までに整理した近年の内部発熱等の実態を入力条件として、ZEB指向建物の最大熱負荷、期間熱負荷、ペリメータ負荷を計算し、将来的な熱負荷傾向の分析を定量的に行った。</p> <p>また、先進的な空調システム事例調査から、潜顕分離空調の要素である中温冷水利用空調・デシカント空調・放射冷暖房空調を選定し、これらの設計方法の整理や実測データ分析をもとにした運転挙動の把握ならびに実エネルギー性能の評価を行った。</p> <p>外気処理については、シミュレーションによるケーススタディを行って定量評価し、今後の外気負荷の動向や負荷処理方式ならびに関連システムに関する考察を行った。</p> <p>新たな空調制御については、2管式VAVシステムにおける暖房期のペリメータ・インテリア負荷の合理的な処理制御手法に対して、さらにIoT・AI活用空調システムについては、人流予測によるフィードフォワード冷房制御システムに対する実測データを分析し、実性能の評価を行った。その他、空調システムの新たな評価手法として、NEBによる経済評価の試算例を示した。これらの成果は、12月に開催したシンポジウムにて公開・意見収集を行い、その結果を報告書に反映した。</p>
熱環境システム動的 設計法検討小委員会 富樫 英介	3	<p>2回の委員会と1回の拡大小委員会を開催し、以下の内容について議論を進めた</p> <p>第八回（2019/5/23 開催）</p> <p>拡大小委員会に向けて最終の予行練習を行った。当日の参加予定人数の確認、会場レイアウトの方法などについて最終確認をした。操作説明の手順、休憩のとり方、インターネットによる配信の方法を検討した。</p> <p>拡大小委員会（2019/6/7 開催）</p> <p>電腦建築最適化世界選手権の初日に合わせて拡大小委員会を開催し、選手権の趣旨やバーチャル建築の具体的な操作方法について解説を行った。</p> <p>第九回（2019/8/23 開催）</p> <p>選手権の結果を整理し、結果について議論が行われた。温冷感と不満足者の評価方法についていくつかの課題が示された。成果報告書の案が示され、内容確認が行われた。選手権参加者へのアンケート調査用紙について検討が行われた。上位チームに関してはヒアリングも実施する方針が示され、アンケートとヒアリングの結果は成果報告書へ追加される方針となった。</p> <p>以降は成果報告書のまとめ作業へ入り、メールによって適宜、内容確認と修正作業が進められた。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
パーソナル空調適用 条件検討小委員会 佐々木真人	3	<p>今年度は成果報告書の取りまとめを目的に、パーソナル空調にとってのアンビエント域の在り方、パーソナル空調とタスク空調は同義が異義か、など、空調の原点に立ち返る視点をいくつか取り上げ、総括的に様々な視点から議論を重ねた。</p> <p>本委員会の議論において、一般に「全体空調」、「アンビエント空調」、「タスク空調」は、それぞれ空調の対象領域を表しているが、「パーソナル空調」は、あくまで「1個人＝パーソナル」を対象に環境調整を行うものにとらえており、目的および機能を表しているものと定義した。その真意は、快適性は、ただひとりの感覚にもとづくものと、たとえ少人数でも他人の意向を汲みしながらの判断（快適性）では異なるものとなり、1個人である「パーソナル空調」と、少人数の「タスク空調」は、異なる定義が必要だと考えた。</p> <p>また、パーソナル空調は、社会的背景を受け、様々なシステムが開発されており、多様性、冗長性、独自性、オリジナル性などが尊重されるシステムである。そのため、画一的に設計手法を定め、規格することはシステム本来の目的にそぐわない。本委員会では、各設計者の設計・開発時の発想を支援できる情報として、日本における導入システム、開発システムをマップ的に分類整理し、設計者、開発者の視点を取り上げることにした。</p> <p>また、新規事例をデータベースに加え、データベースは過去30年間（1989～2019）の日本国内における実物件への導入事例を対象としており、縦軸が「複雑さ」、横軸が「人体からの距離」で整理した。</p> <p>以上の議論、調査を成果報告書にまとめた。</p>
熱源システムLCM 検討小委員会 百田 真史	5	<p>地域熱供給施設や業務用ビルのエネルギー管理にはライフサイクルマネジメントが求められており、熱源システムの更新や保全の重要性がさらに高まっている。この様な背景を受け、熱源システムの更新と保全に関する情報を集約し、熱源システム更新時の効率向上と更新後の保全に関する課題と対策に関する情報を公開・共有することで、熱源システムのライフサイクルマネジメントを収斂させていく必要がある。</p> <p>本小委員会においては、地域熱供給施設を対象とした熱源システム更新にかかる情報収集と、熱源機を長期運用時した場合の性能変化に着目した検討を行う。具体的には、多くの地域熱供給施設が更新の時期を迎えている現状において、熱源システム更新の方向性や傾向を把握することで、熱源システム更新後の性能向上に資する情報を集約する。また、地域冷暖房施設やある程度の規模の業務用ビルでは長期運用データを保有していると考えられることから、長期保全方法に関する検討として、熱源機の性能変化について実データに基づく解析を行う。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
熱源システムLCM 検討小委員会 (続き)		<p>初年度は、1) 実物件の状況把握、2) 文献/類似調査/類似研究の調査、3) 長期運用データの解析方法の検討などを行った。具体的には、1) 委員関連の実物件における熱源システム更新に関連する情報を収集し、2) 学協会の関連資料を収集しレビューを実施、さらに、3) 効率変動の評価方法を詳細版と簡易版の2手法で検討した。</p> <p>次年度以降は、「熱源更新情報の収集ととりまとめ」と、長期運用データの解析に基づく「性能変化の評価方法の検討」、「シンポジウムの開催」と、シンポジウムでの意見を反映した「報告書の作成」を予定している。</p> <p>最終的な成果としては、ある程度の規模以上の中央熱源空調方式（地域熱供給施設含む）では、個別分散空調方式では把握の難しい空調負荷とエネルギー使用量を定量的に把握可能であることから、更新や保全による効率変化を勘案したライフサイクルマネジメント手法の提示が期待される。</p>
ZEB価値評価手法 検討小委員会 丹羽 英治	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. ZEBの室内環境と知的生産性に関する評価手法の検討 ZEBの室内環境と知的生産性に関して、以下の既往の研究のレビューを行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 知的生産性評価等に基づく経済性・環境性評価 2) オフィスへの放射空調の導入が執務者の知的生産性に及ぼす影響 2. ZEBの健康度評価手法の検討 健康度評価手法に関して、CASBEE-WOによる評価結果等のレビューを行った。 3. ZEBの投資対効果評価手法の検討 ZEBの投資対効果の評価手法に関して、評価手法の概要、内部収益率や間接的便益の試算例等について紹介があった。 4. その他、ZEBの価値評価手法の検討 ZEBのコベネフィットに関して以下のような検討を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) コベネフィットに関する海外動向 2) コベネフィットの試算例 3) 間接的便益の分類と貨幣価値換算方法 4) 公共事業評価における間接的便益分析 5. ZEB先進事例の価値評価結果の調査 ZEBの先進事例（17事例）について、エネルギー性能評価、建築物環境性能評価（CASBEE、LEED）、健康度評価（WELL、CASBEE-WO）等の結果を調査し、一覧表としてまとめた。
給排水衛生設備委員会 小瀬 博之	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給排水衛生設備委員会が管掌する各小委員会の進捗状況を確認するとともに、結果や課題について審議検討した。 2. 本委員会及び管掌する各小委員会の令和2年度の計画について検討した。 3. 小委員会の成果報告書をレビューし、承認した。 4. 本学会の功績賞・篠原記念賞の候補者を推薦した。 5. 給排水衛生設備分野の課題や今後の研究テーマについて討議した。 6. その他、研究委員会や事務局からの審議依頼事項に対応した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
給排水衛生設備設計手法 検討小委員会 小原 直人	8	<p>本小委員会では、今年度、下記の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 前年度までの下記の活動結果を受けて、報告書をまとめるための審議を行った。 <ol style="list-style-type: none"> アンケート調査による給排水負荷算定法の現状把握 海外規準・海外文献調査 海外規準とSHASE-S 206の器具負荷単位法の比較検討 上記の結果を取りまとめ、本小委員会の主催で2019年8月29日（木）に開催したシンポジウム「給排水負荷算定法の動向と今後」において発表し、参加者より質疑・意見を得た。 シンポジウムで得られた質疑・意見をもとに、SHASE-S 206の給排水負荷算定基準の今後の展望を審議し、報告書の内容を修正追加を行った。
再生可能エネルギーと 多熱源利用調査小委員会 赤井 仁志	5	<p>委員会活動として、つぎのを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー熱に関わる政府の事業、導入に関わる補助制度、研究開発等の情報収集を行った。 再生可能エネルギー利用の国際的なイニシアチブRE100に続き、2019年に策定された再生可能エネルギー熱の長期的なビジョンRHC100 (Renewable energy-based Heating and Cooling) の調査と給湯・浴場等の熱源としての適応を検討した。 Smart GridやDemand Response、VPP (Virtual Power Plant) 状況の情報収集を行った。 給湯設備、浴場・プール設備と空調設備、融雪設備の再生可能エネルギー熱利用の関係を検討した。 地中熱のオープンループ方式とクローズドループ方式のメリットとデメリット等を検討した。 給湯設備、浴場・プール設備、LNG気化設備での再生可能エネルギー熱利用の実例の情報収集を行った。
節水型衛生器具普及の あり方提言小委員会 豊貞 佳奈子	6	<p>本小委員会では、国内外での衛生器具の節水化動向と関連政策、および各国での家庭用水使用量内訳を調査、検討し、節水政策の後進国と言える我が国における、節水型器具普及のあり方を提言することを目的とする。</p> <p>最終年度である平成31年度（令和元年度）は、小委員会を6回開催し、以下の活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自治体水道局アンケート調査結果の分析 <p>前年度実施した自治体アンケート（配布先：水道局）より、国内の節水政策の動向や増圧給水に関する考え方等を分析した。節水政策等を「実施していない理由（自由回答）」を項目別に分類し、節水への取り組みが進まない理由も分析した。家庭用水使用量内訳を調査している5自治体にヒアリング調査を行い、詳細情報を得た。</p> 生活者対象の「家庭での水使用に関するアンケート調査」実施および分析 <p>国内での入浴形態、頻度、節水行動に関するアンケート調査を実施し、418世帯1005人から回答が得られた。回答者の半数程度が大学生の単身世帯であったため、単身世帯・複数世帯に分類して分析し、各世帯での入浴実態等を把握した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
節水型衛生器具普及の あり方提言小委員会 (続き)		<p>3. 衛生器具の節水化による影響検討 衛生器具の節水化による影響について、給水システム、排水システム、浄化槽の排水処理性能の面から検討を行った。</p> <p>4. 海外の節水政策調査 国内外の衛生器具の節水規格、試験方法を整理するとともに、欧州、米国、豪州、中国、ASEANの節水への取り組み、節水政策について調査した。海外の家庭用水使用量について既往文献調査を行った。</p> <p>5. 節水型衛生器具普及のあり方提言 以上の調査結果より、国内での節水型衛生器具の普及のあり方について議論し、政策面、衛生器具の仕様面からの提言をまとめた。以上の結果を小委員会報告書にまとめた。</p>
建物における雨水対策 検討小委員会 金津 文夫	5	<p>本小委員会は、平成29年度5回、平成30年度6回、平成31年度5回開催した。</p> <p>今年度は、目次構成より、各委員で執筆エリアを分担し、追加検討事項の整理、原稿への記載内容を決定した。</p> <p>報告書構成は、4章構成とし、以下の通りとした。</p> <p>第一章では、集中豪雨による設備系への不具合についてアンケート調査を実施、実態と対策を記載した。建物側に集中豪雨でどのような被害があるかについては下水・雨水本管（インフラ）能力不足が4件、建物内雨水管能力不足および通気不良が2件、屋外排水管能力不足および通気不良が5件、オーバーフロー対策不備・メンテナンス不良およびその他が3件、排水管関連以外が3件であった。</p> <p>第二章では、雨水利用を行う際の水質や処理設備についてまとめたほか、CO2排出量を算出し、施設の評価を行った。雨水利用について設計を行う際に雨水処理過程において処理の原理、ろ過装置選定の共通的な考え方を示した。また、省エネルギーの観点から上水代替率を高めることが必要であることを指摘した。さらに、初期雨水の排除量が1mm程度で十分であることを示した。</p> <p>第三章では、流出抑制施設について計画、設計に関することを、また、雨水利用の際、関連する事項として流出抑制に対する考え方についても記載を行った。利水・治水を考慮した浸透技術については、全国的に指針は示され、地方公共団体が地域の特性を含んで技術指針を作成しているが、近年の集中豪雨にも実務的に活用できるように浸透技術の整理を行った。</p> <p>第四章では、雨水利用について集水する場所や流出抑制槽との組み合わせ、構成例を示した。雨水の流出抑制策と併せて雨水集水源地を拡大して建物側の利用量に合わせて、地表面のような水質のグレードの低い集水先の雨水を集水地とすることを提案し、併せて水処理も検討した。今後、これらは雨水集水量の増大によって効率的な雨水利用が展開されることを期待している。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
排水通気システム設計 基礎検討小委員会 本郷 智大	5	<p>本小委員会では、排水・通気設備の設計上の課題点を解決する目的として、排水システムの設計法に関する課題・問題点を整理して調査及び検討を行った成果を委員会成果報告書にまとめた。</p> <p>その内容は、設備設計者の実務者に実務実態調査を行い、その視点から得られた排水通気システム設計の課題点や問題点の認識を整理した。その回答には、排水負荷単位が見直されていないことの指摘や節水化に対応した給水負荷単位の要望など、本小委員会で検討する方向性を示す内容を示した。</p> <p>まず、海外規格のIPC・UPCの内容の調査を行い、器具排水負荷単位数の基本的な考え方の整理を行った。さらに、節水器具が採用された排水系統の配管設計に対して、調査内容を踏まえた排水管径の決定法による管径選定を、代表的な排水システムのモデルケースで検証を行った。</p> <p>次に、SHASE-S206の見直しや学会規格類改定へ反映できる内容を検討するために、排水通気システムの関連研究を対象にした調査と技術動向の分析整理を行った。器具の節水化に伴う排水通気システム性能評価や搬送性能といった性能評価など、排水通気システム設計の拡充に向けた技術要項の見直しや学会規格類の改訂へとつなげていく必要性を示した。</p> <p>最後に、SHASE-S206の排水口空間に着目し、器具排水管と排水管の排水口空間の距離に関する基準値の妥当性を検証する基礎的な検証実験を行い、排水口空間の基準値に関する知見を得た。</p> <p>これらの検討事項については、さらなる調査研究や実験研究を進めた上で技術要項に反映させる必要があるが、本小委員会で取り組んだ事項が排水通気システムの設計を行う上で参考となる知見となったものと考ええる。</p>
給水給湯設備の 設計データ検討小委員会 光永 威彦	6	<p>給水給湯設備の設計データ検討小委員会では、給水給湯設備システムの最適な設計の提案を目的として活動計画を進めている。今年度は、設置期間3年間における初年度であり、水使用に関するデータ収集として、既往研究の文献調査、BEMSデータの収集、病院用途の実測などを実施した。また、新しい給水給湯負荷の算定法として注目されているMSWCプログラムに関する勉強会も開催した。</p> <p>空気調和・衛生工学会の便覧等に記載されている「建物種類別単位給水量」の根拠データが経年により、近年の節水化や水使用の変化を反映できていないことから、それらの更新を図るため、今後、更なるデータ収集および分析を実施していく予定である。</p>
ビル管理システム委員会 栢川 依士夫	5	<p>本委員会は、BEMSの計画・設計・運用・更新に係わる技術、BEMSデータの活用技術およびBEMSを取り巻く最新技術動向などに関する調査・研究を行っている。今年度は、昨年度から継続する①②の小委員会と今年度設置した③の小委員会の3つの小委員会構成で活動を行った。各小委員会とも次年度継続する。</p> <p>1. 親委員会の活動概要</p> <p>1) 3小委員会の活動に対し、意見交換し、方向性の調整を行った。</p> <p>2) BEMSに関する技術・課題・検討の動向について情報交換を実施した。</p> <p>2. 小委員会の活動概要</p> <p>1) AI活用による建物システムの運用最適化検討小委員会 (主査：大岡 龍三)</p> <p>AIを含む最適制御の実用化、導入を目的として、委員による事例紹介を通じて、制御技術の研究開発状況や実建物における課題、深層学習の技術進展、設備機器の設計時における最適化アルゴリズム等について情報共有した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
ビル管理システム委員会 (続き)		<p>2) 在室者情報活用BEMS検討小委員会 (主査：原 英嗣) 在室者の位置情報と属性情報に関するセンシング技術動向、位置情報や個人情報の活用最新事例等の応用事例について調査し、計画項目及び技術の整理、それらの情報の活用手法について検討を行った。</p> <p>3) BEMSの活用によるBCPのあり方検討小委員会 (主査：増田 幸宏) インフラ停止を伴う災害を経験した実建物の設備管理者へのヒアリングにより、災害時の建物の運用状況、被害や影響の状況、中央監視装置等活用状況、災害時における課題や建築設備に関わる要望等について実態調査を行った。</p>
在室者情報活用BEMS検討 小委員会 原 英嗣	5	<p>本小委員会は、建物の省エネルギーと建物使用者の快適性と健康性という観点から、“ヒト”に着目し、在室者の人数、所在などの人の“位置”データと、着衣、体質（バイタル）、代謝、心理、ストレスなどの人の“属性・生理状態”データについて、それらを計測するセンシング技術に関する動向と、それらの情報をBEMSに取り込み、空調、照明などの制御へ活用することにより、建物全体の省エネルギーと建物使用者の快適性向上、健康維持・増進に資する可能性について調査、検討、および在室者情報をBEMSに取り込む場合の課題、新たな活用の可能性等について議論する。</p> <p>二年目である令和元年度は、昨年度から引き続き最新事例の調査等を実施した。小委員会は、5回開催している（予定含む）。第1回（5/30）では、東京電機大学での人感センサー等による人数把握とデータ活用について、環境設備デザイン賞での事例やバイタルセンサー活用事例の話題提供があった。第2回（8/1）は、バイタルセンサーの応用事例、また温冷感申告による空調制御ロジックについての話題提供があった。第3回（10/24）では、新規物件でのAIを活用した来館人数予測をもとに空調を制御するシステムや、人流計測から空調を制御するシステムの紹介、また日本建築学会大会および空気調和衛生工学会大会での関連発表論文の紹介をし、現況における最先端の計測、分析事例について紹介した。第4回（12/19）では、最新事例の話題及びバイタルデータ等の活用についてのアイデアや課題について議論し、来年度のシンポジウムに関して検討を実施した。第5回は3/24に開催し、シンポジウムに関連する資料の検討及び最新事例について引き続き調査していく予定である。</p>
AI活用による建物システムの運用最適化検討 小委員会 大岡 龍三	5	<p>本小委員会は、建築や都市を構成する個々の機器をいかに効率的に運用するかという最適化に関する検討を行う小委員会である。特にAIをはじめとする情報工学技術を実建物へ導入した事例の紹介や、導入に際して考慮しなければならない技術的・実務的なハードルについて議論を交わしてきた。</p> <p>小委員会二年目となる2019年度の活動では、昨年度につづき小委員会メンバーによる事例紹介をおこなった。具体的には人工知能を用いた熱源システムの運用最適化や、デマンドレスポンスに対応可能な機械学習の開発について最新動向を確認した。いずれの技術もその導入効果は概ね良好であり、今後の課題として、ごく短時間でのリアルタイム制御に対応するための計算速度の短縮や予測精度の更なる改善に関する検討を挙げている。また、ライフサイクルコストを考慮した最適熱源構成に関する研究や機械学習による室内気流の予測手法など、運用のみならず建築環境分野に関連したAI研究事例を広く議論した。</p> <p>来年度は本小委員会最終年度となるためシンポジウム開催を予定しており、建築設備分野におけるAIの活用事例および将来展望について本分野の関係者と広く共有する。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
BEMSの活用によるBCPの あり方検討小委員会 増田 幸宏	5	<p>近年、大地震や台風などによる災害が続いている。特に、北海道胆振東部地震では火力発電所が緊急停止し、北海道全域が停電するというブラックアウトが発生し、復旧までに長い時間を要する事態となった。平成28年の熊本地震では、水道の断水や給水設備の被害などが多く報告されている。平成30年、令和元年度においては台風による停電や風水害の甚大な被害が発生した。電力、水などライフライン維持の面だけでなく、企業や行政においてはBCP (Business Continuity Plan) への意識が高まり、それに対応する建物、建築設備が求められている。国としても国土強靱化として、防災・減災への取組みが継続して進められている。</p> <p>そこで、本小委員会は、BCPに対応する災害に強い建物を実現することを目的に、BEMSやそこで収集されたデータを活用することにより、災害時のBEMSや建築設備のあり方を検討、提案する。</p> <p>令和元年度（初年度）の主たる活動として、委員からの最新の事例の提供や論点の確認等を行うとともに、災害時における建物運用の実態に関する調査を企画、実施した。最近発生したインフラ停止を伴う大型地震等の災害により、何らかの影響を受けた建物を対象とし、災害時の建物の運用状況、被害や影響の状況、中央監視装置等の活用状況、地震時における課題や建築設備に関わる要望等について、2件の建物に対して詳細なヒアリング調査を行った。次年度も継続して調査を進めていく予定である。</p>
コミッションング委員会 赤司 泰義	3	<p>1. 小委員会の進捗管理</p> <p>各小委員会における以下の活動 1) ～4) の進捗を管理するとともに、全小委員会の情報共有と議論を充実させ、各小委員会における研究活動の進展を図った。</p> <p>1) : 建物所有者にCxの有効性を提示するために、Cxの導入効果を根拠を持って定量的に説明できるようにすること。(Cx導入効果調査検討小委員会)</p> <p>2) : 個別分散空調システムの機能性能試験方法を整備し、本空調システムの導入が進む中小規模建物でもCxを確実に実施できるようにすること。(EHP式個別分散空調システムのFPT検討小委員会)</p> <p>3) : Cx業務遂行上の難点となっているデータ整理・分析業務の省力化のための手法・ツール開発を行い、本業務を効率化すること。(Cxデータマネジメント手法活用小委員会)</p> <p>4) : ZEBを目指した建物で導入されることの多い自然・再生可能エネルギーシステムのCx手法を整備・開発し、ZEBの実質化に寄与すること。(ZEBシステムに関するCx手法検討小委員会)</p> <p>2. 本委員会独自の主体的活動</p> <p>1) シンポジウムの主催</p> <p>Cx委員会の4小委員会の成果を発表し、参加者から意見を求めるシンポジウムを開催した。</p> <p>また、特別講演として、経済産業省の方に省エネルギーの現状と課題に対するCxプロセスの適用の可能性についてと、NPO法人建築設備コミッションング協会 (BSCA) の方に米国のCxフィーの現状と国内のフィーの事例について発表してもらった。</p> <p>2) BSCAが主催する国際シンポジウムへの協賛</p> <p>BSCAが主催する国際シンポジウム「ZEB時代の建築環境性能達成プロセスとは～コミッションングを軸として～」に協賛し、本委員会から発表者2名(赤司、松下)を出した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CC法を活用したEHP式個別分散空調システムの機能性能試験検討小委員会 三浦 克弘	5	<p>2019年度は3年間継続した本小委員会の最終年度である。以下に示す2年次までの実施内容を継続して、成果報告書に取りまとめたことが本年度の主な活動である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年度である2017年度には事例調査とヒアリングを行った。事例調査は本小委員会の内部で実施し、コミッショニングの実施に必要なOPR (Owner's Project Requirement : 設計・企画要件書) の項目を整理した。また、①国内メーカー3社がメンテナンス用に収集している個別分散空調システムの測定項目と測定データに関する調査を行い、②機能性能試験事前チェックリスト案を作成した。 2. 2018年度には前年度に整理をした、設計・企画要件書 (OPR) に基づき、コミッショニングにおける一連のプロセスの中で求められる機能性能試験項目として室内環境とエネルギー性能を抽出した。また、試験方法を具体化するシステムの例として、建築研究所オフィス実験室を選定し、試験要領書の作成と、機能性能試験の試行を行った。 <p>成果報告書の取りまとめに際しては2019年6月のシンポジウムで事前に活動内容を報告し、頂いた意見を反映した。また、報告書に掲載する試験要領書を作成する際には上述の建築研究所で取得したデータを利用した。これらの活動により、今まで中央熱源方式に対して提示されていた機能性能試験要領書を、個別分散空調システムに対して具体的に示すことができた。</p>
コミッショニング導入効果調査検討小委員会 高草 智	6	<p>2019年度は3年間継続した本小委員会の最終年度である。2年次までの活動成果に基づき、7/3にシンポジウムにて中間報告を実施し、11月に成果報告書を取りまとめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シンポジウム準備 <p>3回の小委員会 (4/24, 5/15, 6/5) 審議にて、2018年度までに実施したアンケート調査及びヒアリング調査の結果を集約し、シンポジウムでの発表資料の作成・確認を行った。</p> 2. シンポジウムでの中間報告 <p>7/3のシンポジウムにおいて、オーナー、設計者、施工者、管理者それぞれの立場からのCxに対する評価や課題についての調査結果、また、BCPやESCO・エネルギーサービスへのCxの適用方法検討結果を報告した。参加者からは、特に新築案件においてCxの費用便益が定量的に示しにくいこと、Cxの標準コストが明確でないことなどがCxの導入課題であるなどの意見が出され、次期小委員会活動への引き継ぎ課題として整理した。</p> 3. 成果報告書のとりまとめ <p>各調査対象・サブテーマ毎の担当委員が原稿執筆を分担し、報告書素案を作成した上で、2回の小委員会 (9/12, 10/31) 審議を経て、成果報告書として11月に親委員会へ提出した。なお、シンポジウムで出された意見の一部は将来対応テーマとして整理していることから、新年度からの新たな小委員会への引き継ぎも兼ね、2/20に最終小委員会にて総括を行う予定である。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
データマネジメント手法 活用小委員会 住吉 大輔	3	<p>コミショニング (Cx) におけるデータマネジメントは、データが膨大化していること、BEMSやロガー装置の出力ファイルのフォーマットが不統一であること、抽出・処理方法が一般化されていないことなどから、ますます煩雑化し、Cxプロセスが非効率となる要因の一つとなっている。この問題を解消するため、前身のデータマネジメント手法検討小委員会において、データフォーマットの標準化を行うツールが作成され、データ処理の一元化に近づいた。本小委員会は、次なる課題として標準フォーマットに変換されたデータについて効率よくエラーチェックし、計測データの不具合やポイント名称の付け間違いなどを発見し、素早く解析作業に着手するためのデータクレンジング手法について検討し、コミショニングのデータ解析作業を効率化するためのツールの作成、および具体的なシステムの構成機器（熱源機器、ポンプ、冷却塔、蓄熱槽、など）の性能チェックのための分析シートの開発を行うものである。</p> <p>今年度は以下の内容に取り組んだ。</p> <p>◆データクレンジングソフトウェアの開発・改良と報告書作成： データクレンジングを行うためのソフトウェアの開発に着手し、前身の委員会で開発されたツールとの関わりや具体的な処理の内容を決定した。エラーを検索し、修正していく手順を議論した上で、それを実現するためのソフトウェアの画面配置 (GUI) を決定し、具体的なコーディング作業を進めた。多数のファイルに共通した処理を適用できるソフトウェアを開発し、成果を報告書としてまとめた。</p>
ZEBシステムに関する コミショニング手法 検討小委員会 高瀬 知章	4	<p>平成30年度の年次計画書に基づいて活動を継続し、以下の通り小委員会を開催した。</p> <p>○小委員会開催日：第1回：5月16日、第2回：8月2日、第3回：9月26日、第4回：12月5日</p> <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ZEBに適用されている主な省エネ技術の機能性能試験標準仕様の提案 前年度に引き続き、ZEBに適用されている主な省エネ技術の機能性能試験の試験・評価項目とその方法、判定基準等をまとめ、機能性能試験標準仕様として提案した。対象とした技術は、自然換気、高性能窓システム、CGS、太陽熱利用冷暖房・給湯、地中熱利用システム、クール・ヒートトレンチ、放射冷暖房、床吹出し空調、デシカント空調、昼光連動調光制御、太陽光発電システム の11技術。 2. 地中熱利用システムの機能性能試験標準仕様書の提案と実際の建物での試行 地中熱利用システムの機能性能試験標準仕様書を検討し、試験・評価項目ごとの機能性能試験要領書、機能性能試験結果報告書の内容をまとめ、機能性能試験標準仕様書として提案した。また、実際の建物での試行を行い、結果をまとめた。 3. 機能性能試験標準仕様を適用したZEBの性能評価の試行 前年度に引き続き、ZEB Ready達成の事務所ビルについて、本小委員会でまとめた標準的な機能性能試験方法による主要なZEB化技術の機能性能試験を試行するとともに、ZEBとしてのエネルギー性能の検証を行った。検証結果を報告書の事例として示した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
ZEBシステムに関する コミッショニング手法 検討小委員会 (続き)		<p>4. 成果報告書の作成 3年間の委員会活動の成果を報告書にまとめた。報告書の主な内容は下記の通り。</p> <p>1) ZEBの文献調査・Cx実態調査及び調査を踏まえたCxに関わる課題の整理</p> <p>2) ZEBに適用されている主な省エネ技術の機能性能試験標準仕様の提案</p> <p>3) 地中熱利用の機能性能試験標準仕様書の提案と実際の建物での試行</p> <p>4) ZEBとしての性能評価の実際の建物での試行</p>
省エネルギー委員会 山羽 基	3	<p>第1回委員会(令和元年度7月5日(金) 於中部大学三浦記念館・510講義室)</p> <p>1. 前回議事録の確認</p> <p>2. 各小委員会の活動について</p> <p>1) 住宅小委員会：委員の交代、予算執行実施分についての報告、指針の更新時期について10月を予定する。</p> <p>2) 非住宅小委員会：シンポジウム開催について 8月に実施予定。成果報告書に向けた活動報告を行った。</p> <p>3. 令和元年度 研究委員会報告</p> <p>1) 研究費予算執行について 住宅省エネルギー小委員会で予算計上予定とした。</p> <p>2) 成果報告書のスケジュールについて 11月20日ごろを締切とする予定。</p> <p>3) 時期委員長について人選を検討する。</p> <p>第2回委員会(メール審議)</p> <p>1. 省エネルギー委員会および住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会年次計画書について</p> <p>2. 時期委員長の人選について 近畿大学 岩前篤教授</p> <p>3. 小委員会成果報告書について：レビュー者の選出、スケジュール等</p> <p>4. 住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会委員の所属変更等の有無について</p> <p>第3回委員会(メール審議)</p> <p>1. 省エネルギー委員会および住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会年次報告書について</p> <p>2. 住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会委員の所属変更等の有無について</p>
住宅省エネルギー研究 小委員会 小椋 大輔	3	<p>第1回 小委員会 令和元年5月10日(金)</p> <p>1. 成果報告書の作成に向けた作成方針を議論した。</p> <p>2. 成果報告書の作成担当者の振り分けを行った。</p> <p>第2回 小委員会 令和元年8月30日(金)</p> <p>1. 省エネルギー委員会の報告を行った。</p> <p>2. 成果報告書の作成内容について担当箇所ごとに確認を行った。</p> <p>3. 報告書作成のスケジュール確認を行った。</p> <p>第3回 小委員会 令和2年1月21日(火)</p> <p>1. 成果報告書の提出報告を行った。次年度から始まる新たな委員会の方針について議論を行った。</p> <p>2. 予算利用の確認を行った。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
非住宅省エネルギー研究 小委員会 河路 友也	4	<p>第1回 小委員会 令和元年6月12日(水) シンポジウムの会告原稿の確認を行った。また、シンポジウムでの発表内案について各パートから説明があり修正・追記の必要性などについて協議した。次回の小委員会で資料の最終確認を行うことにした。</p> <p>第2回 小委員会 令和元年7月31日(水) 各パートのシンポジウムでの発表資料の確認を行った。シンポジウムの配布資料の原稿は、8/2(金)を締切とした。今後の報告書作成に向けたスケジュールの確認も行った。</p> <p>シンポジウム 令和元年8月9日(金) シンポジウムを東桜会館を会場として開催した。参加者は、定員通りの40名(会員26名、非会員14名)であり、質疑もあり有意義なシンポジウムであった。</p> <p>第3回 小委員会 令和元年10月21日(月) 成果報告書について、各分担からの資料について確認した。内容、書式などについて協議し、今後のスケジュールについても確認し、原稿提出の締切日を設定した。</p> <p>その後は、メールのやりとりで成果報告書を作成し、査読対応も行い、最終版を1/31に提出した。</p>
住宅設備委員会 高村 秀紀	3	<p>住宅設備委員会は、住宅設備に関連する多くの諸問題を調査・研究し、会員は基よりエンドユーザーである一般の住まい手に対しても設備に関連する情報を提供する事を目的としている。</p> <p>本年度は4小委員会が活発に研究活動を行った。1小委員会は次年度継続し、3小委員会が本年度で終了する。</p> <p>各小委員会の活動内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者・生活弱者に優しい住宅設備小委員会(川本聖一主査 終了) 設計に必要な温熱基準などを詳細に調査し、高齢者・生活弱者に対応した設計手法のポイントを戸建と集合住宅について具体的に示した。また、最新設備の把握、IoTによる将来像、在宅医療と自然災害時の具体的対応までを検討し、成果報告書としてとりまとめた。 2. 住宅設備のBIM活用検討小委員会(柿沼整三主査 終了) BIMを活用することで、住宅設備図を充実させることを目的として検討を進めた。これによって設備関係のBIMパーツが少なく規格も統一されていないことと、フロントローディングを明らかにし、成果報告書にとりまとめた。 3. 集合住宅の在宅避難のためのトイレ使用方法検討小委員会 (木村洋主査 終了) 過去、2年の検証及び議論を踏まえて、震災時、建物の安全性が確保されたマンションにおける在宅避難を実現するため、マンション管理組合、管理会社、施工会社が協力して、「震災時のトイレ使用マニュアル」を作成するための手引きを報告書としてとりまとめた。 4. 木質バイオマス活用によるエコタウン設備検討小委員会 (浅野良晴主査 継続) 木質バイオマスを利用するエコタウンについて、実際に建設されている事例と構想段階の事例調査を平成30年度に引き続き実施した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
<p>高齢者・生活弱者に 優しい住宅設備小委員会 川本 聖一</p>	<p>6</p>	<p>1. 活動の目的 住宅設備を使用したり設計したりする際に、高齢者や生活弱者に対して配慮すべきことがらを整理し、現状市販されている機器やそれを使用しての現行設計手法の問題点を検証する。また、結果を踏まえて、生産者や消費者に対して提言を行う。</p> <p>2. 委員 委員14名、特別委員3名、合計17名で活動</p> <p>3. 活動の詳細 第12回小委員会（2019年04月26日）： 報告書作成に向けて、各委員から提出されたレジュメについて意見交換を行った。①高齢社会進展は簡潔に記述し、今後の世帯構成の変化・健康寿命延伸など設備に係る社会状況をまとめる。生活弱者定義も冒頭に記述する。②2000年以降の政策をまとめる。③国内4種・海外製品を評価し、問題点をまとめる。④高齢者/生活弱者施設の現状と問題点をまとめる。⑤9か国の高齢者施設の比較を行い問題点をまとめる。⑥学会作成要領「100頁を上限とする」注意。⑦サポート機器等の現状と課題をまとめる。政府が進める暮らしの中で心身機能の維持・拡張が出来る設備も加えてはとの意見有り。⑧高経年集合住宅の設備改善提案を主にまとめる。⑨在宅医療の拡大と宅内電磁環境の検討を主にまとめる。⑩在宅医療に伴う電気/給排水設備拡充等の課題にも触れると分かり易いとの意見有り。⑪地域包括支援センターが高齢者の相談を受ける体制の中で、どこで暮らしたいか選択肢等をまとめる。各種住居施設説明は調整。⑫報告書目次構成の確認、章/節/項に数字表記（例 2. 1, 3. 1. 3）を追加した方が分かり易いとの意見有り。章/節の構成について現時点で見直しは行わず、今後の作成内容から改めて検討する。高齢者の生活に合わせた改修に関連した「SI住宅」や新築「シニアマンション」設備にも触れられると良いとの意見有り。</p> <p>第13回小委員会（2019年06月14日）： 報告書作成に向けて、各委員から提出されたレジュメについて意見交換を行った。①用語の定義を行い、高齢者は65歳以上/生活弱者は、機能劣化など高齢者課題を共有する65歳以下の人。見守りシステムが必要な単身世帯を生活弱者に含むか否か等、意見が分かれば継続検討する事とした。②高齢者の現況/温熱環境の既往文献をまとめる。③高齢者設備を要介護度区分に基づいた3タイプに分けて記述する。④空調/衛生/電気設備の設計手法をまとめる。④HEMSをHGW（ホームゲートウェイ）活用し暮らしを変える。⑤都資料を参考に戸建住宅リフォームを設備視点でまとめる。⑥植込み型医療機器と携帯端末の離隔距離15cm以上等の記述追加。携帯5G端末や急速充電設備等の影響を更に検討する。⑦ユニットケア型施設整備等をまとめる。参考資料がH13調査などやや古いので、最近のデータに置き換えると良いとの意見有り。⑧総務省取組みを省き、地域で支える実例をまとめる。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
<p>高齢者・生活弱者に 優しい住宅設備小委員会 (続き)</p>		<p>第14回小委員会（2019年07月26日）： 報告書作成に向けて、各委員から提出されたレジュメについて意見交換を行った。①相互査読者の検討し、決定された。②図表の借用などの手続きについて質疑あり、主査にて確認することとなる。 ③「JIS S 0024」に関する資料の説明説明があり「3. 1規格・基準・制度おこれから」に内容を盛り込むことになった。</p> <p>第15回小委員会（2019年08月23日）： 報告書作成に向けて、各委員から提出されたレジュメについて意見交換を行った。①近未来の高齢化社会を描く為に、簡易生命表(厚労省19. 7. 30公表)から現在60歳の方の老後を推定。高齢者や生活弱者の定義を併せて記述。報告書タイトルでもあるので、定義は報告書冒頭に記載があった方が良いとの意見有り。②被験者実験について、20年以上前の知見であり、ここで取り上げた理由など補足説明を加えた方が分かり易いとの意見有り。③直近10年の既往研究から高齢者の健康被害をまとめる。④高齢者住まいに係る内容を充実させた方が良いとの意見有り。⑤温熱/換気/水回り/電気の手法をまとめる。⑥健康寿命を延伸する設備提案を加えたいとの意見有り。</p> <p>第16回小委員会（2019年12月06日）： ①報告書レビュー内容の確認を行った。②報告書提出までのスケジュールの確認を行った。③次期小委員会の企画を検討した。 ④「台風19号」の被害報告資料の説明があった。</p> <p>第17回小委員会（2020年03月06日予定）</p>
<p>集合住宅の在宅避難のためのトイレ使用方法 検討小委員会 木村 洋</p>	8	<p>震災時に排水トラブルを回避し、安心して在宅避難を継続するには、居住者が自分達の住むマンションの排水設備の特徴をよく知り、事前に居住者の合意の下、震災時のトイレ使用方法のルールや点検方法を作成し、速やかに対応できるように備えておくことが必要となる。</p> <p>本委員会の前身である「震災時のトイレに関する調査研究小委員会」（2014年4月～2017年3月）では、震災時にマンションで在宅避難を実現するために、管理組合が、「震災時の上手なトイレの使い方マニュアル」を作成するためのガイドブックの作成に取り組んだ。本委員会は、この検討成果を踏まえて、実際にマンション管理組合の協力を得て、当該マンションの「震災時トイレ使用マニュアル」を検討した。</p> <p>なお、本委員会では、震災時を想定して手引きの作成に取り組んできたが、2018年7月の西日本豪雨、9月の台風21号の暴風雨、2019年9月の台風15号、10月の台風19号などの自然災害では、停電による断水、冠水による排水障害が発生し、水洗トイレが使用できない状況となった。このような被害の状況を鑑み、本マニュアルが風水害発生時にも適用できるようにと考え、「災害時のトイレ使用マニュアル作成手引き」としてとりまとめた。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
住宅設備のBIM活用 検討小委員会 柿沼 整三	7	<p>今年度は3年目となる。最終年度として、2ケ年のまとめの中から住宅設備のBIM活用を考えると世の中はより早いテンポで動いているため、検討内容が世の中とのズレが感じられる所が多くあった。</p> <p>その第一として、BIMを活用する上で、BIMパーツの整備が求められること、そして、そのBIMパーツを整備する上で、住宅設備上からBIMパーツの規格化も必要と考えることが、学会としての必要性が感じられた。また、BIM活用はデータの入力作業としてフロントローディングの傾向にあるため、BIM作業への報酬基準作成の必要性が求められることが判った。しかし、告示98号には何も示されないままの施行となっているため、BIM活用上生ずる報酬基準の新たな作成の必要が生まれたとも言えることを委員会内で審議した。</p> <p>そして、成果報告書の作成を分担執筆として、夏以降まとめ作業を進めた。</p>
木質バイオマス活用 によるエコタウン 設備検討小委員会 浅野 良晴	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動の目的 <ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマスを使った地域熱供給により住宅の暖房・給湯の熱源とした事例に対して内容を検討し、技術課題を抽出する。 2. 委員構成 <ul style="list-style-type: none"> 委員数13名で活動 3. 第1回（5月31日） <ul style="list-style-type: none"> 2019年2月27日に行われた静岡県小山町でのヒアリングと現地視察に関して、堀川委員が議事録に基づいて説明を行い、内容を議論した。 1) バイオマスの場合、熱を使い切れていない。使い切ることはZEBに寄与する。バイオマスはエネルギーの投入量をゼロとできるが、経済性が担保できない。再生可能エネルギーは捨てようが使おうがどちらでもZEBになるが、使わないと経済的価値がない。 2) ZEBは成り立つが経済性が成り立たないことがネックとなる。燃料がタダではないので、イニシャルコスト、チップの購入代等が懸念材料となる。 3) 住宅では一年中安定して温水が使われず、中間期は冷暖房需要がない。全館空調も海外ほど普及していない。必要なエネルギー量が少ないため設備も小さい。住宅が分散化されていると熱導管費用もかかることも考えなくてはならない。 4) ガスコージェネも基本的な考え方はバイオマスと同じでコジェネは長い期間に熱と電気を全部使えるように動かすようにしなくてはならない。 4. 学会大会学術講演会での委員会中間報告（9月18日） <ul style="list-style-type: none"> 1) 本小委員会の研究目的、研究の方向、本研究で扱う地域供給エネルギーの形態について説明した。 5. 第2回（12月5日） <ul style="list-style-type: none"> 山形県最上町視察を実施した。 1) 木質焚き温水ボイラー施設を視察：町の森林資源を間伐し、チップ化した後の木質バイオマスエネルギーによる地域冷暖房システムは効率的な活用により、化石燃料の削減を達成していた。 2) 最上町ウエルネスプラザを視察：昭和63年の第2次最上町総合計画から始まった。最上町立最上病院を中核施設として運営されている。NEDOのバイオマスエネルギー地域システム実験事業（2005～2009）により現在は3台のバイオマスボイラーが稼働している。 6. 第3回（3月予定） <ul style="list-style-type: none"> 本小委員会の報告書案の検討を行う。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
施工・保全委員会 前田 幸輝	4	<p>本委員会は、施工および保全業務における要素技術およびプロセスの研究を行い、併せて学会の施工・保全分野に従事する会員への還元・貢献を図る事を目的として、6小委員会の活動を承認した。</p> <p>また、令和元年中に2回、同2年に2回、合計4回の委員会を開催した（その内3月開催第4回は予定）。</p> <p>今年度は、次の小委員会の活動に対する支援・指導を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の小委員会（令和元年度終了）の成果報告書を受付けた。 <ol style="list-style-type: none"> 安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会（割石主査） 施工図ガイドライン小委員会（加藤主査） 取扱説明書作成ガイドライン検討小委員会（花房主査） 次の小委員会の平成31年度継続を承認した <ol style="list-style-type: none"> 施工・保全のトラブル事例共有化小委員会（本多主査） 実践的な近未来都市・施設のSBCM（スマートな事業継続マネジメント）検討小委員会（田中主査） 空調用冷却水システムの設計・施工・保全方法検討小委員会（松川 主査） 次の小委員会の次年度から新規活動開始を承認した。（R2年度～R5年度） <ol style="list-style-type: none"> 工種別施工計画書作成検討小委員会（笠置主査） 実用的な取扱説明書作成指針検討小委員会（花房主査） 建築設備の安全に関するリスク低減手法検討小委員会（割石主査）
安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会 割石 浩幸	9	<ol style="list-style-type: none"> 令和1年度空気調和・衛生工学会大会（札幌）にて学術講演論文の発表 <ol style="list-style-type: none"> 建築設備の施工・保全における安全・品質向上手法に関する検討（第23報）維持管理現場の「熱中症アンケート」 建築設備の施工・保全における安全・品質向上手法に関する検討（第24報）維持管理現場の「自覚症状しらべ」 工場における品質管理への応用を念頭にいた浮遊細菌の簡易モニタリング方法の検討 <p>上記の3編の論文を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の論文は、平成30年度「安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会」の検討内容の結果をもとに内容の検討を加え作成された。 発表に関する評価を行った。 施工現場における空調服に関するアンケート <p>某建築施工・設備施工会社の日本各地の施工現場の作業員約400人に対して、熱中症対策としての空調服の使用現状、利点、改善点及び作業前後における自覚症状調べのアンケート調査を行なった。</p> <p>そしてデータの集約、結果分析を行い、来年度の空気調和・衛生工学会大会学術講演論文にまとめることとなった。</p> 浮遊微生物簡易測定法の環境管理手法への応用 <p>微生物の迅速な簡易測定法を検討し、計測実験機器システムの完成と予備的測定を行った。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
施工図ガイドライン 検討小委員会 加藤 健一郎	10	<p>施工図に起因するトラブルや品質事故を未然に防げるよう、“施工図に記載すべき情報”とスムーズな施工図の作成・承諾となるよう“施工図作成・承諾の運用”を検討し、統一したルールである指針(案)の作成を目的としている。具体的には施工図に起因する不具合事例などを基に、作図者・承諾者の立場から施工図を確認する際に必要な情報は何か、作業員の立場から施工図に必要な情報は何かを、施工図を作成する部位ごとに分けて提示する。また、施工図の作成・変更・承諾に関するルールや、施工図に係わる関係者間の役割を示したツールとして、施工図作成計画書を提示する。</p> <p>最終年度となる本年度は以下の内容の検討を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不具合事例および実使用図面からの施工図に記載すべき情報の抽出 前委員会の成果物で不足していた不具合事例を、施工・保全委員会「トラブル活用情報小委員会」の事例、竣工・中間検査の指摘事項及び実際使用した施工図を36枚収集し、施工図に記載すべき情報の抽出を行った。 その内容を施工図を作成する部位ごとにまとめた。また記載例・表示例を併せて示した。 2. 施工図作成時間確保のための施工図作成計画書の検討 施工図承諾行為の遅延、設計変更等による施工図修正などにより、施工図作成時間の確保が難しい状況であることを考慮し、施工図作成・変更・承諾に関する運用ルール、承諾者と施工者の役割などを記載した「施工図作成計画書」をもって、関係者の合意のもと運用することで、スムーズな施工図承諾がなされ、如いては施工図作成時間の確保につながることを示した。
取扱説明書作成ガイド ライン検討小委員会 花房 俊治	12	<p>年次計画書に則り、以下の活動を行った。</p> <p>取扱説明書作成指針案の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取扱説明書に関わる規格類の調査 (IEC 82079-1、ISO/IEC Guide37など) 家電製品等に適用されていると思われるIEC規格の要求事項についての調査を行った。 2. 取扱説明書の構成案と記載すべき事項の検討 建築設備の取扱説明書の実態、取扱説明に関わる課題ならびにIEC規格等の要求事項を踏まえ、 取扱説明書の構成案と記載すべき事項の検討を行った。 3. 取扱説明書作成例の検討 取扱説明書の構成案と記載すべき事項の検討結果に基づき、作成例の検討を行った。 4. 最近の設備設計・施工に関連した基礎知識の取り纏め 成果報告書の付録として、取扱説明にも関連する省エネルギー等の最近の設備設計・施工に関連した基礎知識の取り纏めを行った。 小委員会の3年間の活動結果を取り纏めて成果報告書を作成した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
施工・保全のトラブル 事例共有化小委員会 本多 崇充	10	<p>建設現場にて頻繁に起こっているミスやトラブルは依然として多く、設計や施工段階での計画ミスや検討不足が多いものと思われる。ベテラン技術者や作業員の老齢化による離職や、人手不足による経験弱者の配置や若手技術者への技術の伝承がうまくできていないことが原因として考えられる。IS09000Sで品質管理されているとは言え、施工中のミスや試運転段階で確認できる設計上のミス、竣工後何年もたってから起きるトラブルなどさまざまである。</p> <p>本小委員会では過去のトラブル事例を基に、若手技術者に対しトラブルの原因や対策を情報としてまとめ学会ホームページから発信している。また、ホームページの閲覧状況を確認している。</p> <p>令和元年度は、小委員会を10回開催しトラブル情報シート作成やコラムの精査を行った。</p>
実践的な近未来都市・ 施設のSBCM（スマートな 事業継続マネジメント） 検討小委員会 田中 毅弘	6	<p>1. 研究活動の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小委員会としての方向付け、より一層の先端技術を用いた都市・施設の視察調査 2) SBCMにおけるリスク項目の分類・整理：東京都の都市部を対象に、東京都の長期ビジョンと地域防災計画をベースにリスク項目を抽出し分類・整理した。 3) リスク対策の抽出とカテゴリー化：近未来都市・施設のSBCMのあるべき姿を展望するため、約20年の範囲に限定した社会ニーズ、リスク対策に関連するスマートな技術とその活用策の整理を行った。 4) 実践的なSBCMへの展開のための展望：リスク対策の実効性の評価度や効果的対策の選別法等の定量化の検討。 5) 上記の研究成果をまとめ、最終報告書作成に着手した。 <p>2. 今後の予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実践的なSBCMへの展開に向けての事例検討：昨今、相次ぐ自然災害が頻発していることから、それらの対策に関する成功例、失敗例を取り上げ、まとめる。 2) 当小委員会としての研究成果をまとめ、最終報告書作成を行う。
空調用冷却水システムの 設計・施工・保全方法 検討小委員会 松川 安樹	10	<p>1. 冷却水システムの設計・施工・保全方法に関する指針（案）の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前年度の課題を見直し、指針（案）に記載すべき項目を整理した。（実施途中） 2) 作成予定の水処理計画書（案）と施工計画書（案）を作成した。 <p>2. その他 調査・研究（イベント）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 冷凍機銅チューブの非破壊検査方法に関する調査・研究 実施日：2019年12月19日（金）16:00～17:00 第7回小委員会で実施 場 所：学会会議室 概 要：ACTUNI（アクチューニ）株式会社を招き、渦流探傷検査の概要説明とデモを行った。 担当委員：平田委員 2) 冷凍機の製造工程に関する調査・研究（工場見学） 実施日：2020年2月28日（金）13:00～17:00 第9回小委員会で実施 場 所：パナソニック株式会社アプライアンス社様群馬・大泉拠点 概 要：工場見学を通して、冷凍機銅チューブ腐食対策の現状を確認した。 担当委員：百瀬委員

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
地球環境委員会 西村 英樹	5	<p>今年度は以下の事項に関して検討した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境委員会の活動方針について <ol style="list-style-type: none"> 1) 地球環境委員会および各種小委員会の活動方針の確認 2) 研究委員会の報告および関連事項の審議 2. 環境配慮建築小委員会の活動に関する意見交換 <ol style="list-style-type: none"> 1) 3年間の活動内容は次の通り <ol style="list-style-type: none"> ①環境配慮建築アクションプラン小委の成果を踏まえ、標準的な規模の事務所建築等を対象とした年間シミュレーションを基本的な方法とし、外気冷房、CO2濃度による外気量制御等の要素技術の効果に関する知見を反映する。 ②低炭素社会推進会議, AIJ低炭素社会推進・技術分野WG, 建築設備技術者協会等との情報交換を行う。 2) 今年度は、低炭素社会推進会議の提言案の検討、シミュレーションの設定要件の整理、各委員による勉強会と見学会を実施した。 3. 建築物の地球温暖化対策小委員会の活動に関する意見交換 <ol style="list-style-type: none"> 1) 3年間の活動内容は次の通り。 <ol style="list-style-type: none"> ①建築物に採用されている地球温暖化対策技術の洗い出し ②地球温暖化対策技術に関するアンケート調査の実施 ③地球温暖化対策技術の導入効果の定量評価 ④地球温暖化対策に有効な建築物のモニタリング手法の動向調査 2) 今年度は、3件のアンケート調査を行い、導入効果の定量評価を実施した。
環境配慮建築小委員会 岩本 静男	5	<p>本小委員会の目的は、省エネルギー・環境配慮技術の進展を予想し、2050年を想定した建築設備を探り、2030年に向けたカーボンニュートラルビル、ゼロエネルギービルの普及に寄与することである。</p> <p>本小委員会の活動計画は、前年度の環境配慮建築アクションプラン小委の成果を踏まえて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準的な規模の事務所建築等を対象とした年間シミュレーションを基本的な方法とする 2. 前年度の小委員会では扱えなかった外気冷房、CO2濃度による外気量制御などの要素技術の効果に関する知見を集める 3. 低炭素社会推進会議、AIJ低炭素社会推進・技術分野WG、建築設備技術者協会などと情報交換の3つを基本方針とする。令和元年度では、低炭素社会推進会議の提言案の検討、シミュレーションの設定要件の整理、各委員による勉強会と見学会を実施する。 <p>令和元年の6月26日の第2回小委にて酒井先生から「建物出入り口における外気侵入現象に関する研究」について、10月10日の第3回小委にて趙先生から「空調負荷削減のための天井吊り下げパネルのデザインとその性能評価」について、令和2年1月24日の第5回小委では永野先生から「浅層水平型地中熱ヒートポンプの熱交換性能評価」について、それぞれ勉強会が開催された。また、令和元年11月21日に若泉先生のご協力により、第4回小委として中央工学校の見学会が行われた。</p> <p>低炭素推進会議の提言案では、令和元年11月に原案が提示され、各構成団体の意見聴取の後令和2年1月に改訂案が出された。地球環境委員会の審議事項ではあるが、本小委でも紹介された。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
環境配慮建築小委員会 (続き)		<p>建築設備技術者協会のZEB調査委員会では、5月7日の第1回小委にて完成されたZEBデータベースが紹介され、さらに第4・5回小委にて簡単な分析例が紹介され、各委員から意見をいただきながらZEB調査委員会で報告することとした。</p>
建築物の地球温暖化対策 小委員会 村上 正吾	4	<p>地球温暖化対策において、パリ協定の採択により日本は2030年までに2013年比で26%の温室効果ガス削減を目標としている。事務所、商業、サービスなどの業務部門での温室効果ガスは総量では2013年をピークに減少に転じている。本小委員会は、建築物に実際に採用された地球温暖化対策技術について、その導入効果と関係者の意識を調査し、建物所有者、使用者、設計者にとっての技術導入の判断材料を提供する。</p> <p>本章委員会の活動計画は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築物に採用されている地球温暖化対策技術の洗い出し。 2. 地球温暖化対策技術に関するアンケート調査の実施。 3. 地球温暖化対策技術の導入効果の定量評価。 4. 地球温暖化対策に有効な建築物のモニタリング手法の動向調査 <p>以上の4つについて取り組む。</p> <p>第2年度の令和元年度は、環境配慮技術に関するアンケート調査を実施した。設計者を中心とした調査により、今後の環境配慮技術に求められる事項が情報収集された。調査の中で新しい地球温暖化対策技術の貴重な情報も得ることができた。省エネルギー性能が高いビルにおいて取組みが遅れていると考えられる部位の定量的な評価も行った。</p> <p>次年度は、建築物のモニタリング手法について、コミッシュニングの事例等を参考にしながら動向を調査する。環境配慮技術のアンケート調査の件数も増やして技術情報の充実を図る予定である。また、3年間の活動の最終年度にあたり、報告書の取りまとめを行う。</p>
安全・防災委員会 木村 剛	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設備耐震対策小委員会の活動内容の確認、作業進捗状況の確認と支援 【小委員会活動内容】 <ol style="list-style-type: none"> 1) SHASE-S010「空気調和・衛生設備工事標準仕様書」の改定に向けた検討及び出版委員会への「建築設備の耐震設計・施工法改訂小委員会」の設置申請。 2) 屋上に設置される置き基礎上の配管の地震時の挙動に関する振動台実験など最新の研究成果について、情報収集ならびに意見交換。 <ol style="list-style-type: none"> 2. 火災安全小委員会の活動内容の確認、作業進捗状況の確認と支援 【小委員会活動内容】 <p><既存不適格建築物の排煙改修手法としての階段加圧システムに関する適用条件の整理></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「階段加圧システム」について、適用条件の整理。 2) 煙流動シミュレーション上のモデル建物に階段加圧システムを適用する場合の具体的な対応策や課題点の整理。 <ol style="list-style-type: none"> 4. 社外助成、功績賞、技術フェロー等の推薦 当該期間に該当なし

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
火災安全小委員会 中濱 慎司	2	<p><既存不適格建築物の排煙改修手法としての階段加圧システムに関する適用条件の整理></p> <p>既存不適格建築物は、大改修も増築が非常に困難である課題を有するため、建築基準法第86条の8に規定された制度を利用する必要がある。そして、法適合として認めるための段階的な改修の課題整理、ルールの具体化が求められている。</p> <p>本小委員会では、大改修や増築に伴う排煙設備上の既存不適格への対応として着目されている「階段加圧システム」について、適用条件の整理を行った。さらに、煙流動シミュレーションを行う上で、モデル建物に階段加圧システムを適用する場合の具体的な対応策や課題点（加圧用の給気ファンや空気抜き口の追加設置など）を整理した。</p>
設備耐震対策小委員会 水谷 国男	8	<p>今年度は、SHASE-S010「空気調和・衛生設備工事標準仕様書」の耐震に関する記述について、検討するとともに、屋上に設置される置き基礎上の配管の地震時の挙動に関する振動台実験結果や、ケーブルラックの振動台実験結果など最新の研究成果について、情報収集ならびに意見交換を行った。</p> <p>また、SHASE-G0002-2012「新版 建築設備の耐震設計 施工法」の記述内容に関して、耐震部材の再計算などの改訂に向けた情報収集を行い、出版委員会に「建築設備の耐震設計・施工法改訂小委員会」の設置申請を行った。</p>
換気設備委員会 山中 俊夫	3	<p>換気設備全般に関する常設委員会として平成22年4月より活動を開始し、本年度が5期目の初年度である。今年度は以下の小委員会を運営してきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 換気効率・性能小委員会 2. 環境・設備設計へのCFD応用小委員会 3. CFDパーツの環境シミュレーションへの適用性検討小委員会 4. 空気質小委員会 <p>さらに、SAHSE S-102の改定について、議論を行った。</p> <p>令和元年度で上記の4.の小委員会が終了するので、レビューを行い、また、それらの成果の普及・応用を目指して、次年度に新たに以下の4.の小委員会を立ち上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 換気効率・性能小委員会 2. 環境・設備設計へのCFD応用小委員会 3. CFDパーツの環境シミュレーションへの適用性検討小委員会 4. 快適な空気質検討小委員会

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
空気質小委員会 柳 宇	1	<p>本年度は、屋外空気汚染による室内空気質への影響を検討するために、昨年度冬期に引き続き、① 主な発生源が屋外にあるPM2.5濃度、② 換気状況を間接的に確認できるCO2濃度の測定を行った。測定は休日を挟んだ3日間における室内（何れも居間）と屋外のPM2.5濃度及びCO2濃度の1分間隔の連続測定で行った。また、測定期間中の各室の状況についても、昨年度同様にチェックシートに記入していただいた。測定対象5住宅の所在地は札幌・東京・大阪・福井・福岡である。測定結果については冬期とあわせて、成果報告書にて記載している。</p> <p>本年度が最終年度ということもあり、上記の測定以外では、これまで実施してきた研究のレビューや各国の動向・規基準の振り返り及び、総まとめを実施し、成果報告書に掲載すべき内容について議論を行った。審議回数は1回であったが、メール等を利用して、測定に関する事項や情報交換を実施し、成果報告書作成を行った。</p>
換気効率・性能小委員会 吉野 一	3	<p>令和元年度である初年度は、前身の小委員会にて整理した最新の産業換気の動向と将来展望に基づき、1) 現在の産業現場において顕在化している換気問題の事例やその対策例に関する情報収集、情報共有以外に、2) IoT技術やAI技術などの最先端の情報技術を活用した産業換気の換気問題に対する対応策に関する情報収集、情報共有を図るために本小委員会を3回/年にわたり実施した。</p> <p>具体的な活動内容として、上述の1)、2)に関する情報収集や情報共有を図るために、2つのWGを立ち上げた。WG1の活動内容として、主に具体的な換気問題が顕在化している産業換気の実態把握や内容の整理を行う予定であり、WG2では換気分野におけるIoTやセンシング技術の活用に関する情報収集を行い、関連分野における将来展望について検討していく予定である。</p> <p>また、Goodfellow教授（トロント大学）から換気設備委員会の山中委員長経由に依頼があった「Industrial Ventilation Design Guidebook 2020改訂版」の出版に伴う依頼事項に関して、本小委員会で具体的な依頼内容や今後のスケジュール等を確認した。</p>
環境・設備設計へのCFD 応用小委員会 酒井 孝司	4	<p>本章委員会は、室内環境予測や設備設計へのCFD解析技術の適用に関し、適切な利用を促進するための例題の整備、室内温熱環境に関連する諸問題に対する国内外のCFD解析技術の適用例の調査、適用時の問題点・改善対策の検討、新しいCFD解析技術の適用性、初学者向けの教育法等について検討することを目的として、本年度4回の小委員会を開催し、下記について議論・検討を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初学者向けチュートリアルの整備 <p>CFD初学者が品質の高い解析を行うためのCFD解析技術を修得可能なチュートリアルを整備を目的に、3次元等温問題、非等温問題のチュートリアルについて検討を行った。</p> 2. オフィス例題の整備 <p>建築研究所で実施している実大オフィス実験を対象に、CFD解析を行い、例題として計算条件、解析結果を整理した。</p> 3. CFD技術に関する最新動向調査 <p>自然対流解析で成果を挙げている乱流モデル（Lien-leshziner）を対象に、ベンチマークテストを実施し、モデル特性および妥当性を詳細に検討した。また、非等方k-eモデルについて文献調査を行った。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CFDパーツの環境シミュレーションへの適用性 検討小委員会 桃井 良尚	4	<p>本小委員会では、令和元年度において主に以下の内容について活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前身小委員会での活動内容と次世代CFDパーツの公開に向けた積み残し課題の確認を行った上で、今後の活動計画について議論を行った。 2. 制気口の型番を特定しないフェーズでの設計ニーズに対応するため、国土交通省の建築設備設計基準に記載されている角型アネモの到達距離のデータを用いて、Momentum法を利用したCFDパーツ作成方法及びチューニング方法について検討を行った。 3. 型番を特定し制気口を選定する設計フェーズでの設計ニーズに対応するため、制気口メーカーが保有する吹出口の2D CADデータから3Dモデルデータの作成業務を業者に依頼し、主要な2社の制気口（システム天井アネモ、システム天井ライン型、従来天井丸アネモ、従来天井角アネモ、従来天井ライン型、従来ノズルなど）について3Dモデルデータを整備した。今後、本データを用いて、非構造格子CFD解析による吹出口の詳細気流解析を行う。そのためのCFD解析方法やCFD解析の精度検証のための実験方法についても議論を行った。 4. モデル作成及びチューニング手法の検証に活用できる吹出し口ごとの室内気流分布に関するデータベース「ASHRAE RP-1546」について、執筆者に元データの入手を依頼した。
国際交流空調分科会 前川 哲也	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本小委員会で本年度活動する内容について議論した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ASHRAE冬季大会視察団派遣に関する総合調整（視察団幹部の構成、旅程など） 2) ASHRAE冬季大会における Japan Seminarの企画・実施支援 3) 交流団体幹部の札幌大会への招聘（ASHRAE会長が来訪） 2. 国際交流視察団を派遣した。（オランダ+サンフランシスコ 令和2年2月） （団長：山口大学 小金井教授、副団長：東京ガス 田之頭氏 参加者26名） 3. ASHRAE冬季大会におけるJapan Seminarの開催を実現した。学会賞等受賞 作品の中から11件が応募し、そのうち下記の5件が採択された。出発前（12/6）には昨年度と同様に、発表に向けての予行練習を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 京都駅ビル （建築設備CX協会・吉田） 大成札幌ビル （大成建設・豊原） コープ共済プラザ （日建設計・村松） 清水建設四国支店 （清水建設・太田） 秋田市庁舎 （日本設計・星野） 4. AASA（ASHRAE Associate Society Alliance）に出席した（@ASHRAE冬季大会会場）。 5. 交流協的に基づいて、ASHRAE、REHVAとの会長会談を個別に実施した（@ASHRAE冬季大会会場）。 6. 学会ホームページに、交流団体のイベント情報等を掲載した（年2回）。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
国際交流衛生分科会 小瀬 博之	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. CIB W062国際シンポジウム（2019年9月、オーストラリア・メルボルンに国際建築設備調査団を派遣した。 （団長：小瀬 博之 東洋大学教授、副団長：中野民雄 静岡文化芸術大学） 2. 同上シンポジウム論文集を委員に配付した。 3. 2020年度CIB W062シンポジウム（2020年10月、台湾・台中）への対応について協議した。 4. 給排水衛生設備分野の国際名誉員を検討した。 5. 給排水衛生設備の国際交流と国際貢献に関する情報を収集し、本会における活動を審議した。

(2) 国際交流に関する事項

2.1 国際会議への当学会代表派遣 (2 件)

2.2 国際会議参加補助金支給 (1 件)

2.3 海外視察団派遣 (2 件)

(1) 第 24 回国際建築設備調査団 CIB W062 シンポジウム (オーストラリア/メルボルン)

団 長 小瀬 博之君 東洋大学 総合情報学部 教授

副 団 長 中野 民雄君 静岡文化芸術大学 デザイン学部 准教授

期 間 令和元年 9 月 6 日 (金) ~9 月 13 日 (金) 5 泊 8 日 (機中 2 泊)

参 加 者 15 名

視 察 先 ①シンポジウム

開催場所：オーストラリア・メルボルン

期 間：9 月 8 日 (日) ~10 日 (火)

②視察先

メルボルンの 6 Star グリーンビルディング「East Melbourne Library」
の見学、タスマニア・ホバートの 6 Star グリーンビルディング
「Sustainability Learning Center」の環境配慮技術、(雨水利用等)
環境教育の取組等の見学 など

(2) 第 29 回国際交流視察団 ASHRAE 冬季大会 (米国/オーランド)

団 長 小金井 真君 山口大学 教授 大学院創成科学研究科

副 団 長 田之頭健一君 東京ガス株式会社 エネルギーソリューション本部

ソリューション技術部 業務用システムグループマネージャー

期 間 令和 2 年 1 月 31 日 (金) ~2 月 9 日 (日) 10 日間

参 加 者 26 名

視 察 先 ASHRAE 関連行事 (フロリダ州オーランド) (2/1~2/5)

1. ASHRAE 冬季大会

・テクニカルセッション参加

(Japan Seminar (2 回 計 5 報) での講演、聴講 含む)

・テクニカルツアー参加

2. AHR EXPO (空調設備機器展示会) 視察

関連先視察訪問 (カリフォルニア州サンフランシスコ) (2/6~2/7)

1. GENENTECH

2. STANFORD UNIVERSITY CENTRAL ENERGY FACILITY

3. EXPLORATORIUM

2.4 国際名誉員 (International Honorary Member) 候補者の選考について

令和 2 年 1 月 推薦締切り

令和 2 年 2 月 研究委員会にて候補者を選考し、候補者を決定

令和 2 年 3 月 理事会へ推薦

(3) 出版物発行に関する事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
出版委員会 永田 久子	4	<p>1. 改定出版規格</p> <p>1) SHASE-S006 金属製変位吸収管継手 (PDFデータ販売) 令和元年10月28日発行</p> <p>2) SHASE-S007 メカニカル形変位吸収管継手 (PDFデータ販売) 令和元年7月24日発行</p> <p>3) SHASE-S110 送風機の音響パワーレベル測定方法 (PDFデータ販売) 令和2年3月13日発行</p> <p>4) SHASE-S206 給排水衛生設備規準・同解説 (単行本) 1刷2,000部 令和2年1月31日発行</p> <p>5) SHASE-S112 冷暖房熱負荷簡易計算法 (DVD販売) 1刷400枚 令和2年1月31日発行</p> <p>2. 改訂出版図書</p> <p>1) CASCADE-IV (プログラム) 初版1刷100枚 令和2年3月30日発行</p> <p>3. 増刷の報告</p> <p>1) SHASE-S206-2009 給排水衛生設備規準・同解説 (簡易製本版) 5刷 130部 令和元年5月8日発行</p> <p>2) G0002-2012 新版 建築設備の耐震設計 施工法 4刷 500部 令和元年6月10日発行</p> <p>3) 湿り空気h-x線図 6刷500部 令和元年6月20日発行</p> <p>4) G2007-2015 排水管清掃方法ガイドライン 4刷20部 令和元年8月30日発行</p> <p>5) G1008-2016 建物エネルギーシミュレーションツールの評価手法に 関するガイドライン 4刷20部 令和元年8月30日発行</p> <p>6) G0017-2015 ZEBの定義と評価方法に関するガイドライン 4刷40部 令和元年10月28日発行</p> <p>4. 委託出版図書</p> <p>1) ZEBのデザインメソッド 初版1刷1,300部 令和元年9月発行</p> <p>2) 徹底マスター 空気線図の読み方・使い方 改訂2版1刷 3,000部 令和元年10月発行</p> <p>5. 委託出版図書増刷の報告</p> <p>1) 空気調和・衛生設備の知識 4版4刷1,000部 令和元年6月 (オーム社)</p> <p>2) 給排水衛生設備 計画設計の実務の知識 4版4刷 2,000部 令和元年6月 (オーム社)</p> <p>4) 徹底マスター 空気線図の読み方・使い方 初版28刷 100部 令和元年7月 (オーム社)</p> <p>5) 空気調和設備 計画設計の実務の知識 4版5刷 2,000部 令和元年9月 (オーム社)</p> <p>6) 空気調和・衛生設備の知識 4版5刷1,300部 令和元年12月 (オーム社)</p> <p>7) 空気調和・給排水衛生設備 施工の実務の知識 初版13刷 400部 令和2年1月 (オーム社)</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
出版委員会 (続き)		<p>6. 絶版報告</p> <p>1) G0015-2013BEMS活用のためのグラフ画面とデータエクスポートのガイドライン</p> <p>2) G0016-2013建築設備配管に使用する管フランジ用ガスケットの選定ガイドライン</p> <p>3) M0010-2013配管腐食・劣化事故調査の進め方マニュアル 上記1)～3) 令和2年3月31日絶版</p> <p>7. 今後の出版物 今後の出版物について協議をおこなった。</p> <p>8. 引用転載許諾申請について 適宜処理した。</p>
空調・衛生設備 アドバイス編集小委員会 荒井 義人	2	新日本法規出版(株)の委託出版「四訂版 空調・衛生設備advice」の出版に向けて、内容の審議を行った。
CASCADE-IV開発小委員会 秋澤 淳	2	「CASCADE-IV」の開発を行い、令和2年3月に発売した。
ZEBのデザインメソッド 編集小委員会 丹羽 英治	5	技報堂出版(株)の委託出版「ZEBのデザインメソッド」の制作を行い、令和元年9月に出版した。
空気線図の読み方・ 使い方改訂小委員会 水野 稔	3	(株)オーム社の委託出版「空気線図の読み方・使い方」の改訂作業を行い、令和元年10月に出版した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学会誌委員会 河野 仁志	11	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学会誌「空調和・衛生工学」を、平成31年4月号から令和2年3月号までを刊行した。 特集は9回、講座は2件の連載を終了、2件を新規開始した。 2. 各小委員会企画・立案の特集および講座について検討し、掲載を決定した。 3. 各小委員会企画・立案の単発原稿について検討し、執筆依頼を行い適宜掲載した。 4. 各種投稿原稿について査読を行い、採否を決定し、適宜掲載した。 5. 令和元年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「空調和・衛生工学とSDGs」（令和元年10月）、を企画し、内容確認のうえ掲載した。 6. その他、学会誌発行に関することについて協議し決定した。
熱源・設備原論 小委員会 高橋 幹雄	11	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「研究所-研究設備とエビデンス-」（令和元年8月）、「バイオマス」（令和2年2月）を企画し内容確認のうえ掲載した。 2. 講座として「ファンの基礎知識」（令和元年5月～令和元年11月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 3. 建築設備Q&Aとして平成31年4月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。 4. 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。 5. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
空調・空気環境 小委員会 岩村 卓嗣	11	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「バイオフィリックデザイン-魅力あふれるワークプレイス-」（令和元年5月）、「建築業の生産性向上に向けた取り組み」（令和元年11月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 2. 講座として「風量・気流調整技術」（令和2年1月～令和2年6月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 3. 異見のページとして「蓄エネルギーの明日を考える」（令和元年10月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 4. 建築設備Q&Aとして令和元年6月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。 5. 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。 6. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
給排水衛生・水環境 小委員会 鈴木 拓宏	11	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「最新の検査技術・診断技術」（令和元年9月）、「これからの下水道を考える」（令和2年3月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 2. 講座として「バルブの基礎」（平成30年10月～平成31年4月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 3. 異見のページとして「想定外の自然災害に我々はどこまで備えるか」（平成31年4月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 4. 建築設備Q&Aとして令和元年10月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。 5. 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。 6. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
海外文献紹介 小委員会 池原 基博	11	<ol style="list-style-type: none"> 学会誌「海外文献紹介」および「外国雑誌主要文献題目」欄の掲載記事を訳出し、学会誌に掲載した。 「海外文献紹介」欄の投稿原稿を査読した。 その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
年鑑・年報検討 小委員会 木村 崇	5	<ol style="list-style-type: none"> 令和元年年報特集号（令和元年12月）を企画し、学会誌委員会に立案、内容確認のうえ掲載した。 その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
論文集委員会 林立也	12	<ol style="list-style-type: none"> 投稿された論文の審査を行い、採否ならびに論文集掲載号を決定し、以下のとおり刊行した。 No. 265（平成元年 4月、学術論文1編、技術論文1編、計 2編16頁） No. 266（令和元年 5月、学術論文2編 計 2編11頁） No. 267（令和元年 6月、学術論文1編 計 1編 9頁） No. 268（令和元年 7月、学術論文3編、技術論文1編、計 4編31頁） No. 269（令和元年 8月、学術論文3編 技術論文1編 計 4編32頁） No. 270（令和元年 9月、学術論文1編、技術論文3編、計 4編28頁） No. 271（令和元年10月、学術論文1編、技術論文2編、計 3編25頁） No. 272（令和元年11月、学術論文2編、技術論文1編 計 3編22頁） No. 273（令和元年12月、学術論文2編、技術論文2編 計 4編33頁） No. 274（令和 2年 1月、学術論文1編、技術論文2編 計 3編25頁） No. 275（令和 2年 2月、学術論文2編、技術論文2編 計 4編29頁） No. 276（令和 2年 3月、 技術論文1編 計 1編6 頁） ※計頁数：本文頁総数（刊行総頁数ではない。） その他、論文審査および論文集刊行に伴う諸問題を検討した。 CiNii終了（平成28年3月）に伴い、論文公開データベースのJ-STAGE移行手続きを進めた。 空気調和・衛生工学会 大会にて講演論文からの空気調和・衛生工学会論文集への投稿論文の推薦を募り、推薦結果に基づき投稿依頼を実施した。

(4) 刊行物に関する事項

1) 空気調和・衛生工学会論文集

下記12号を刊行した。

号数	発行年月	本文頁* (編数)	目次	広告	その他	合計頁	発行部数
No.265	平成31年 4月	16頁(2編)	2	0	0	18	1,000
No.266	令和元年 5月	11頁(2編)	2	0	1	14	1,000
No.267	令和元年 6月	9頁(1編)	2	0	21	32	1,000
No.268	令和元年 7月	31頁(4編)	2	0	0	33	1,000
No.269	令和元年 8月	32頁(4編)	2	0	0	34	1,000
No.270	令和元年 9月	28頁(4編)	2	0	0	30	1,000
No.271	令和元年 10月	25頁(3編)	2	0	0	27	1,000
No.272	令和元年 11月	22頁(3編)	2	0	0	24	1,000
No.273	令和元年 12月	33頁(4編)	2	0	31	66	1,000
No.274	令和元年 1月	25頁(3編)	2	0	0	27	1,000
No.275	令和元年 2月	29頁(4編)	2	0	6	37	1,000
No.276	令和元年 3月	6頁(1編)	2	0	21	29	1,000
合計		267頁(35編)	24	0	80	371	12,000

*：論文集の総頁数ではありません。

2) 空気調和・衛生工学

学会誌「空気調和・衛生工学」は、第93巻4号から第94号3号までの12号を刊行した。

内訳は、別表「(5)平成31/令和元年度学会誌掲載内容内訳」のとおりである。

3) 第14版空気調和・衛生工学便覧(平成22年2月、第1刷)、SHASE-S、SHASE-M、SHASE-G、
学会出版物の当期出庫数は、別表「(6)平成30年度出版物出庫部数 表1～5」のとおりである。

注:別表の改定・増刷に関する詳細は、出版委員会報告(Ⅲ.事業報告の6.調査・資料収集の実施に関する事項 (3)出版物発行に関する事項)に記載。

(5) 平成31/令和元年度学会誌掲載内容内訳

(5) 平成31/令和元年度学会誌掲載内容内訳

巻号	特集		解説・技術報告・親文		委員会報告		講座		海外文献紹介		竣工設備データベース		主要文献題目		会報		①その他		a 頁小計		本文外				本文				広告				② 総頁		発行部数
	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	目次・内容紹介など	会告	b 頁小計	前付後付	目次裏会告中広告	2 (4) 色對抗	記事前付後付以外	記事中(1/2頁以下)	c 小計	116	15,900				
4			10.8	1	4.75		12	1	9.25	2	6.5	7.5								60.75	2	27.75	29.75	12.25	4.25	3	3	3	25.5	116	15,900				
5	バイオフィリックス デザイン-魅力あふれるワークスペース-	7					8	1	7	1	2.75								71.25	3	23.25	26.25	10.25	7.25	4	2	2.5	26	124	15,800					
6			7.75	1	25.5		3.5	1	11	1	4.75								68.50	2	24.75	26.75	12.25	5.25	3	5	3.5	29	124	15,800					
7	学会賞・特別賞十 年賞・リニエアー ル賞・振興賞技術 振興賞・住宅環境 設備賞・築屋記念 賞・井上宇市記念 賞および功績賞	94																	127.00	2	23.25	25.25	14.25	6.75	3	1	1.75	26.75	179	15,800					
8	研究所一研究設備 とエビデンスー	46.75	9	9.75					4	1	8.25								75.50	3	21	24	11.25	4	9	8	4.75	37	137	15,800					
9	最新の検査技術・ 診断技術	60.75	10	8.5					2	4.5	6.5								92.50	3	19.5	22.5	9.25	6.5	4	6	3.75	29.5	145	15,800					
10	空気調和・衛生工 学とSDGs	45.75	9	7					4	1	8.5								92.25	3	15	18	11.25	6	3	5	3.5	28.75	139	15,800					
11	建設業の生産性向 上に向けた取り組み	47	8	18					5	1	5.5								78.25	3	17.5	20.5	11.25	3.5	3	4	2.5	24.25	123	15,800					
12	空気調和・衛生工 学会 令和元年 年報特集号	117.3	23																127.50	1	17.75	18.75	8.25	5.25	5	1	1.25	20.75	167	15,750					
1			51.5	4	19.5		7	1	7.50	1									99.25	2	20.5	22.5	8.25	6.5	13	3	1.75	32.5	154	15,800					
94	バイオマス これからの下水道 を考える	42	7	2					3	1	5								85.25	3	19	22	10.25	6	3	12	4.25	27.75	135	15,750					
3		57	9						3.75	1	5								85.00	3	29.25	32.25	6.25	6.75	3	6	5.75	27.75	145	15,600					
年度計		558	101	70	6	95	55	10	68	11	51	18							1,063	30	259	289	125	68	56	56	38	336	1,687	189,400					
月平均		47	8	6	1	8	5	1	6	1	4	2							89	3	22	24	10	6	5	5	3	28	141	15,783					

注 ①竣工設備一覧、読者サロン、支部便り、支部便り、私の回顧録、私の回顧録、伝承、建築設備QA、異見のページ、技術情報、年間総目次、広告目次、新名譽・特別会員紹介、再版などをいう。なお、本文「竣工設備一覧」の両面刷りは1枚4頁、片面刷りは1枚2頁として計算した。

②a本文頁小計+b本文外小計+c 広告頁小計

(6) 平成31/令和元年度出版物出庫数

表1 空気調和・衛生工学会便覧

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
便覧第14版 1巻 基礎編	20	23	186	0
便覧第14版 2巻 機器・材料編	18	16	293	0
便覧第14版 3巻 空気調和設備編	38	46	159	0
便覧第14版 4巻 給排水衛生設備編	52	63	73	0
便覧第14版 5巻 計画・施工・維持管理編	13	19	293	0
便覧第14版セット	57	42	113	0

表2 空気調和・衛生工学会規格 (SHASE-S)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
SHASE-S 001-2005 図示記号	37	37	266	0
SHASE-S 003-2012 スリーブ形伸縮管継手	2	3	0	0
SHASE-S 006-2008 金属製変位吸収管継手	5	3	0	0
SHASE-S 006-2019 金属製変位吸収管継手	0	2	0	0
SHASE-S 007-2008 メカニカル形変位吸収管継手	1	1	0	0
SHASE-S 007-2019 メカニカル形変位吸収管継手	0	4	0	0
SHASE-S 008-2008 ゴム製変位吸収管継手	3	5	0	0
SHASE-S 009-2004 建築設備用インサート	6	5	0	0
SHASE-S 010-2013 空気調和・衛生設備工事標準仕様書	246	247	714	0
SHASE-S 012-2013 建築設備用あと施工アンカー	26	20	0	0
SHASE-S 013-2014 建築設備用配管ねじ接合シール材	5	5	0	0
SHASE-S 014-2014 建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニット	5	1	0	0
SHASE-S 102-2011 換気規準・同解説	16	9	0	0
SHASE-S 103-2000 鋳鉄ボイラの出力試験方法	0	1	0	0
SHASE-S 106-2005 減圧弁	3	0	0	0
SHASE-S 106-2019 減圧弁	0	7	0	0
SHASE-S 110-2007 送風機の音響パワーレベル測定方法	2	1	0	0
SHASE-S 110-2019 送風機の音響パワーレベル測定方法	0	0	0	0
SHASE-S 111-2012 煙突計算基準	6	16	0	0
SHASE-S 112-2009 冷暖房熱負荷簡易計算法	37	32	0	0
SHASE-S 112-2019 冷暖房熱負荷簡易計算法	0	20	380	400
SHASE-S 113-2012 個別空調機の音響パワーレベル測定法	2	0	0	0
SHASE-S 114-2011 空調機器騒音測定方法	3	1	0	0
SHASE-S 115-2010 室内換気効率の現場測定法・同解説	0	0	0	0
SHASE-S 116-2011 トレーサガスをを用いた単室の換気量測定法	5	3	0	0
SHASE-S 117-2010 換気・空調設備の現場風量測定法	0	0	0	0
SHASE-S 117-2017 換気・空調設備の現場風量測定法	36	31	0	0
SHASE-S 118-2010 冷凍機期間成績係数算定・表示法	0	1	0	0
SHASE-S 119-2017 空気調和設備室内騒音の測定方法	2	3	0	0
SHASE-S 203-2010 排水・通気用鉛管	0	0	0	0
SHASE-S 206-2009 給排水衛生設備規準・同解説	201	41	0	0
SHASE-S 206-2009 給排水衛生設備規準・同解説(簡易製本版)	0	112	18	130
SHASE-S 206-2019 給排水衛生設備規準・同解説	0	233	1746	2000
SHASE-S 209-2009 鋳鉄製マンホールふた	9	6	0	0
SHASE-S 211-2013 大気圧バキュームブレーカ	2	4	0	0
SHASE-S 212-2005 水撃防止装置の性能評価方法	1	0	0	0
SHASE-S 215-2013 圧力式バキュームブレーカ	2	2	0	0
SHASE-S 217-2016 グリース阻集器	16	20	0	0
SHASE-S 218-2014 集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法	6	9	0	0
SHASE-S 219-2016 循環式浴槽用砂式ろ過器の性能評価方法	3	1	0	0
SHASE-S 220-2017 器具排水特性試験法	4	3	0	0
SHASE-S 221-2012 オイル阻集器	7	15	0	0

*SHASE-S-001、010、206を除き、PDFデータ販売のため、期末在庫なし

表3 ガイドライン(G)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
G 0002-2012 新版 建築設備の耐震設計 施工法	110	143	379	500
G 0003-1999 SIの手引き	2	3	4	0
G 0009-2007 京都議定書目標達成に向けて建築・都市エネルギーシステムの新技术	3	1	169	0
G 0015-2013 BEMS活用のためのグラフ画面とデータエクスポートのガイドライン	4	5	1	0
G 0016-2013 建築設備配管に使用する管フランジ用ガasketの選定ガイドライン	1	4	7	0
G 0017-2015 ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の定義と評価方法に関するガイドライン	20	16	33	40
G 0018-2016 省エネルギー技術指針(非住宅編)ガイドライン	10	12	7	0
G 0019-2016 BEMSポイント名称ガイドライン	4	3	10	0
G 0020-2016 災害時のBCP検証手法ガイドライン—空調・衛生設備を中心に—	6	9	11	10
G 0021-2016 BEMS ビル管理システムの計画・設計と運用の知識	59	37	62	0
G 0022-2016 建築設備の試運転調整ガイドライン	12	10	7	0
G 1001-2012 試して学ぶ熱負荷HASPEE～新最大熱負荷計算法～	80	61	77	0
G 1004-2011 セントラル空調システムの最適化機器相互の統合的最適設計と運転の手引き	29	32	247	0
G 1006-2013 ビル用マルチパッケージ型空調システム—計画・設計から性能評価まで—	41	45	76	0
G 1007-2014 換気システムの不具合対策に関するガイドライン	3	7	11	0
G 1008-2016 建物エネルギーシミュレーションツールの評価手法に関するガイドライン	7	11	15	20
G 1009-2016 集合住宅の機械換気設備による室内負圧に関するガイドライン	1	3	9	0
G 2007-2015 排水管清掃方法ガイドライン	13	12	14	20
G 2008-2015 貯湯式給湯器転倒防止対策ガイドライン	3	2	2	0
G 2009-2016 トラップ性能試験法ガイドライン	0	1	16	0

表4 マニュアル(M)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
M 0001-1-2015 都市ガスコージェネレーションの計画・設計と運用	26	51	23	0
M 0001-2-2013 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラム CASCADEⅢ	4	1	35	0
M 0001-2-2013 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラム CASCADEⅢ交換価格	0	0	0	0
M 0001-2-2020 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラム CASCADEⅣ	0	0	100	100
M 0003-2015 建築と設備の環境配慮技術のすべて—要素技術からスマートシティまで—	24	54	462	0
M 0005-2013 新版 災害時の水利用 飲める水・使える水	14	29	2	0
M 0010-2013 配管腐食・劣化事故調査の進め方マニュアル	7	9	2	0
M 0011-2018 建築設備の凍結・雪対策 計画設計施工の実務の知識	389	53	38	0
M 1001-2009 新版 工場換気	444	467	571	0
M 1002-2017 蓄熱式空調システムが実現するエネルギーマネジメント～計画・設計から運用まで～	13	26	263	0
M 1003-2019 快適な温熱環境のしくみと実践	0	578	715	1300
M 1004-2003 低温送風空調システムの計画と設計	8	7	232	0
M 1006-2017 新版 都市ガス空調のすべて	10	8	507	0
M 2001-2011 雨水利用の実務の知識設計・施工・維持管理マニュアル	18	14	1012	0

表5 その他

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
湿り空気線図h-x線図	75	65	503	500
置換換気ガイドブック—基礎と応用— REHVA No.1	19	17	337	0
オフィスにおける室内気候と知的生産性 REHVA No.6知的生産性評価を組み込んだライフサイクルコスト分析	10	10	549	0
換気効率ガイドブック—理論と応用—REHVA No.2	10	12	691	0
換気設計のための数値流体力学CFD	0	13	107	0

7. 表彰の実施に関する事項

(1) 表彰事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
表彰運営委員会	2	各表彰の選考業績につき審議を行った。 各表彰に関する、規程、要領につき審議を行った。
学会賞・特別賞・ 振興賞選考委員会 大塚 雅之	2	学会賞・特別賞・振興賞の審査・選考につき下記を理事会へ報告した。 1. 第58回学会賞論文賞 全5件 (学術論文部門3件、技術論文部門1件、論説・報文部門1件) 2. 第58回学会賞技術賞 全4件 (建築設備部門3件、技術開発部門1件) 3. 第20回特別賞十年賞 全1件 4. 第8回特別賞リニューアル賞 全0件 5. 第34回振興賞学生賞 登録86学部学科より推薦 6. 第35回振興賞高校教育賞 全1件 7. 第34回振興賞技術振興賞 全10件 (第1区2件、北海道支部1件、中部支部2件、近畿支部1件、 中国四国支部2件、九州支部2件) 8. 第17回振興賞住宅環境設備賞 全1件 (東北支部1件) 9. 第17回功績賞 全5件
論文賞審査小委員会 諏訪 好英	2	1. 学会賞論文賞 (学術論文部門、技術論文部門、論説・報文部門) の審査にあたり、表彰規程第5条に定める審査対象業績につき審査を行い表彰候補業績 (上記参照) を学会賞選考委員会へ報告した。
技術賞審査小委員会 奥宮 雅哉	2	1. 学会賞技術賞 (建築設備部門、技術開発部門) および振興賞技術振興賞第1区の審査にあたり、表彰規程第5条に定める応募対象業績の予備審査、資料調査および現場調査を行い表彰候補業績 (上記参照) を学会賞選考委員会へ報告した。
特別賞審査小委員会 佐々木 邦治	2	1. 特別賞「十年賞」および特別賞「リニューアル賞」の審査にあたり表彰規程第6条に定める応募対象業績につき、予備審査、資料調査、および現場調査を行い、表彰候補業績 (上記参照) を特別賞選考委員会へ報告した。
篠原記念賞推薦委員会 小寺 定典	3	1. 篠原記念賞表彰業績の選定として、篠原記念賞推薦委員会推薦に加え、研究委員会、出版委員会、標準化委員会、学会誌委員会へ推薦を依頼し、応募のあった業績につき審査し、受賞候補業績を理事会へ報告した。 ・篠原記念賞 2件 ・篠原記念賞奨励賞 3件
井上宇市記念賞 推薦委員会 野部 達夫	2	1. 井上宇市記念賞を公募し、下記の表彰候補者を理事会に報告した。 ・井上宇市賞 2件 ・アジア国際賞 1件

(2) 第 57 回空気調和・衛生工学会賞

1) 論文賞

学術論文部門 3 件

□業績名称 地域熱供給システムにおける負荷特性と未利用エネルギーのマッチング評価指標の提案 (No.238)

長井 達夫	東京理科大学
高貫 悠右	東京理科大学
新井 研人	東京理科大学
三原 邦彰	鹿島技術研究所
小野 永吉	鹿島技術研究所
荒井 良延	鹿島技術研究所

□業績名称 人の所在に関する情報と連携した BEMS の活用に関する実践的研究 (No.227)

中里 壮一	(株)安藤・間 ※東京電機大学
射場本 忠彦	東京電機大学
柳原 隆司	東京電機大学
百田 真史	東京電機大学
稻田 雄大	前田建設工業(株) ※東京電機大学
南雲 祐輝	一財) ベターリビング※東京電機大学

□業績名称 生活排水処理における臭気の実態に関する研究 (No.246)

福井 啓太	東北文化学園大学
前田 信治	(有) 前田衛生興業
岡田 誠之	東北文化学園大学
須藤 諭	東北文化学園大学

技術論文部門 1 件

□業績名称 太陽光発電システムが設置された中規模事務所建物の防災拠点化に関する調査研究

第 1 報 年間の太陽光発電量と電力使用量に関する基礎調査 (No.226)

第 2 報 実測調査に基づく非常時における電力自立性評価 (No.237)

西川 豊宏	工学院大学
飯嶋 航平	東電設計(株) ※工学院大学
米山 嘉貴	住商ビルマネージメント(株) ※工学院大学

論説報文部門 1 件

□業績名称 特集 こう動かしたい空調設備と自動制御

(1) ~ (6) (学会誌第 89 巻 5, 6, 8, 9, 10, 11 月号)

水高 淳	アズビル(株) ビルシステムカンパニー
------	---------------------

2) 技術賞

建築設備部門

□業績名：秋田市新庁舎における環境・設備計画

設計・監理・検証	(株)日本設計
施工	清水建設(株)東北支店
施工	新菱冷熱工業(株)東北支社
施工・検証	三協立山(株)三協アルミ社
検証・評価	長谷川 兼一
検証・評価	竹内 仁哉
検証・評価	松本 真一

□業績名：K Tビルにおける普及性を目指した ZEB Ready の実現

計画・設計・監理・施工	鹿島建設(株)
性能・評価	鹿島建設(株)技術研究所
データ解析	ダイキン工業(株)
施工	東洋熱工業(株)
施工	(株)クリマテック(株)

□業績名：コープ共済プラザにおける環境建築の計画と検証

計画・設計	(株)日建設計
施工	(株)フジタ
施工	(株)前川製作所
施工	(株)きんでん
検証・評価	野部 達夫
検証・評価	富樫 英介

□業績名：ダイキン テクノロジー・イノベーションセンター(オフィス棟) の環境・設備計画と実施

計画・設計・検証	(株)日建設計 大阪
計画・検証	ダイキン工業(株)
施工	(株)竹中工務店大阪本店
施工・検証	(株)NTTファシリティーズ
検証・評価	(株)日建設計総合研究所
検証・評価	山中 俊夫
検証・評価	井上 隆

技術開発部門

無し

(3) 特別賞「第 19 回十年賞」、「第 7 回リニューアル賞」

1) 特別賞「十年賞」

□業績名：大成札幌ビルのエネギー性能の継続的運用改善と ZEB Ready の実現

施主・設計・施工・検証	大成建設(株)
管理・運用	大成有楽不動産(株)札幌支店

□業績名：ソニーシティにおける「エミッション ZEB」を目指す CO2 削減の取り組み

維持・管理	ソニーコーポレートサービス(株)
計画・入居者	ソニー(株)
検証	東京電力エナジーパートナー(株)
検証	三菱重工サーマルシステムズ(株)
検証	高砂熱学工業(株)東京本店
解析・評価	桑原 康浩
解析・評価	赤司 泰義
解析・評価	宮田 翔平

2) 特別賞「リニューアル賞」

□業績名：コミッショニングで 100 年建築を目指す-京都駅ビル熱源・空調設備省エネ改修

検証	NPO 法人建築設備コミッショニング協会
企画	京都駅ビル開発(株)
設計	(株)日建設計大阪
施工	高砂熱学工業(株)大阪支店

(4) 第 33 回空気調和・衛生工学会振興賞

1) 第 34 回学生賞

登録した 88 大学学部学科のうち、学科主任教授の推薦を受けた 82 名を表彰

2) 第 33 回技術振興賞

第 1 区 3 件

□業績名：TRI-SEVEN ROPPONGI の環境・設備計画と実施

計画・施工	(株)竹中工務店東京本店
計画	ペンブロークリアルエステート ジャパン エルエルシー
施工	新菱冷熱工業(株)
機器開発	新晃工業(株)

検証	野部 達夫
検証	鵜飼 真成

□業績名：日本無線 川越事業所

設計	(株)日建設計
施工	清水建設(株)
施工	高砂熱学工業(株)
施工	ダイキン工業(株)
施工	ジョンソンコントロールズ(株)

□業績名：京橋M I Dビルの設備計画～中規模テナントオフィスビルにおける環境・設備計画

設計・監理・施工	大成建設(株)
事業主	関電不動産開発(株)
衛生・空調・施工	東洋熱工業(株)
制御メーカー	(株)東光高岳

第2区 1件

□業績名：北見赤十字病院

計画・設計・監理	(株)石本建築事務所
計画・運用	北見赤十字病院
総合施工	清水建設(株)
空調・衛生施工	三建設備工業(株)
自動制御設備施工	ジョンソンコントロールズ(株)

第4区 1件

□業績名：eco と BCP を兼ね備えた「百五銀行 岩田本店棟」の計画・設計・施工

設計 施工	清水建設(株)
衛生空調設備施工	三機工業(株)中部支社
ビル管理	(株)シミズ・ビルライフケア

第5区 1件

□業績名：ナミックス本社再編プロジェクト STEP1 生産棟における設備設計と検証

計画・設計・施工・検証	(株)竹中工務店 東京本店
施工・検証	菱機工業(株)新潟支店
施工	住友電設(株)
計画	ナミックス(株)

第6区 2件

□業績名：イオンモール堺鉄砲町～下水再生水を活用した環境配慮型商業施設～

計画・設計・施工	(株)竹中工務店
計画	イオンモール(株)
計画	(株)関電エネルギーソリューション
計画	関西電力(株)
施工	(株)テクノ菱和
施工	斎久工業(株)

□業績名：本庄東熱供給センターにおける最適運転システム
—混合整数線形計画法による最適運転計画—

システム構築	(株)関電エネルギーソリューション
--------	-------------------

第7区 2件

□業績名：阿南市新庁舎 大規模吹抜け空間とソーボト`を有する環境共生建築の計画と性能検証

計画・設計・検証	(株)日建設計
計画	阿南市
施工	(株)朝日工業社大阪支社
検証	山中 俊夫
検証	桃井 良尚

□業績名：清水建設 四国支店 ～中規模オフィスビルにおける ZEB への取り組み～

計画・設計・施工・監理	清水建設(株)関西支店
施工	ダイダン(株)四国支店
機器開発	新晃工業(株)
開発・検証	清水建設(株)
検証	近本 智行

第8区 1件

□業績名：長崎みなとメディカルセンター ～災害拠点病院を支える設備の構築と省エネ検証～

設計・施工	大成建設(株)
事業主	長崎ホスピタルパートナーズ(株)
設計・監理	(株)久米設計

空調施工	新菱冷熱工業(株)
衛生施工	(株)西原衛生工業所
電気施工	(株)きんでん

3) 第 16 回住宅環境設備賞

第 3 区 1 件

□業績名称 環境配慮型住宅用地中熱ヒートポンプの開発評価

計画・解析・評価	赤井 仁志
企画・工法開発・検証	東北電力(株)
工法開発・設計・監理	(株)ユアテック
施工・管理	(株)ユアテック秋田支社
ヒートポンプ開発・解析	サンボット(株)
地域性検討	佐藤ひかる

4) 第 34 回高校教育賞

業績名	受賞者
地中熱を利用した融雪研究への取り組み	畑中 次夫 青森県立むつ工業高等学校 設備・エネルギー科

(5) 第 16 回功績賞

業績名	受賞者
新版 都市ガス空調のすべて	出版委員会都市ガス空調のすべて改訂小委員会
排水通気設計基準の拡充に向けた研究	給排水衛生設備委員会排水・通気システムの設計法検討小委員会
空調設備における機能性能試験の標準仕様に関する調査研究	機能性能試験標準仕様書策定検討小委員会

(6) 第 28 回篠原記念賞

賞名	受賞者
篠原記念賞	青木 一義 (株)西原衛生工業所)
篠原記念賞	西川 豊宏 (工学院大学)

奨励賞	池田 大輔 (㈱総合設備コンサルタント)
奨励賞	本村 雄大 (関東学院大学)
奨励賞	亘理 咲綺 (関東学院大学)

(7) 第9回井上宇市記念賞

賞名	受賞者
井上宇市賞	奥宮 正哉 (名古屋大学)
井上宇市賞	富田 弘明 (三機工業㈱)
アジア国際賞	Sitaraman Chandra Sekhar (シンガポール国立大学建築学科)

IV. 会計報告

1. 財務諸表報告

(1) 貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	321,267,492	315,149,144	6,118,348
未収入金	11,822,471	14,982,469	△ 3,159,998
未収会費	0	0	0
在庫品	9,564,891	12,000,886	△ 2,435,995
仮払金	0	40,000	△ 40,000
前払金	4,957,762	5,823,295	△ 865,533
流動資産合計	347,612,616	347,995,794	△ 383,178
2. 固定資産			
(1) 基本財産	0	0	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	28,630,176	26,449,887	2,180,289
公益目的資産	150,000,000	150,000,000	0
公益目的事業資産	210,000,000	200,000,000	10,000,000
事務所等の改修および取得資産	85,717,000	95,000,000	△ 9,283,000
特定資産合計	474,347,176	471,449,887	2,897,289
(3) その他の固定資産			
電話加入権	235,900	235,900	0
敷金・保証金	17,401,360	17,401,360	0
その他の固定資産合計	17,637,260	17,637,260	0
固定資産合計	491,984,436	489,087,147	2,897,289
資産合計	839,597,052	837,082,941	2,514,111
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,865,609	6,044,629	△ 4,179,020
未払消費税等	2,466,900	0	2,466,900
未払法人税等	0	0	0
前受会費	80,658,000	81,272,200	△ 614,200
前受金	3,737,500	6,628,116	△ 2,890,616
預り金	487,683	694,544	△ 206,861
仮受金	98,423	124,854	△ 26,431
賞与引当金	7,100,000	7,600,000	△ 500,000
流動負債合計	96,414,115	102,364,343	△ 5,950,228
2. 固定負債			
退職給付引当金	28,630,176	26,449,887	2,180,289
固定負債合計	28,630,176	26,449,887	2,180,289
負債合計	125,044,291	128,814,230	△ 3,769,939
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	714,552,761	708,268,711	6,284,050
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(445,717,000)	(445,000,000)	(717,000)
正味財産合計	714,552,761	708,268,711	6,284,050
負債及び正味財産合計	839,597,052	837,082,941	2,514,111

(2) 正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
①受取入会金	757,000	338,500	0	1,095,500	1,091,000	4,500
正会員受取入会金	574,000	257,000	0	831,000	836,000	△ 5,000
学生会員受取入会金	131,000	58,500	0	189,500	195,000	△ 5,500
賛助会員受取入会金	52,000	23,000	0	75,000	60,000	15,000
②受取会費	131,201,000	58,942,800	0	190,143,800	189,405,550	738,250
正会員受取会費	107,856,000	48,456,300	0	156,312,300	156,020,300	292,000
学生会員受取会費	1,604,000	720,000	0	2,324,000	2,185,500	138,500
賛助会員受取会費	21,741,000	9,766,500	0	31,507,500	31,199,750	307,750
③事業収益	118,056,568	3,009,300	0	121,065,868	114,728,472	6,337,396
1-1 講座セミナーの実施	49,203,745	0	0	49,203,745	42,517,691	6,686,054
教育普及事業収益	21,836,977	0	0	21,836,977	21,459,841	377,136
学術事業収益	17,862,787	0	0	17,862,787	16,137,054	1,725,733
C P D 事業収益	9,503,981	0	0	9,503,981	4,920,796	4,583,185
1-2 資格付与の実施	23,649,774	0	0	23,649,774	25,308,000	△ 1,658,226
資格検定事業収益	23,649,774	0	0	23,649,774	25,308,000	△ 1,658,226
1-3 調査・資料収集の実施	45,203,049	0	0	45,203,049	44,290,181	912,868
学術調査研究事業収益	0	0	0	0	0	0
国際交流事業収益	0	0	0	0	0	0
受託調査研究事業収益	0	0	0	0	0	0
出版物発行事業収益	45,203,049	0	0	45,203,049	44,290,181	912,868
1-4 技術開発・研究開発の実施	0	0	0	0	0	0
規格制定事業収益	0	0	0	0	0	0
1-5 表彰の実施	0	0	0	0	0	0
表彰事業収益	0	0	0	0	0	0
法人会計	0	3,009,300	0	3,009,300	2,612,600	396,700
W e b 広告収益	0	3,009,300	0	3,009,300	2,612,600	396,700
特別委員会収益	0	0	0	0	0	0
④受取補助金等	0	0	0	0	0	0
⑤受取負担金	0	0	0	0	0	0
⑥受取寄附金	0	0	0	0	0	0
⑦受取利息	1,702	425	0	2,127	2,593	△ 466
⑧雑収益	689,920	42,978	0	732,898	935,495	△ 202,597
経常収益計	250,706,190	62,334,003	0	313,040,193	306,163,110	6,877,083

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
(2) 経常費用						
① 事業費	252,187,051	0	0	252,187,051	247,424,569	4,762,482
1-1 講座セミナーの実施	22,590,152	0	0	22,590,152	25,161,585	△ 2,571,433
教育普及事業費	9,146,971	0	0	9,146,971	11,677,827	△ 2,530,856
学術事業費	12,675,904	0	0	12,675,904	12,670,487	5,417
C P D 事業費	767,277	0	0	767,277	813,271	△ 45,994
1-2 資格付与の実施	14,571,720	0	0	14,571,720	14,399,468	172,252
資格検定事業費	14,571,720	0	0	14,571,720	14,399,468	172,252
1-3 調査・資料収集の実施	65,092,302	0	0	65,092,302	64,129,834	962,468
学術調査研究費	2,800,461	0	0	2,800,461	1,940,322	860,139
国際交流事業費	1,219,708	0	0	1,219,708	1,269,279	△ 49,571
受託調査研究事業費	0	0	0	0	0	0
出版物発行事業費	61,072,133	0	0	61,072,133	60,920,233	151,900
1-4 技術開発・研究開発の実施	37,032	0	0	37,032	109,221	△ 72,189
規格制定事業費	37,032	0	0	37,032	109,221	△ 72,189
1-5 表彰の実施	5,701,309	0	0	5,701,309	5,681,100	20,209
表彰事業費	5,701,309	0	0	5,701,309	5,681,100	20,209
旅費・交通費	2,450,819	0	0	2,450,819	2,109,172	341,647
小計	110,443,334	0	0	110,443,334	111,590,380	△ 1,147,046
給料手当	66,620,174	0	0	66,620,174	71,582,134	△ 4,961,960
法定福利費	12,774,156	0	0	12,774,156	13,978,682	△ 1,204,526
賞与引当金繰入	△ 400,000	0	0	△ 400,000	△ 160,000	△ 240,000
退職給付費用	4,880,263	0	0	4,880,263	4,424,189	456,074
福利厚生費	803,811	0	0	803,811	1,021,770	△ 217,959
旅費交通費	41,169	0	0	41,169	59,231	△ 18,062
通信費	2,007,384	0	0	2,007,384	1,734,899	272,485
減価償却費	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	7,715,049	0	0	7,715,049	232,480	7,482,569
消耗品費	760,390	0	0	760,390	435,466	324,924
修繕費	369,760	0	0	369,760	720,000	△ 350,240
印刷費	541,134	0	0	541,134	248,739	292,395
共益費	2,525,408	0	0	2,525,408	2,476,209	49,199
賃借料	22,602,718	0	0	22,602,718	23,303,408	△ 700,690
租税公課	320,368	0	0	320,368	454,608	△ 134,240
事務委託費	10,927,283	0	0	10,927,283	7,150,728	3,776,555
雑費	758,218	0	0	758,218	802,781	△ 44,563
消費税	8,496,432	0	0	8,496,432	7,368,865	1,127,567
小計(事業運営費)	141,743,717	0	0	141,743,717	135,834,189	5,909,528
② 管理費	0	54,569,092	0	54,569,092	56,527,481	△ 1,958,389
会員事業費	0	2,272,607	0	2,272,607	2,842,629	△ 570,022
委員会委嘱・名簿作成費	0	144,680	0	144,680	127,720	16,960
国際交流事業費(国際会議補助)	0	0	0	0	92,593	△ 92,593
技術フェロー事業費	0	0	0	0	29,500	△ 29,500
情報化促進事業費	0	2,703,680	0	2,703,680	3,310,216	△ 606,536
会議費	0	7,665,240	0	7,665,240	7,511,074	154,166
役員選挙費	0	883,060	0	883,060	930,299	△ 47,239
代議員選挙費	0	0	0	0	2,550,000	△ 2,550,000
加入学協会費	0	496,774	0	496,774	554,167	△ 57,393
支払保険料	0	277,158	0	277,158	275,528	1,630
周年記念事業費	0	0	0	0	0	0
旅費・交通費	0	4,689,969	0	4,689,969	4,345,213	344,756
小計	0	19,133,168	0	19,133,168	22,568,939	△ 3,435,771
給料手当	0	16,655,043	0	16,655,043	17,895,533	△ 1,240,490
法定福利費	0	3,193,539	0	3,193,539	3,494,670	△ 301,131
賞与引当金繰入	0	△ 100,000	0	△ 100,000	△ 40,000	△ 60,000
退職給付費用	0	1,220,066	0	1,220,066	1,106,047	114,019
福利厚生費	0	200,953	0	200,953	255,443	△ 54,490
旅費交通費	0	10,291	0	10,291	14,807	△ 4,516
通信費	0	501,846	0	501,846	433,724	68,122
減価償却費	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	0	1,928,762	0	1,928,762	58,120	1,870,642
消耗品費	0	190,097	0	190,097	108,867	81,230
修繕費	0	92,440	0	92,440	180,000	△ 87,560
印刷費	0	135,283	0	135,283	62,184	73,099
共益費	0	631,352	0	631,352	619,051	12,301
賃借料	0	5,650,679	0	5,650,679	5,825,852	△ 175,173
租税公課	0	80,092	0	80,092	113,652	△ 33,560
事務委託費	0	2,731,819	0	2,731,819	1,787,682	944,137
雑費	0	189,553	0	189,553	200,694	△ 11,141
消費税	0	2,124,109	0	2,124,109	1,842,216	281,893
小計	0	35,435,924	0	35,435,924	33,958,542	1,477,382
経常費用計	252,187,051	54,569,092	0	306,756,143	303,952,050	2,804,093
当期経常増減額	△ 1,480,861	7,764,911	0	6,284,050	2,211,060	4,072,990
当期一般正味財産増減額	△ 1,480,861	7,764,911	0	6,284,050	2,211,060	4,072,990
一般正味財産期首残高				708,268,711	706,057,651	2,211,060
一般正味財産期末残高				714,552,761	708,268,711	6,284,050
II 正味財産期末残高				714,552,761	708,268,711	6,284,050

(3) 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) たな卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による原価法

(2) 引当金の計上基準

賞与引当金 職員の賞与支給に備えるため、支給見込額の当期負担額を計上している。

退職給付引当金 職員の退職金の支給に備えるため、退職給与規程に基づく期末要支給額から中小企業退職金共済事業財団退職金共済給付金額を控除した額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

税抜き方式を採用している。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	26,449,887	2,180,289	0	28,630,176
公益目的資産	150,000,000	0	0	150,000,000
公益目的事業資産	200,000,000	10,000,000	0	210,000,000
事務所等の改修および取得資産	95,000,000	0	9,283,000	85,717,000
小 計	471,449,887	12,180,289	9,283,000	474,347,176
合 計	471,449,887	12,180,289	9,283,000	474,347,176

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産	0	0	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	28,630,176	-	-	28,630,176
公益目的資産	150,000,000	-	150,000,000	-
公益目的事業資産	210,000,000	-	210,000,000	-
事務所等の改修および取得資産	85,717,000	-	85,717,000	-
小 計	474,347,176	-	445,717,000	28,630,176
合 計	474,347,176	-	445,717,000	28,630,176

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(4) 附属明細書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
財基 産本		0	0	0	0
特定 資産	退職給付引当資産	26,449,887	2,180,289	0	28,630,176
	公益目的資産	150,000,000	0	0	150,000,000
	公益目的事業資産	200,000,000	10,000,000	0	210,000,000
	事務所等の改修および取得資産	95,000,000	0	9,283,000	85,717,000
	特定資産計	471,449,887	12,180,289	9,283,000	474,347,176

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	7,600,000	7,100,000	7,600,000	-	7,100,000
退職給付引当金	26,449,887	2,180,289	-	-	28,630,176

(5) 財産目録

令和2年3月31日現在

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	(単位:円) 金額	
(流動資産)	現金預金				
	現金	手許有高	運転資金として	752,189	
		北海道支部	運転資金として	42,061	
		東北支部	運転資金として	65,714	
		中部支部	運転資金として	0	
		北信越支部	運転資金として	8,222	
		近畿支部	運転資金として	215,501	
		中国・四国支部	運転資金として	14,397	
		九州支部	運転資金として	0	
		現金 計		1,098,084	
	預金	郵便振替			
		ゆうちょ銀行 1	ゆうちょ銀行 1	運転資金として	12,360,532
		ゆうちょ銀行 2	ゆうちょ銀行 2	運転資金として	3,959,827
		普通預金			
		三井住友銀行 京橋 1	三井住友銀行 京橋 1	運転資金として	86,637,302
		三菱UFJ銀行 大久保 1	三菱UFJ銀行 大久保 1	運転資金として	84,938,792
		三菱UFJ銀行 大久保 2	三菱UFJ銀行 大久保 2	運転資金として	64,874
		三菱UFJ銀行 大久保 3	三菱UFJ銀行 大久保 3	運転資金として	2,106,148
		三菱UFJ銀行 大久保 4	三菱UFJ銀行 大久保 4	運転資金として	2,462,365
		三菱UFJ銀行 神楽坂 1	三菱UFJ銀行 神楽坂 1	運転資金として	34,859
		北海道銀行 札幌駅前 1	北海道銀行 札幌駅前 1	運転資金として	1,164,645
		七十七銀行 芭蕉の辻 1	七十七銀行 芭蕉の辻 1	運転資金として	43,191
		三菱UFJ 柳橋 1	三菱UFJ 柳橋 1	運転資金として	1,975,324
		北國銀行 本店営業部 1	北國銀行 本店営業部 1	運転資金として	192,368
		三井住友銀行 備後町 1	三井住友銀行 備後町 1	運転資金として	929,865
		広島銀行 大手町 1	広島銀行 大手町 1	運転資金として	548,162
		福岡銀行 薬院 1	福岡銀行 薬院 1	運転資金として	530,602
		三菱UFJ銀行 京橋 1	三菱UFJ銀行 京橋 1	運転資金として	71,843,351
		決済用普通預金			
		三菱UFJ銀行 京橋 1	三菱UFJ銀行 京橋 1	運転資金として	1,997,624
		三菱UFJ銀行 京橋 2	三菱UFJ銀行 京橋 2	運転資金として	18,340,315
		三菱UFJ銀行 京橋 3	三菱UFJ銀行 京橋 3	運転資金として	17,317,519
		三菱UFJ銀行 京橋 4	三菱UFJ銀行 京橋 4	運転資金として	3,550,643
	三菱UFJ銀行 京橋 5	三菱UFJ銀行 京橋 5	運転資金として	8,951,420	
	三菱UFJ銀行 京橋 6	三菱UFJ銀行 京橋 6	運転資金として	219,680	
	預金 計		320,169,408		
	現金預金 計		321,267,492		
未収金	279件	公1-1・CPD継続費用	2,455,200		
	5件	公1-2・学術技術報告会	20,000		
	(株)中外	公1-3・学会誌への広告掲載料 1月号~3月号	7,008,540		
	会員・一般・丸善	公1-3・学会出版物・送付料の売掛金	1,378,871		
	会員・一般・丸善	公1-3・便覧・送付料の売掛金	904,350		
	10件	公1-3・学会誌・論文集購読料等	55,510		
			11,822,471		
在庫品	便覧113セット、バラ1004冊	公1-3・期末在庫額	9,564,891		
前払金	オム社(株)、日本郵便㈱	公1-1・初級、ステップアップ、技術講演会費外・DM等	181,245		
	(一財)大阪労働協会	公1-1・初級・中堅技術者研修会会場費等	550,320		
	日新航空サービス(株)	公1-1・大会視察費	112,413		
	JPT・ス・メール(株)	公1-1・冷凍連合講演会交通費	65,060		
	21件	公1-3・学会誌送付メール制作成費	379,080		
	JPT・ス・メール(株)	公1-3・学会誌原稿料	87,000		
	全国公益法人協会	法 役員選挙費			
	東京海上日動火災保険(株)	法 加入学協会費	34,650		
	(株)トセイ	法 会社役員賠償責任保険	299,330		
	全労済	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する貸借料	2,382,374		
	医療法人社団平成医会	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する			
		職員共済保険料			
		職員共済保険料	660,000		
	セコム損害保険(株)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する火災保険料	66,610		
			4,957,762		
その他出版事業			0		
流動資産合計			347,612,616		

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(固定資産)				0
基本財産				
特定資産	退職給付引当資金	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 7		28,630,176
	公益目的資産	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 8	公益目的事業の用に供するために継続して保有している財産	150,000,000
	公益目的事業資産	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 9 普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 1	公益目的事業に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供するために継続して保有している財産	200,000,000
				10,000,000
				210,000,000
	事務所等の改修および取得資産	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 10	事務所等の改修ならびに新たに事務所を取得する	85,717,000
				85,717,000
		小 計		474,347,176
その他				
固定資産	電話加入権	03-5206-3600他、全6回線	(共用財産) うち、公益目的保有財産80%	235,900
			管理目的の財源として使用している財産20%	47,180
	敷金・保証金	三井住友信託銀行株式会社	(共用財産) うち、公益目的保有財産80%	17,401,360
			管理目的の財源として使用している財産20%	13,921,088
		その他固定資産計		3,480,272
				17,637,260
固定資産合計				491,984,436
資産合計				839,597,052
(流動負債)	未払金	(株)東北トラベル 2件 JPビズメーロ(株) 4件 1件 1件 産興(株) 12件	公1-3・調査研究費 公1-3・学会誌原稿料等 公1-3・学会誌送付料、発送手数料 公1-3・CASCADE印税 公1-3・国際交流事業費 (ASHRAE報告会旅費) 公益目的事業の旅費・交通費 法 HP運営費 管理目的業務の旅費・交通費	77,800 24,956 965,333 300,000 65,170 1,320 71,500 359,530
				1,865,609
	未払消費税等			2,466,900
	未払法人税等			0
	前受会費	正会員 学生会員 賛助会員	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する 翌事業年度の会費	59,383,200 574,800 20,700,000
				80,658,000
	前受金	48件 3件 282件	公1-1・初級・中堅・初級ステップアップ 研修会受講料等 公1-1・記念誌広告料 公1-3・論文集購読料	1,793,700 175,000 1,768,800
				3,737,500
	預り金	職員、委員会委員等 職員	源泉所得税 地方税 (住民税)	284,383 203,300
				487,683
	仮受金	9件	法 過入金、二重入金等	98,423
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の賞与引当金	7,100,000
流動負債合計				96,414,115
(固定負債)	退職給付引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の退職給付金の引当金	28,630,176
固定負債合計				28,630,176
負債合計				125,044,291
正味財産				714,552,761

I～IVのとおり報告いたします。

令和2年4月17日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

会 長 田 辺 新 一 印

令和2年4月20日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

会 長 田 辺 新 一 殿

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

監 事 西 村 英 樹 印

監 事 竹 内 信 弘 印

監 査 報 告 書

第93期事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書及びその付属明細書並びに財産目録等について、関係書類とともにその内容を監査した結果、法令および定款に照らして正当であることを認めます。